

遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体) 工事 (南一テナガザル舎)

設計図

図 面 リ ス ト

[illegible][illegible][illegible][illegible]

特記事項		承認 代表設計者 設計担当者	 山梨建築設計監理事業協同組合	縮尺	遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事 (南一テナガザル舎)		南テ A-01 No.
	A1→N/S A3→N/S			工事名称			
		一級建築士 第145710号 佐野 正秀	一級建築士 第300579号 丹沢 浩己	設計年月日	図面名称	図面リスト	

遊亀公園附属動物園整備第Ⅱ期（建築主体）工事
南一テナガザル舎設計図

令和 年 月（全 枚）

仕 様 書

I 工事概要

敷地所在地	甲府市太田町10-1
都市計画区域	市街化区域
防火指定	無
その他の地域地区	法22条区域
道路	
敷地面積	28,507.44㎡ 商業地域2,433.67㎡ 第二種住居地域26,073.77㎡
用途地域	第二種住居地域、西側道路より20m商業地域
建坪率	第二種住居地域 60% 商業地域 80%
容積率	第二種住居地域 200% 商業地域 400%
建物の主要用途	博物館（動物園）
工事の種類	新築
棟数	1棟（併A'ダ'舎）
構造・階数	RC造2階建
建築面積	69.54㎡
延べ床面積	72.83㎡
最高の高さ	8,100mm
最高の軒高さ	6,430mm
消防法上の有窓階・無窓階	1階：無窓階 2階：有窓階
下水の放流形式	合流式

工事種目 図示の内容全て

II 工事範囲

※「3. 工事種目」全てを工事範囲とする。
・「3. 工事種目」のうち 工事範囲は下記表のとおりとする。
ただし、他の工事種目は全て今回工事範囲とする。

② 仮設工事	工事範囲全て
③ 土工事	
④ 地盤工事	
⑤ 鉄筋工事	
⑥ コンクリート工事	
7 鉄骨工事	
8 コンクリートブロック・ALCパネル 押出成形セメント板工事	
⑨ 防水工事	
10 石工事	
11 タイル工事	
⑫ 木工事	
⑬ 屋根及びとい工事	
14 金属工事	
⑭ 左官工事	
⑮ 建具工事	
17 カーテンウォール工事	
18 塗装工事	
⑯ 内装工事	
⑰ ユニット及びその他の工事	

III 建築工事仕様

1. 共通仕様
(1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房宮繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（最新版）」（以下、「標仕」という。）による。

2. 特記仕様
(1) 項目は、番号に 印の付いたものを適用する。
(2) 特記事項は、 印の付いたものを適用する。
 印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
 印と※ 印の付いた場合は、共に適用する。
(3) 特記事項に記載の（ ）内表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。
(4) 特記事項に記載の（別 ）は（5.3.7）による別図「各部配筋」の当該項目を示す。
(5) 製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また（ ）内は製品名を示す。
(6) 図印は「国等による環境物品等の調達の推進に関する法律」の特定調達品目を示す。

章 一般共通事項

① 適用基準等
・建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房宮庁宮繕部建築課監修 最新版）
・工事写真の撮り方（改訂第二版）建築編（国土交通省大臣官房宮庁宮繕部監修）

② 工事実績情報の登録 ※適用する (1.1.4)

③ 施工計画書
○工事の着手に先立ち、工事の総合的な計画をまとめた施工計画書を作成し、監督職員に提出する。(1.2.2)
○施工計画の内容を変更する必要が生じた場合は、監督職員に報告するとともに、施工に支障がないよう適切な措置を講ずる。

4 電気保安技術者 工事現場における電気保安技術者は、電気事業法に基づく電気主任技術者の職務を補佐し、電気工作物の保安の業務を行うものとする。(1.3.3)
・要
・不要

⑤ 施工条件 共一A05参考工程表を参照。(1.3.11)

⑥ 発生材の処理等 ※現場説明書による ○構外搬出適切処理 (1.3.8)

⑦ 建築材料等 本工事に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、JIS及びJASマークの表示のない材料及びその製造者等は、次の（1）～（6）の事項を満たすものとする。
(1) 品質及び性能に関する試験データが整備されていること
(2) 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること
(3) 安定的な供給が可能であること
(4) 法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること
(5) 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること
(6) 販売、保守等の営業体制が整えられていること
なお、これらの材料を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は外部機関（社）公共建築協会 他）が発行する資料等の写しを監督職員に提出して承認を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りではない。
また、備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、監督職員の承諾を受ける。

⑧ 化学物質を放散する建築材料等 建築材料の使用制限

建築材料等について、規制の対象となる範囲は下記。仕上げ材共にF☆☆☆☆または規制対象外の建材を用いることとし、該当する材料が無い場合は監督職員の承諾を受けF☆☆☆☆のものを採用するを含む）を使用すること。

⑨ 特別な材料の工法 標仕に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。

⑩ 技能士 (1.5.2)

① 電子納品
○工事関係図書を電子納品すること

・適用基準は以下の通りとする。 （作成・納品の基準、納品する資料の範囲等）

○書面による署名及び捺印の取り扱い（電子成果物の原本性保証に関する処置）
電子納品の導入にあたっては、従来の署名または捺印に代わる措置として、電子署名の導入が求められるが、電子署名の導入は現時点では困難であるため、
1） 受注者は電子媒体の内容の原本性を証明するために、電子媒体に署名又は捺印の上、提出する。
2） 共通仕様書に基づく各書面に対する署名又は捺印は、上記1）の措置を持って代えることができる

○設計図CADデータ貸与する。

○設計図CADデータの著作権は以下の者にある
貸与するCADデータを当該工事における施工図面又は完成図の作図のため以外に使用してはならない。
甲府市まちづくり部 まち整備室建築宮繕課

(1.5.9)

施工完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレンの5物質について測定し、厚生労働省で定める指針値以下の濃度であることを確認し、測定結果報告書を監督職員に提出すること。（測定結果が指針値を超えた場合は、発生源を特定し、換気などの措置を講じた後、再度測定を行う。）

測定対象科学物質	厚生労働省の指針値（25℃の場合）
ホルムアルデヒド	0.08 ppm（100μg/m ³ ）
トルエン	0.07 ppm（260μg/m ³ ）
キシレン	0.05 ppm（200μg/m ³ ）
エチルベンゼン	0.88 ppm（3,800μg/m ³ ）
スチレン	0.05 ppm（220μg/m ³ ）

測定はパッシブ型採取機器により行う。
着工前の測定 ・行う
測定対象室 ・図示 ○ 屋内観覧室
測定箇所数 ・図示 ○ 1箇所
測定結果の報告

※作成する ・作成しない (1.7.1～3）（表1.7.1）
※完成図 提出部数 ※各2部 ・部（A3版第2図面及び電子媒体（CD-R））
※施工計画書 提出部数 ※1部 ・部
※施工図 提出部数 ※1部 ・部
※保全に関する資料 提出部数 ※1部 ・部

② 化学物質の濃度測定 (1.5.9)

③ 完成図等
※作成する ・作成しない (1.7.1～3）（表1.7.1）
※完成図 提出部数 ※各2部 ・部（A3版第2図面及び電子媒体（CD-R））
※施工計画書 提出部数 ※1部 ・部
※施工図 提出部数 ※1部 ・部
※保全に関する資料 提出部数 ※1部 ・部

④ 完成写真
下記のものを監督職員に提出する。ただし、原板は撮影業者の保管とする。

分類・規格	撮影箇所数	提出部数	原板の大きさ（mm）
○カラー ※キャビネ版	外部（4）内部（各室4）	※2 ・6	※100×125以上
・カラー半切木製パネル 324×400（mm）	外部（ ）内部（ ）	※2	
○電子データ	外部（4）内部（各室4）	※2	※200万画素以上 ※300dpi以上

100×125以上の原板を使う場合は、監督職員にあらかじめべた紙を提出し確認を受ける。
電子データは、RGB（フルカラー）、JPEG形式最高画質とし、CD-Rにて提出とする。
撮影業者 ※監督職員の承諾する撮影業者（ただし、建築完成写真撮影の実績のある業者とする）

設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。

※図示

・「宮繕工事電子納品要領（令和3年3月改訂版）」による。

⑤ 設備工事との取合い

⑥ 設計G L

⑦ 工事写真

⑧ 仮設工事
① 監督職員事務所 ※設ける
規模 ・1号 ・2号 ・3号 ・4号 ・5号
○設けない
・備品（必要備品は適宜設置）
構内既存の施設
○利用できる（ ※有償 ・無償 ） ※利用できない

構内既存の施設
○利用できる（ ※有償 ・無償 ） ※利用できない

⑨ 土工事
① 埋戻し及び盛土 種類 ・A種 ※B種 ・C種 ・D種 (3.2.3）（表3.2.1）
・建設汚泥から再生した処理土 図

② 建設発生土の処理 ※現場説明書による
・構外搬出適切処理 ○構内指示の場所にたい積 ・構内指示の場所に敷き均し (3.2.5)

⑩ 地盤工事
① 既製コンクリート杭地業 種類 ※高強度プレストレストコンクリート杭 (4.3.1～2)

	杭径（mm）	杭長（m）及び種類	根手数	セツト数	備考
試験杭					
本 杭					

杭頭の処理 ※切断しない ・ (4.3.8)
先端部形状 ※開放形 ・閉そく平たん形
杭の根手 建築基準法に基づく指定又は認定を受けた根手を使用してもよい。(4.3.6)
施工法 (4.3.4～5)
・特定埋込み杭工法
工法 ・ブレイキング拡大根固め工法 ・中掘拡大根固め工法
H13国土交通1113号第6による支持力算定式でα=250程度を採用できる工法
杭周面定液 ・使用する

セメントの種類 6家コンクリート工事のセメントの種類による

2 場所打ち
コンクリート杭地業

コンクリートの種別及び設計基準強度 (4.5.4）（表4.5.1）
（ ）種かつ（ ）N/mm²以上
鉄筋の種類 5家鉄筋工事の鉄筋の種類による (4.5.4)
掘削工法 ・アースドリル工法（ ・安定液使用 ・無水掘削） (4.5.5)
・リバース工法
・オールケーシング工法（孔内の水張 ・行う ・行わない） (4.5.6)
・場所打ち鋼管コンクリート杭工法
・掘削杭工法（※安定液使用 ・ ）

側壁測定 ・行う（ ） ・行わない (4.5.4)
セメントの種類 6家コンクリート工事のセメントの種類による

③ 砂利地業 ※再生クラッシャーラン 図 ・切込み砂利及び切込み砕石 (4.6.3)

④ 床下防湿層 施工箇所 ※建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下（ピット下を除く） (4.6.5)

⑤ 鉄筋工事
① 鉄筋の種類 (5.2.1）（表5.2.1）

種類の記号	呼び名（mm）
○SD295	※D16以下 ・
○SD345	※D19以上 ・

② 鉄筋の継手 呼び名19mm以上の柱、梁の主筋 ※ガス圧接 ・重ね継手 (5.3.4)

③ 鉄筋の最小かぶり厚さ 最小かぶり厚さは目地底から算定する。(5.3.5)
・耐久性上不利な箇所の鉄筋の最小かぶり厚さは下表による。

施工箇所	横仕表5.3.6の値に加える寸法（mm）
・柱、梁、壁及び応たの外気に接する打ちし面	※10 ・

④ 既製コンクリート杭の杭頭補強 ・A形 ・B形 ※図示

5 最上階柱頭補強 ※行う ・行わない (別2.1)

⑥ 帯筋 ※H形（口は除く） (別2.2)

⑦ 壁開口部の補強 一般壁 ・A形 ※B形 ・図示 (別4.4）（別表4.3～4）
耐震壁 ※図示

⑧ 梁貫通孔の補強形式 ※H形 ・MH形 ・M形 (別7.1）（別表7.1～3）

9 機械吊上げ用フック ・A種 ・B種 ・C種 （ ケ所）

⑩ 圧接完了後の試験 ※超音波探傷試験 ・引張試験 (5.6.10)

6 コンクリート工事
① 普通コンクリートの設計基準強度 (6.2.2)

設計基準強度F _{cd} （N/mm ² ）	施工箇所
※ 36	
・ 27	

② レディーミクストコンクリートの類別 ※Ⅰ類 ・Ⅱ類 (6.2.1）（6.4.1～2）（表6.2.1）

③ スランプ 18cm (6.2.4)

④ セメントの種類 (6.3.1）（6.13.2）（表6.3.1）
※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種
・高炉セメントB種 図（ ）

普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。

水和熱	7d	352 J/g 以下
	28d	402 J/g 以下

⑤ 骨材の種類 アルカリシリカ反応による区分 (6.3.1)
・B（※コンクリート中のアルカリ総量Rt=3.0kg/m³以下）

⑥ 混和材料 混和材 仕様箇所 屋外タタキ部分を除く全体：コンクリート躯体防水剤
躯体軸部：高性能AE減水材

7 無筋コンクリート 設計基準強度 ※18N/mm² (6.14.1)

8 コンクリート躯体表面の処理 外装タイル後張り面の躯体表面の処理
MCR工法を行う場合は、せき板面にMCR工法用気泡ポリエチレンシート張りとし、仕上がり面凹凸状態とする。高圧水洗工法の目視しを行う場合は、水圧50 N/mm²以上かつ、2.5分/m²以上とし、施工計画書を監督に提出し承諾を受ける。また、目視しの状態は、事前に監督職員に承諾を受ける。

コンクリートの増打ち厚さ ※20mm

※施工範囲は図示による。

⑨ 断熱材兼用型枠 適用及び適用箇所について
標仕19章内装工事9断熱材による。

特 記 事 項

承認

代表設計者

設計担当者

縮 尺
A1→N/S A3→N/S
設計年月日

遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事
(南一テナガザル舎)

工事名称

図面名称 特記仕様書 1

山梨建築設計監理事業協同組合

南テ A-02
No.

7鉄骨工事

1鉄骨の製作工場

製作工場の加工能力
・監督職員の承諾する製作工場
・建築基準法第77条の45第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター又は(社)全国鐵構工業協会の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「(R)グレード以上」として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場。

入熱、バス間温度の溶接条件
適用箇所・図示・柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部
鋼材と溶接材料の組み合わせと溶接条件
※図示

2施工管理技術者

3鋼材

鋼材の材質

種類

使用箇所

規格等

改良型スカラップ

鋼製エンドタブ

切断する箇所

※トルシア形高力ボルト・JIS形高力ボルト・溶融亜鉛めっき高力ボルト

AQQL

検査水準

試験の種類

試験箇所

試験方法

※超音波探傷試験

完全溶込み溶接部

※標仕7.6.11(b)による

・放射線試験

・マクロ試験

耐火検証

種別

所要性能及び適用構造部位

・ラス張りモルタル塗り

・耐火材

吹付け

・乾式吹付けロックウール

・半乾式吹付けロックウール

・湿式ロックウール

・耐火板張り

・構造用アンカーボルト

・建方用アンカーボルト

※A種・B種

柱底均しモルタル工法

※A種・B種

無収縮モルタル

混和材

セメント

砂

配合比

無収縮モルタルの品質及び試験方法

コンシステンシー

ブリージング

凝結時間

無収縮性

圧縮強度

付着強度

塩化物量

試験方法

溶融亜鉛めっき工法

亜鉛めっきの種類

材

適用部位

1天然石張り

2テラゾ張り

8コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事

1補強コンクリートブロック造

※空窓ブロック16・空窓ブロック16-W

2コンクリートブロック

※標仕表8.3.1及び下表による

適用箇所

厚さ(mm)

・間仕切壁

・地下二重壁

・外壁

・塀

・衛生配管用裏積みブロック

3ALCパネル

種別

単位荷重(N/m²)

厚さ(mm)

取付け工法種別

・外壁パネル

・間仕切壁パネル

・屋根パネル

・床パネル

・床パネルの耐火性能

4押出成形セメント板(ECP)

種別

表面形状

厚さ(mm)

幅(mm)

工法種別

・外壁パネル

・間仕切パネル

耐火性能

1アスファルト防水

防水工事

種別

施工箇所

・A-1・A-2・A-3

・A1-1・A1-2・A1-3

・B-1・B-2・B-3

・B1-1・B1-2・B1-3

・D-1・D-2・D-3・D-4

・D1-1・D1-2

・E-1・E-2

アスファルト

厚さ(mm)

断熱工法の断熱材

立上り部の保護

2改質アスファルトシート防水

種別

厚さ

施工箇所

・AS-T1・AS-T2

・AS-T3・AS-T4・AS-J1

・AS I-T1・AS I-J1

3合成高分子系ルーフィングシート防水

種別

厚さ(mm)

施工箇所

仕上り塗料塗り

使用分層

・S-F1

・S-F2

・S-M1

・S-M2

・S-M3

・S1-F1

・S1-F2

・S1-M1

・S1-M2

・S-C1

4塗膜防水

種別

施工箇所

備考

・X-1

・X-2

・Y-1

・Y-2

5ケイ酸系塗布防水

種別

施工箇所

備考

・C-U-I

・C-U-P

シーリング

下表以外は、標仕表9.7.11による

施工箇所

シーリング材の種類(記号)

1天然石張り

2テラゾ張り

3壁の石張り工法

外壁石張り工法

内壁石張り工法

4床及び階段の石張り

床石張りの裏面処理

11タイル工事

1陶磁器質タイル

タイルの種類

施工箇所

形状寸法(mm)

きじ

うわぐすり

役物

色

再生材の有無

備考

2張り付け用材料

既製調合モルタル

保水率

単位容積質量

接着剤のホルムアルデヒド放散量

3壁タイル張りの工法

内装タイル

外装タイル

4陶磁器質タイル型枠先付け工法

種別

適用タイル

タイル型枠先付け面のせき板

12木工事

1木材の品質

※標仕12.2.1

2樹種

3集成材等

品名

規格・品質

芯材の種類

化粧単板の樹種

4接着剤

接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする

5防蟻・防蟻処理

行う箇所

防蟻処理

防蟻処理

6床板張り

フローリング及び緩甲板張り床

下張り用床板

床板

1長尺金属板葺

屋根葺形式

長尺金属板の種類

板厚(mm)

2折板葺

形式

形状(mm)

材料

軒先面戸板

断熱材

耐火性能

3とい

材種

鋼管製といの防露

掃除口

14金属工事

1ステンレスの表面仕上げ

2アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理

3鉄鋼の亜鉛めっき

4金属成形板張り

5アルミニウム製笠木

手すり及びタラップ

15左官工事

1モルタル塗り材料

吸水調整材

防水剤の種類

セメント重量の5%以下

2床コンクリートの直均し仕上げ

3仕上塗材仕上げ

種別

呼び名

仕上げの形状等

○薄付け仕上塗材

○外装薄塗材S i

○可とう形外装薄塗材S i

○内装薄塗材E

○内装薄塗材E

○可とう形外装薄塗材E

○防水形外装薄塗材E

○外装薄塗材S

○内装薄塗材C

○内装薄塗材L

○内装薄塗材S i

○内装薄塗材W

・複層仕上塗材

・複層仕上塗材C E

・可とう形複層塗材C E

・複層塗材S i

・複層塗材E

・複層塗材R E

・複層塗材R S

・防水形複層塗材C E

・防水形複層塗材E

・防水形複層塗材R S

・軽量骨材仕上塗材

建物内部に使用するユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量

※規制対象外・第三種

防火材料の指定

※屋内の壁、天井の仕上り材は防火材料とする。

特記事項

承認

代表設計者

設計担当者

縮尺

工事名称

図面名称

遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事(南テナガザル舎)

特記仕様書2

山梨建築設計監理事業協同組合

南テ A-03 No.

⑩

建具工事

1

見本の製作等

・特殊な建具の取組（建具符号： ）

(16.1.4)

2

アルミニウム製建具

外部に面する建具

(16.2.2) (16.2.4) (表16.2.1)

種 別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み (mm)	施工箇所
○A種	S-4	※A-3	※W-4	※70	※図示
・B種	S-5			○100	※図示
・C種	S-6	A-4	W-5	特記による	※図示

断熱等級・
枠・障子：
ガ ラ ス：
表面処理 ※B-1種・B-2種（・ブラウン系・ブラック・ステンカラー）

(表14.2.1)

屋内建具
表面処理 ※C-1種又はB-1種
・C-2種又はB-2種（・ブラウン系・ブラック・ステンカラー）

(表14.2.1)

網戸
防虫網
網の種類 ※ガラス繊維入り合成樹脂製・合成樹脂製・ステンレス製（SUS316）
形 式 ※外部可動式 ○固定式

(16.2.3)

3

樹脂製建具

建具の性能及び構造の適用は建具表による
製造所標準仕様による

(16.3.2)
(表16.3.3)

4

鋼製建具

簡易気密型ドアセットの適用は特記による
耐風圧性の適用は建具表による
特定防火設備の戸・適用あり

(16.4.2) (表16.4.1)

5

鋼製軽量建具

簡易気密型ドアセットの適用は建具表による

(16.5.2)

6

ステンレス製建具

簡易気密型ドアセットの適用は建具表による
耐風圧性の適用は建具表による
表面仕上げ ※H1程度・鏡面仕上げ・
曲げ加工 ※普通曲げ・角出し曲げ（補強あり）
特定防火設備の戸・適用あり

(16.6.4)
(16.6.5)
(表16.6.1)

7

木製建具

かまち戸の樹種 かまち（ ） 鏡板（ ）
ふすまの上張り
※新高の子又はビニル紙程度（押入等の裏面は除く）・鳥の子
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒドの放散量
※規制対象外・第三種

(16.7.2)
(表16.7.3～10)
(16.7.2)

8

建具用金物

マスターキー ○製作する・製作しない
建具用金物
錠類はシンダナー箱錠（レバーハンドル）とする
なお、錠前類は建具製作所の指定するものとし、監督職員の承認を受ける

(16.8.4)
(16.8.6)
(表16.8.1～5)
(16.8.2)

9

自動ドア開閉装置

開閉方法

センサの種類

※スライディングドア
・スイングドア

・マツトスイッチ
・電子マツトスイッチ
※光軸スイッチ
・音波スイッチ
・熱線スイッチ
・光電スイッチ

・凍結防止措置（適用箇所は建具表による）

(16.9.2～3) (表16.9.1～3)

10

自閉式上吊り引戸装置

品質規格 ※標仕16.10.1による
・製造所標準仕様による

(16.10.2～3)
(16.11.2)

11

重量シャッター

シャッターの種類

耐風圧性能（ ） N/m²

・一般重量シャッター

・外壁用防火シャッター

・屋内用防火シャッター

・屋内用防煙シャッター

開閉機能 ※上部電動式（手動併用）・上部手動式

(16.11.2) (表16.11.1)

12

軽量シャッター

危害防止機構
※障害物感知装置（自動閉鎖型）
・シャッターの二段降下方式
一般重量シャッターのシャッターケース ※設ける・設けない
開閉形式 ※手動式・上部電動式（手動併用）
スラット 材質 ※塗装溶融垂れつき鋼板・鋼板
形状 ※インターロック型形・オーバラッピング形
ガイドレール等 ※鋼板製・ステンレス製SUS304（厚さ1.5mm）
耐風圧性能（ ） N/m²

(16.12.2) (表16.12.1)
(16.12.3)
(16.12.4)
(表16.12.2)

13

オーバーヘッドドア

セクション材料

開閉方式

収納形式

ガイドレール

※スチールタイプ
・アルミニウムタイプ
・ファイバーグラスタイプ

※バランス式
・チェーン式
・電動式

・スタンダード形
・ローヘッド形
・ハイリフト形
・パーチカル形

・溶融垂れつき鋼板
※ステンレス鋼板
(SUS304)

耐風圧性能（ ） N/m²

(16.13.2～3)

14

ガラス

※建具表による
・ガラスブロック 標仕16.14.5による
表面形状 呼び寸法 (mm) 厚さ (mm) 色調 防火性能
・正方形
・長方形

(16.14.2)
(16.14.5)

ガラス留め材及び溝

ガラス留め材

(16.14.2) (表9.7.1)

建具の種類	材 種
アルミニウム製	※シーリング材・ガスケツト（FIX部はシーリング材）
鋼製及び鋼製軽量	※シーリング材
ステンレス製	※シーリング材

防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能を有するものとする。
標仕16.14.3 以外のアルミニウム製建具及び板ガラスの場合は（社）日本建築学会
JASS 17ガラス工事「3.1納まり寸法標準」によるほか、性能値が確認できる資料を
監督職員に提出する

(16.14.3)

名 称	種 類	張り面	性能値
※ガラス飛散防止フィルム	第2種	※内張り・外張り	飛散防止率 D 1

品質 JIS A 5759による

2

金属材料カーテンウォール

カーテンウォール工事

設計図書による規定の他、特記無き事項は（社）日本建築学会JASS14による。

カーテンウォール材料の種類

(17.2.2)

種 類

規格等

※アルミニウム製

※標準仕16.2.3のアルミニウム製建具の材料による

カーテンウォール方式

・立方式
・バクマリオン方式（・単純2辺支持構法 ・SSG構法）
・スパンドレル方式
・パネル方式
・小型パネル組み合わせ方式（・ノックダウン方式 ・ユニット方式）

シーリング材及びガラス取付け材料

下記以外は標準仕様9.7.1による

(9.7.2) (17.2.2) (表9.7.1)

被着体の組合せ

記 号

主成分による区分

耐久性による区分

金属

ガラス

石、タイル

ガラス

ガラス

構造用ガスケット ※適用しない

・適用する（施工箇所：図示）

(17.2.2)

断熱材 ※適用しない

・適用する（種類： 厚さ（mm） ：施工箇所※図示）

(17.2.2)

製品の寸法許容差

※標準仕様17.2.1による

(17.2.3) (表17.2.1)

・製造所標準製作規定寸法許容差による

(17.2.5) (表17.2.2～3)

(17.2.3) (表14.2.1)

アルミニウムの表面処理

(17.2.3) (表14.2.1)

種 別

色彩等

・A-1種

・B-1種

無着色

・A-2種

・B-2種

※ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー

・着色塗装

塗装材料（ ）

焼付け方法（ ）

コート（ ）

ベーク

耐風圧性能

(17.1.3)

性能値 ※建築基準法施行令第87条及び建設省告示第1454号に定められた風圧力に対して安全であること。

・正圧 N/m²以上及び負圧 N/m²以上に対して安全であること。

主要部材のたわみ

支点間距離（h）

たわみ量

状 態

※4m以下

※±（1/150）×h

※各部の破損、残留変形

・4mを超える

かつ絶対量20mm以下

有害な変形が起こらないこと

耐震性能

(17.1.3)

設計用震度

水平方向（K_H） ※1.0

垂直方向（K_V） ※0.5

建物の構造種別

層間変位量（h=支点間距離）

状 態

鉄骨造

※±（1/100）×h以上

※部材の脱落、ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらない

鉄筋コンクリート造

※±（1/200）×h以上

シーリングは補修程度

鉄骨鉄筋コンクリート造

水密性

・W-4 ・W-5

(17.1.3)

気密性

・A-3 ・A-4

(17.1.3)

耐火性能

※適用しない ・適用する 時間、施工箇所：図示

映像調整

行わない ・行う（建具表による）

製造所

性能等の確認できる資料を提出し監督職員の承諾を受ける

設計図書による規定の他、特記無き事項は（社）日本建築学会JASS 14による。

(17.3.2)

コンクリートの種類及び品質

※標準仕17.3.2による

・下表による。ただし、下表以外は標準仕17.3.2による。

コンクリートの種類

設計基準強度（F_c）

所要スランプ（cm）

鉄筋

※SD295A

取付け用金物の表面処理（亜鉛めっき）及び材質

(14.2.3) (表14.2.2)

金物種類及び部位

内 部

外 部

P C板打込み金物

※E種

・

※A種

・

P C板打込み取付けボルト

※E種

・

※ステンレスボルト

・

2次ファスナー

※E種

・

※A種

・

取付けボルト

※E種

・

※A種

・

レベル調整ボルト

※E種

・

※A種

・

上記以外にはカーテンウォール製作所の仕様による

シーリング材料

下記以外は標準仕様9.7.1による

(9.7.2) (17.3.2) (表9.7.1)

施工箇所

記 号

主成分による区分

耐久性による区分

カーテンウォール板間目地

断熱材

※適用しない

・適用する（種類： 厚さ（mm） ：施工箇所 ※図示）

製品の寸法許容差

※標準仕様17.3.1による

(17.3.3) (表17.3.1)

・製造所標準製作規定寸法許容差による

表面仕上げ

()

耐火材料

施工部位

種 別

規格等

・ファスナー部

・取付けブラケット

・パネル目地部

・層間ふさぎ

耐風圧性能

(17.1.3)

性能値 ※建築基準法施行令第87条及び建設省告示第1454号に定められた風圧力に対して安全であること。

・正圧 N/m²以上及び負圧 N/m²以上に対して安全であること。

耐震性能

(17.1.3)

設計用震度

水平方向（K_H） ※1.0

垂直方向（K_V） ※0.5

建物の構造種別

層間変位量（h=支点間距離）

状 態

鉄骨造

※±（1/100）×h以上

※部材が損傷せず、破損脱落もしない。
ガラス等の破損もない

鉄筋コンクリート造

※±（1/200）×h以上

シーリングは補修程度

鉄骨鉄筋コンクリート造

3

PCカーテンウォール

⑩ 塗装工事

① 材料

② 素地ごしらえ

屋内の壁及び天井の塗装の仕上は、建築基準法に基づき基材同等の認定のあるものとする。(18.1.1)

各部の素地ごしらえ(18.2.1~7)(表18.2.1~7)

木部	※A種(不透明塗料塗)	※B種(透明塗料塗)
鉄鋼面	・A種・B種	※C種
亜鉛めっき鋼面	・A種・B種	・C種
モルタル・プラスター面	・A種	※B種
コンクリート・ALCパネル面	・A種	※B種
コンクリート・押出成形セメント板面	・A種	・B種
ボード面	※A種(鉄目処理工法)	※B種(その他)

③ 錆止め

塗料の種類(18.3.1~2)

鉄鋼面	※A種	※B種(標準仕様書8節の場合)
亜鉛めっき鋼面	※A種	・B種(標準仕様書8節の場合)

錆止め塗料塗り(18.3.1)

鉄鋼面	※A種(見え掛り)	※B種(見え隠れ)
亜鉛めっき鋼面	※A種(鋼製建具等)	・B種

④ 合成樹脂適合ペイント塗り(SOP)

合成樹脂適合ペイント塗り 木部 鉄鋼面 亜鉛めっき鋼面(18.4.1)

塗料の種類 ※1種・2種(表18.4.1~3)

合成樹脂適合ペイント塗り

鉄鋼面	・A種	※B種
木部	※A種(屋外)	※B種(屋内)

⑤ クリアラッカー塗り(CL)

木部のクリアラッカー塗り(18.5.1)(表18.5.1)

⑥ アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り(NAD)

アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り(屋内)・A種 ※B種(18.6.1)(表18.6.2)

コンクリート・モルタル面

⑦ 耐候性塗料塗り(DP)

耐候性塗料塗り(屋外)(18.7.2~3)(表18.7.1~4)

上塗りの等級・特記による

鉄鋼面 工程<下塗り→研磨→中塗り→上塗り>は表18.7.2による

亜鉛めっき鋼面 工程<下塗り→研磨→中塗り→上塗り>は表18.7.3による

コンクリート面及び押出成形セメント板面の種類(18.7.4)(表18.7.3)

コンクリート面・鉄鋼面(屋内)・鉄鋼面(屋外)・C種 種類は表18.7.3の特記による

⑧ つや有り合成樹脂エマルションペイント塗り(E-P-G)

つや有り合成樹脂エマルションペイント塗り

コンクリート・モルタル・プラスター・石こうボード・その他のボード面	・A種	※B種
木部(屋内)(多孔質広葉樹を除く)→仕様工程等は、表18.8.2による	鉄鋼面(屋内)	※B種

⑨ 合成樹脂エマルションペイント塗り(E-P)

合成樹脂エマルションペイント塗り

コンクリート・モルタル・プラスター・石こうボード・その他のボード面	・A種	※B種
-----------------------------------	-----	-----

⑩ 合成樹脂エマルション模様塗料塗り(E-P-T)

合成樹脂エマルション模様塗料塗り(屋内)

コンクリート・モルタル・プラスター・石こうボード・その他のボード面	・A種	※B種
-----------------------------------	-----	-----

⑪ ウレタン樹脂ワニス塗り(U-C)

木部のウレタン樹脂ワニス塗り(18.11.2)

⑫ ラッカーエナメル塗り(L-E)

ラッカーエナメル塗り(18.12.2)

⑬ オイルステイン塗り(OS)

オイルステイン塗り

仕様工程は、表18.13.1による

素地ごしらえ→1回目塗り→ふき取り→2回目塗り→ふき取り

⑭ 木材保護塗料塗り(WP)

木材保護塗料塗り(18.13.1)

⑪ 内装工事

② ビニル床シート張り及びビニル床タイル張り

③ ビニル床シート

JIS A5705のJIS表示認証製品(19.2.1~4)(表19.2.1~2)

種類	記号	色 柄	厚さ(mm)	特殊機能	工 法
※ 発泡層のもの	※FS	・無地	※2.0	・帯電防止	・熱融接
・ 発泡層のあるもの	・HS	・マーブル	○2.5	・帯電荷重	・炎付け
	・KS				

・化粧ビニル床シート

JIS A5705のJIS表示認証製品で、表面は印刷シートに透明表層を有した木目又は石目調のもの

種類の記号	色 柄	厚さ(mm)	特殊機能	工 法
FS	・ 木目調	※2.0	・帯電防止	・熱融接
	・ 石目調	※2.5	・帯電荷重	・炎付け

上記以外はすべてビニル床シートに同じ

・ビニル床タイル

JIS A5705のJIS表示認証製品

種類	記号	寸法	厚さ(mm)	特殊機能
※ コンポジション	※KT	※300×300	・2.0	・帯電防止
・ ビニル床タイル				・耐動荷重
・ ホモジニアス	・FT	・300×300	・2.0	・帯電防止
・ ビニル床タイル		・450×450		・耐動荷重

・特殊機能床材

帯電防止

・帯電防止性能評価(JIS A 1445) 1.2~3.1程度

又は耐電圧(JIS L 1023)3kV以下

・帯電防止性能評価(JIS A 1445) 3.2~5.1程度

又は漏えい抵抗値(JIS A 1454)0.1×10¹⁰オーム未満

・帯電防止性能評価(JIS A 1445) 5.2以上

又は漏えい抵抗値(JIS A 1454)0.1×10⁷オーム未満

耐動荷重

JIS A 1454によるへこみ試験、残留へこみ試験、滑り試験、層間剝離強度試験(発泡層のあるビニルシートのみ)およびキャスター試験等の試験後異常がないこと。

・視覚障害者用床タイル

材 質		寸 法(mm)	
・塩化ビニル系・セッテリタイル系		300×300	

・ビニル幅木

材 種		※軟質	・硬質	・溶接
高 さ(mm)	※60	・75	・100	
厚 さ(mm)	※1.5	・2.0		

・接着剤

JIS A 5536(床仕上げ材接着剤)により、種別は表19.2.1による施工箇所に応じたものとする。ホルムアルデヒド放散量は特記による。特記がなければ☆☆☆☆とする。

③ カーペット敷き

・織じゅうたん

(19.3.1~4)(表19.3.1)

種 別	バイル形状	色柄等	備 考
・A種	・カットバイル	※無地	
・B種	・ループバイル	・柄物(標準系)	
・C種	・カット、ループバイル併用		

耐電性 ※人体帯電圧3kV以下

・タフテッドカーペット(19.3.3~4)(表19.3.2)

バイル形状	バイル長(mm)	工 法	備 考
・カットバイル	※5~7	※全面接着工法	下敷き材を敷く。
・ループバイル	※4~6	・グリッター工法	
・レベルファバイル	※4		
・カット、ループ併用			

耐電性 ※人体帯電圧3kV以下

・タイルカーベット

バイル形状

種 別

※ループバイル

・第一種

・第二種

・カットバイル

・カット、ループ併用

寸法 (mm)

総厚さ (mm)

備 考

貼着はく離形接着剤を使用する。

耐電性 ・人体帯電圧3kV以下 (フリーアクセスフロア敷設範囲)

(表19.4.1~4) (表19.4.1~8)

合成樹脂床

種 別

・弾性ウレタン塗床材

・エポキシ樹脂塗床材

仕上げの種類

※平滑仕上げ ・防汚仕上げ ・つや消し仕上げ

・薄膜流し展べ仕上げ

・厚膜流し展べ仕上げ (・平滑 ・防汚)

・樹脂モルタル仕上げ (・平滑 ・防汚)

・防汚仕上げ

特記による

フローリング張り

・単層フローリング

種 別

・ フローリング

ボード

・ フローリング

ブロック

・ モザイク

パーケット

樹種

※ナラ

※ナラ

※ナラ

・ ナラ

・ サクラ

厚さ (mm)

幅 75

長さ900以上

303×303

・ 6 ・ 8 ・ 9

工法

・ 釘止め工法

・ 接着工法

・ 接着工法

・ 接着工法

塗装

※ウレタン樹脂

ワニス塗り

・ オイルステン

塗りの上

ワックス

・ 生地のまま

ワックス

・ 既装製品

(表19.5.1~7) (表19.5.1~6)

・複層フローリング

種 別

・ 複合1種

フローリング

・ 複合2種

フローリング

・ 複合3種

フローリング

・ 大型積層

フローリング

樹種

※ナラ

・ サクラ

・ ヒノキ

・ ナラ

・ サクラ

種別

・ A種

・ B種

※C種

防湿処理

・ 行う

・ 行わない

・ 行う

・ 行わ

ない

工法

・ 釘止め工法

・ 接着工法

・ 特殊張り

工法

(体育館床)

塗装

※ウレタン樹脂

ワニス塗り

・ オイルステン

塗りの上

ワックス

・ 生地のまま

ワックス

・ 既装製品

畳敷き

畳の種別

・ A種

・ B種

・ C種

・ D種 ()

(表19.6.2) (表19.6.1)

せっこうボード

その他ボード

及び合板張り

種 類

・硬質木毛セメント板

・普通木毛セメント板

○強化陸カシウム板

・ロックウール化粧吸音板

・ロックウール化粧吸音板

(軒天井用)

・せっこうボード

・不燃積層せっこうボード

・シーシングせっこうボード

・強化せっこうボード

・せっこうラスボード

・化粧せっこうボード(木目)

・難燃合板

・メラミン樹脂化粧板

・ミディアムデンシティ

ファイバーボード

・単板張りパーティクルボード

・ハードボード(素地)

・インシュレーションボード

JISの記号

HW

NW

0.8 F K

D R

D R (凹凸)

D R (軒天)

D R (軒天凹凸)

G B - R

G B - N C

G B - S

G B - F

G B - L

G B - D

G

M D F

G

H B

I B

厚さ (mm) 、規格等

・ 15 ・ 20 ・ 25

・ 15 ・ 20 ・ 25

タイプ2 (無糸縁) (○) ・ 8

※フラットタイプ (※9 (不燃) ・ 12)

・ 凹凸タイプ (※12 (不燃) ・ 15 ・ 19)

※フラットタイプ 9 (不燃)

・ 凹凸タイプ (※12 ・ 15) (不燃)

※12.5 (不燃) ・ 9.5 (準不燃)

9.5 (不燃) 化粧無 (下地張り用)

化粧有 (トラバーチン模様)

12.5 (不燃)

12.5 (不燃) 15.0 (不燃)

9.5

9.5 (不燃) 幅40mm程度

繊維 (※柱目 ・ 板目) 専用下地材付き

・ 生地、透明塗料塗り (ラウン合板程度)

・ 不透明塗料塗り (しな合板程度)

JIS K 6903による 厚さ1.2

・ 3 ・ 7 ・ 9 ・ 12

・ 無研磨板 ・ 研磨板

・ 10 ・ 12 ・ 15 ・ 18

・ 無研磨板 (スタンダード ・ テンパード)

・ 研磨板 (スタンダード ・ テンパード)

A級 (・ 天井仕上 ・ 内装仕上)

・ 9 ・ 12 ・ 15 ・ 18

合板類、繊維板、及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量

※規制対象外 ・ 第三種

軽重量鉄骨下地ボード造音壁の造音シール材

※適用する ・ 適用しない

吸音材

(表19.7.1)

壁紙張り

施工箇所

紙

繊維

(織物)

・ その他

(ビニル)

無機質

(化学繊維)

防火性能

・ 不燃・準不燃・難燃

・ 不燃・準不燃・難燃

・ 不燃・準不燃・難燃

備 考

素地ごしらえ

モルタル、プaster一面 ※B種 ・ A種 (施工箇所：)

せっこうボード面 ※B種 ・ A種 (施工箇所：)

壁紙のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・ 第三種

(表18.2.4~5) (表18.2.7)

(表19.2~3)

断熱・防露

種 類

○押出法

ポリスチレン

フォーム

保温板

・硬質ウレタン

フォーム

・現場発泡断熱材

・断熱材用型枠

・木質系

・コンクリート系

・プラスチック系

施工箇所

○縁地部分

※一般部

○壁上

※断熱材補修部分

・一般部

製造所 性能の確認できる資料を監督職員に提出する

※壁 (図示の範囲) ※40以下

製造所 建設技術評価「建築物の断熱材用型枠工法の開発」において、評価を取得したもの

厚さ (mm)

・ 25

○50

・ 25

・ 50

○50

—

・ 15

・ 40

品質等

特定フロンを使用しないもの

特定フロンを使用しないもの

特定フロンを使用しないもの

・ 3級 ・ 2級

断熱抵抗

= 厚さ / 熱伝導率

= 0.076以上

(m² · k/w)

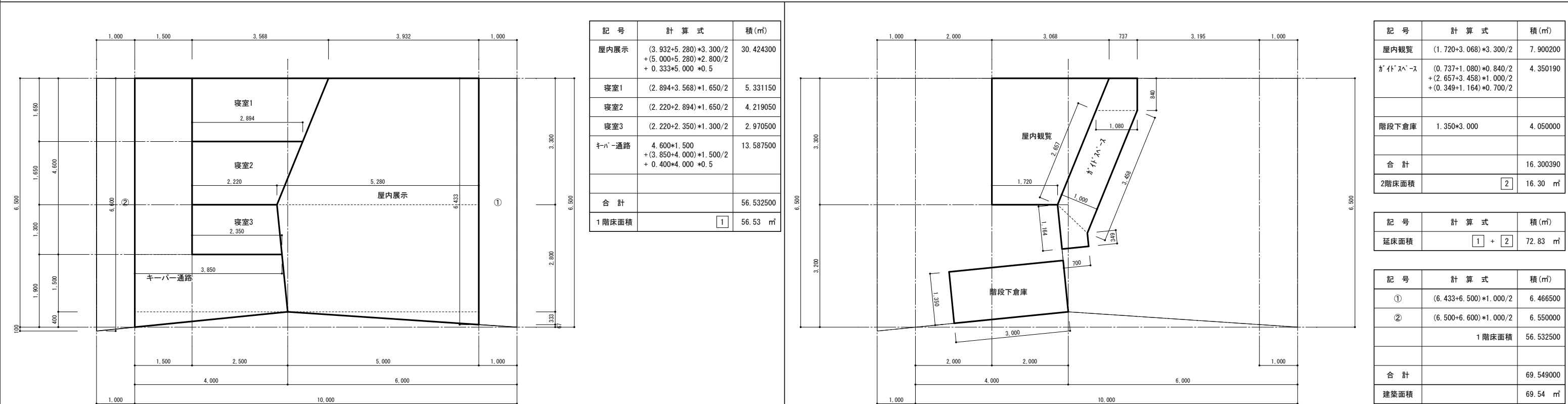
ロックウール、グラスウール、フェノールフォーム、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した

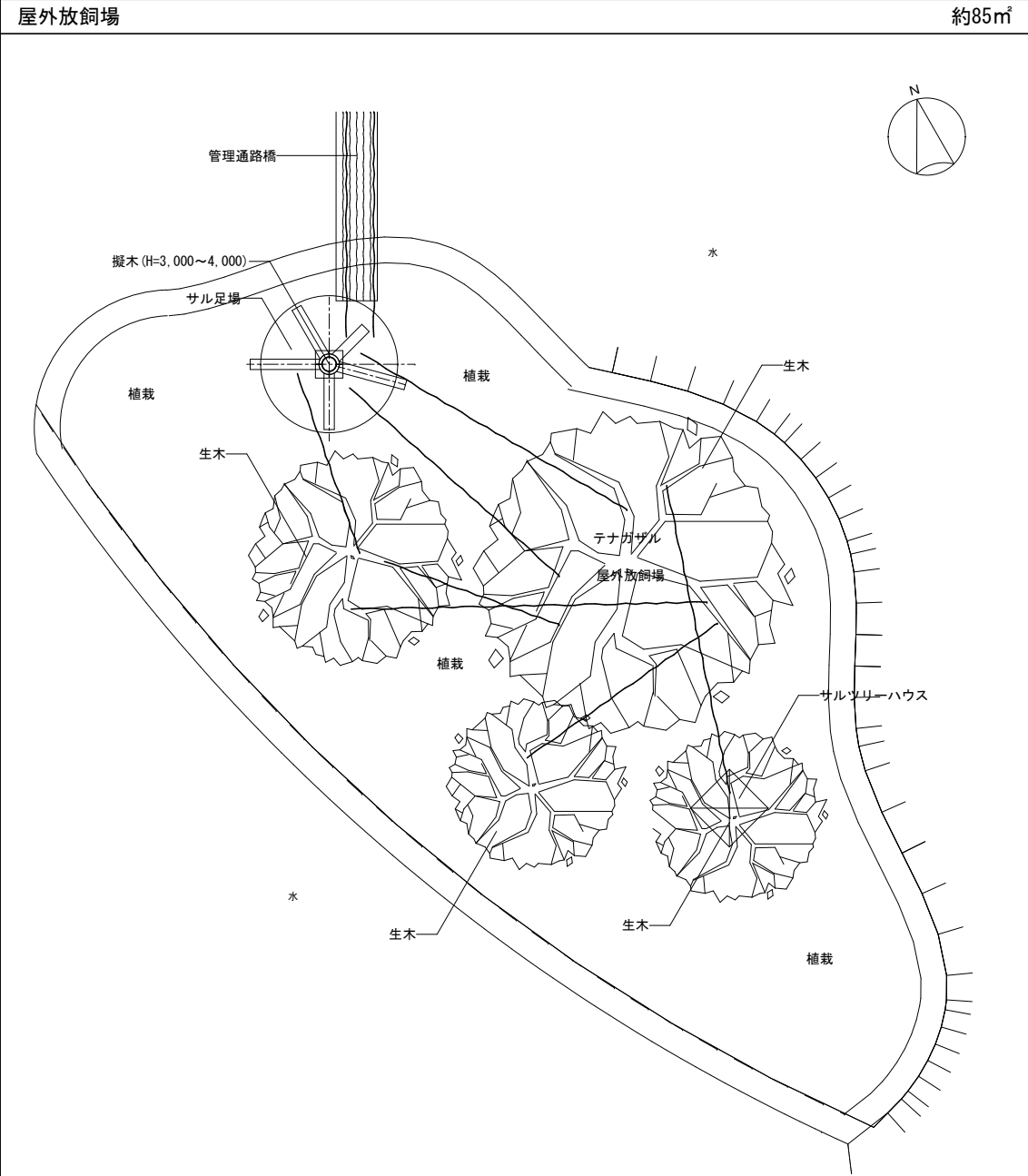
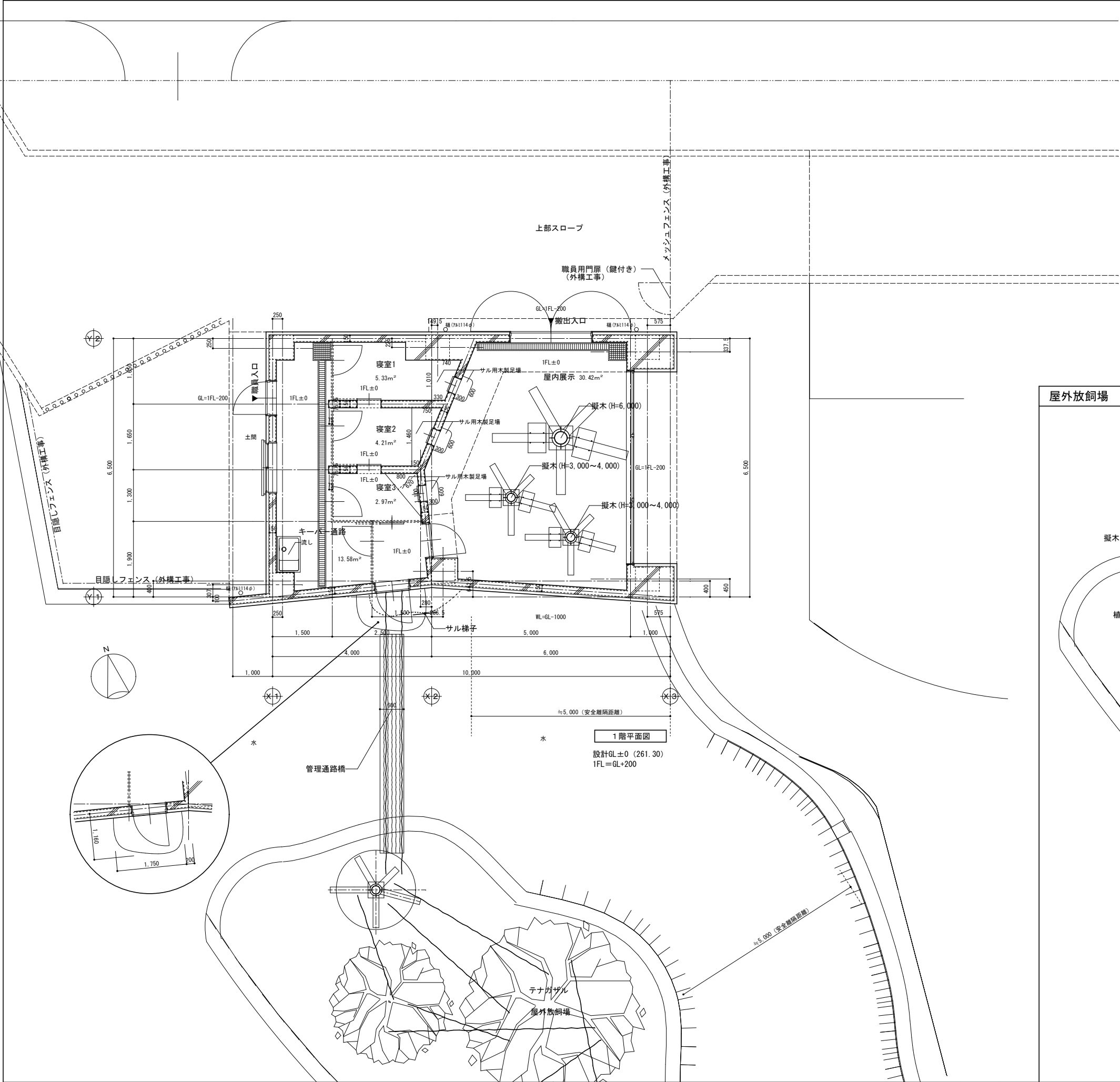
断熱材のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・ 第三種


外 部 仕 上 表			
部位	仕上	部位	仕上
テナガザル舎			
屋上 屋上屋上展望広場	コンクリート金ゴテ下地 アスファルト防水の上押えコンクリート（100角ワイヤーメッシュφ6）型枠模様仕上 目地切り	庇	アルミ既製品 W=2000, D=1000
外壁	普通合板型枠コンクリート下地、断熱材：ビーズ法ポリスチレンフォームt=50、ガラスメッシュ、モルタル塗りプライマーの上アクリル樹脂系仕上塗材 池面1FLから下：普通合板型枠コンクリート下地、ウレタン塗膜防水	樋・ドレイン	アルミ（ステンカラー） 114φ
軒天	普通合板型枠コンクリート下地、断熱材：ビーズ法ポリスチレンフォームt=50、ガラスメッシュ、モルタル塗りプライマーの上アクリル樹脂系仕上塗材	断熱材	外断熱工法：床/硬質ウレタンフォームt=50 壁/ビーズ法ポリスチレンフォームt=50
開口部	アルミサッシ、アルミ樹脂複合サッシ、鋼製建具	ガラス	強化合わせガラス FLγ10.0 + FL γ10.0 FL γ5.0 + A6 + FL γ3.0 FL γ5.0
屋外階段	コンクリート金ゴテ仕上げの上浸透性遮水・防水剤 ノンスリップタイル	土間	コンクリート金ゴテ仕上
<div><凡例（塗装記号）> ・E P ー 合成樹脂エマルションペイント ・E P－G ー つや有合成樹脂エマルションペイント ・S O P ー 合成樹脂調合ペイント ・O S C L ー オイルステイン・クリヤラッカー ・溶融亜鉛メッキー A種 (6mm以上)・B種 (3.2mm以上)・C種 (1.6mm以上)</div>		<div><メーカーリスト（同等品以上）> ・庇 ：アルミ既製品：A D 3 S【アルフィン】 ・外壁：ビーズ法ポリスチレンフォーム=50、ガラスメッシュ、モルタル塗り、プライマーの上、アクリル樹脂系仕上塗材：エコサームRC用【東邦レオ】 ・外壁：ウレタン塗膜防水：クイックスプレー【タイフレックス】 ・浸透性遮水・防水剤：ナノリフレッシュコート：【フッコー】</div>	

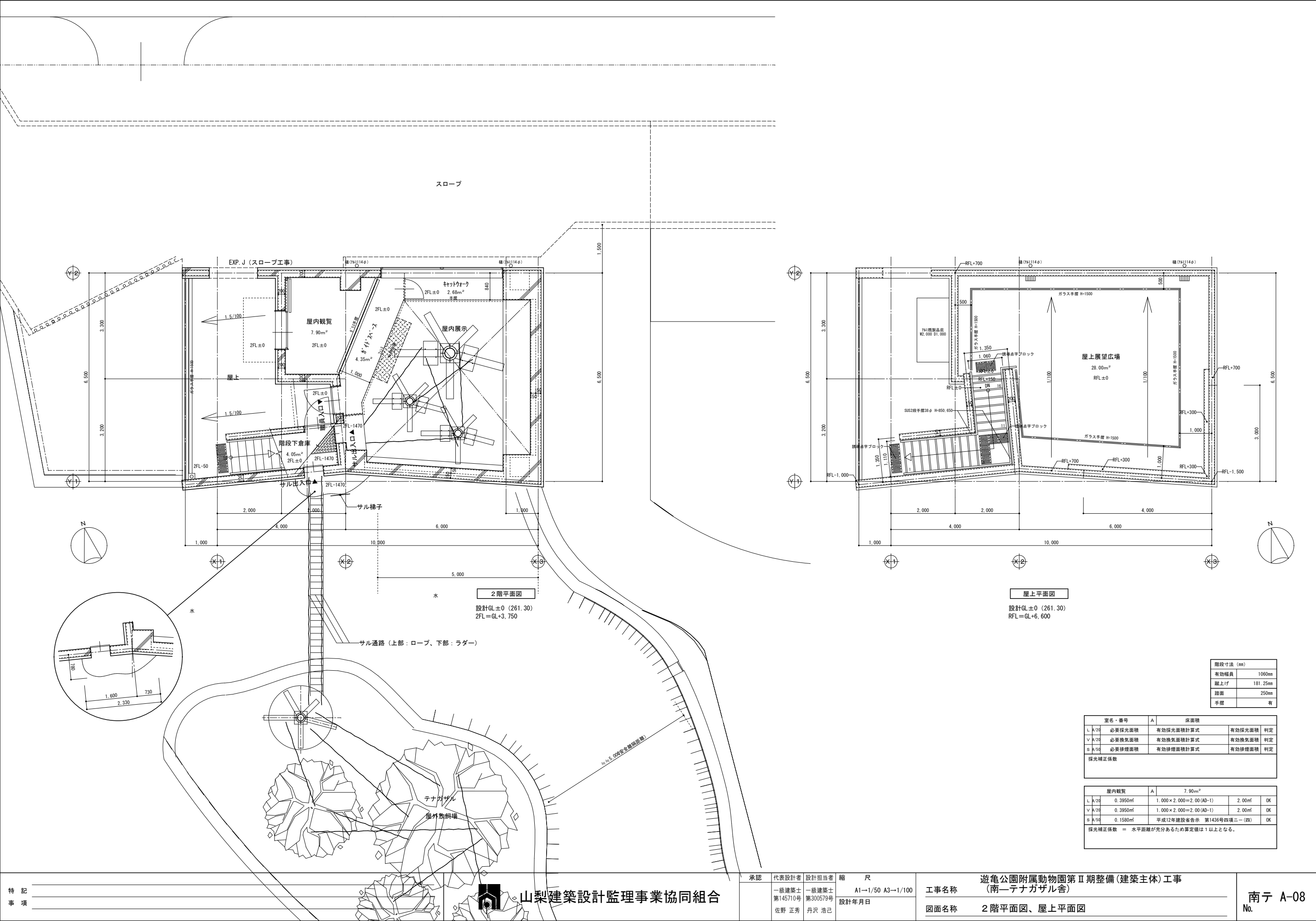
内 部 仕 上 表										
	室 名	F L	床	巾 木	壁		天 井	廻り縁	天 井 高	備 考
					下 地	仕 上				
1階	屋内展示	±0	コンクリート打放し仕上げの上浸透性遮水・防水剤		C	コンクリート打放し仕上げの上E P塗装	コンクリート打放し仕上げの上E P塗装		6.060	木製サル用足場、排水溝・柵（グレーチング蓋付）
	寝室1、寝室2、寝室3	±0	コンクリート打放し仕上げの上浸透性遮水・防水剤		C	コンクリート打放し仕上げの上浸透性遮水・防水剤	コンクリート打放し仕上げの上浸透性遮水・防水剤		3.180	木製サル用足場
	キーパー通路	±0	コンクリート打放し仕上げの上浸透性遮水・防水剤		C	コンクリート打放し仕上げの上浸透性遮水・防水剤	コンクリート打放し仕上げの上浸透性遮水・防水剤		3.180	流し台、排水溝・柵（グレーチング蓋付）
2階	屋内観覧	±0	防滑性ビニル床シートt=2.5	床材巻き上げ H=300	C	コンクリート打放し仕上げの上E P塗装	コンクリート打放し仕上げの上E P塗装		2.510	
	ガイドスペース	±0	コンクリート打放し仕上げの上浸透性遮水・防水剤		C	コンクリート打放し仕上げの上E P塗装	コンクリート打放し仕上げの上E P塗装		2.510	
	キャットウォーク	±0	コンクリート打放し仕上げの上浸透性遮水・防水剤		C	コンクリート打放し仕上げの上E P塗装	コンクリート打放し仕上げの上E P塗装		2.510	
	階段下倉庫	±0	コンクリート打放し仕上げの上浸透性遮水・防水剤		C	コンクリート打放し仕上げの上浸透性遮水・防水剤	コンクリート打放し仕上げの上浸透性遮水・防水剤			
<div><div><凡例（下地記号）><ul style="list-style-type: none">・C ー コンクリート・CB ー コンクリートブロック t=100・120・LGS ー 軽量鉄骨下地 壁：65・100型 @303・455、天井：25型（外部） @303・360・19型（内部） @303・360</div><div><内装準不燃・不燃番号><ul style="list-style-type: none">・石膏ボード t=12.5</div><div><その他><ul style="list-style-type: none">・塗装仕上げを行うボードの継目部分は、ジョイントテープなどを使用し目地処理を行うこと。・使用材料は、ホルムアルデヒド放散等級 F☆☆☆☆ とする。・ステンレスは、特記なき限りHL仕上とする。・ビニル床シートは、耐湿工法とする。・木製造作材仕様は下記のとおりとする。<div>縦縁：MDF基材（シート化粧） t=25</div><div>カーテンボックス：MDF基材（シート化粧）</div></div><div><メーカーリスト（同等品以上）><ul style="list-style-type: none">・浸透性遮水・防水剤：ナノリフレッシュコート：【フッコー】・防滑性ビニル床シートt=2.5：NSリアルデザインNW：【東リ】</div></div>										

面積求積図

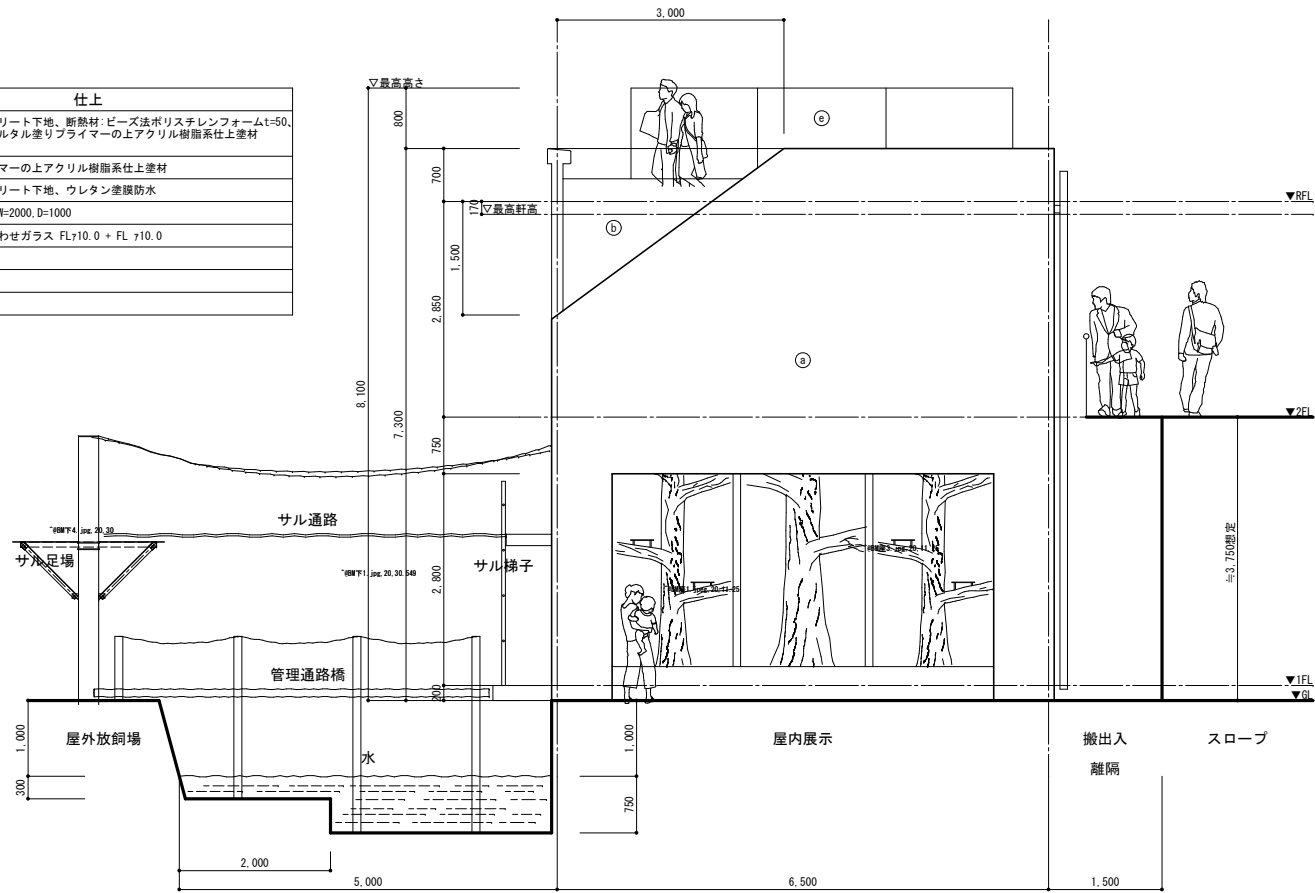




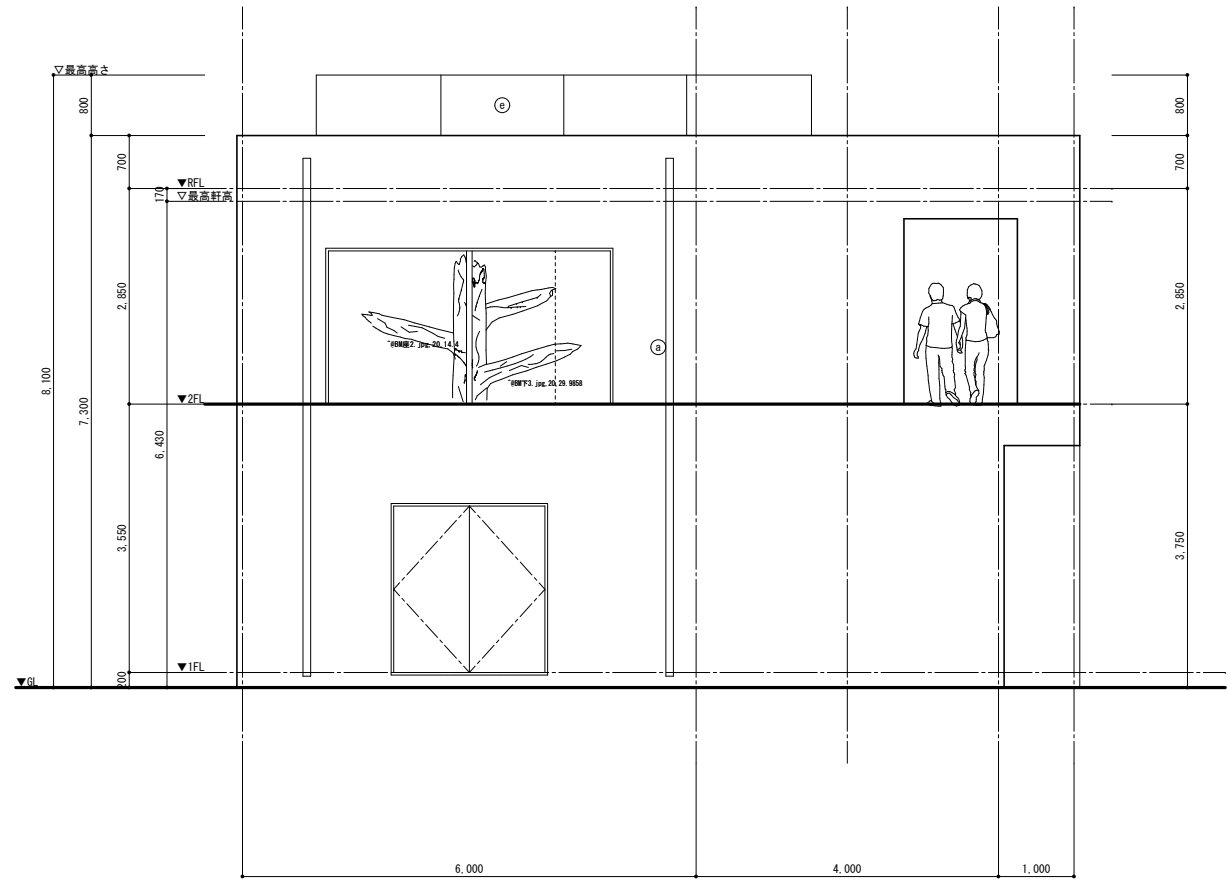
特記事項	 山梨建築設計監理事業協同組合	承認	代表設計者	設計担当者	縮尺	遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事 (南—テナガザル舎)	工事名称	図面名称	南テ A-07 No.
		承認	代表設計者	設計担当者	縮尺				
		承認	代表設計者	設計担当者	縮尺				
			一級建築士 第145710号 佐野 正秀	一級建築士 第300579号 丹沢 浩己	A1→1/50 A3→1/100 設計年月日			1階平面図	



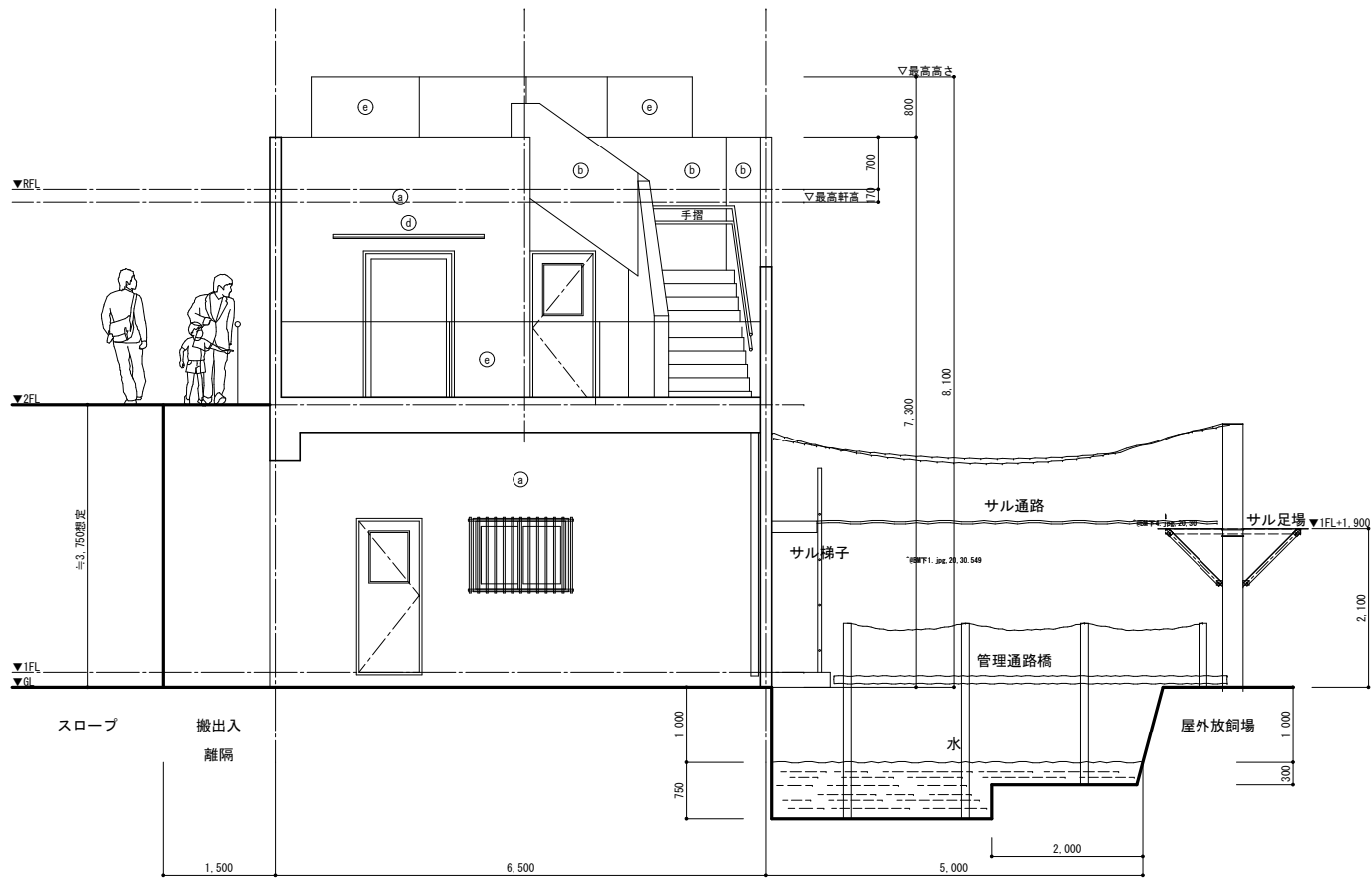
記号	仕上
Ⓐ	普通合板型枠コンクリート下地、断熱材：ビーズ法ポリスチレンフォームt=50、ガラスメッシュ、モルタル塗りプライマーの上アクリル樹脂系仕上塗材
Ⓑ	モルタル塗りプライマーの上アクリル樹脂系仕上塗材
Ⓒ	普通合板型枠コンクリート下地、ウレタン塗膜防水
Ⓓ	底：アルミ既製品 W=2000、D=1000
Ⓔ	ガラス手摺：強化合わせガラス FLγ10.0 + FL γ10.0



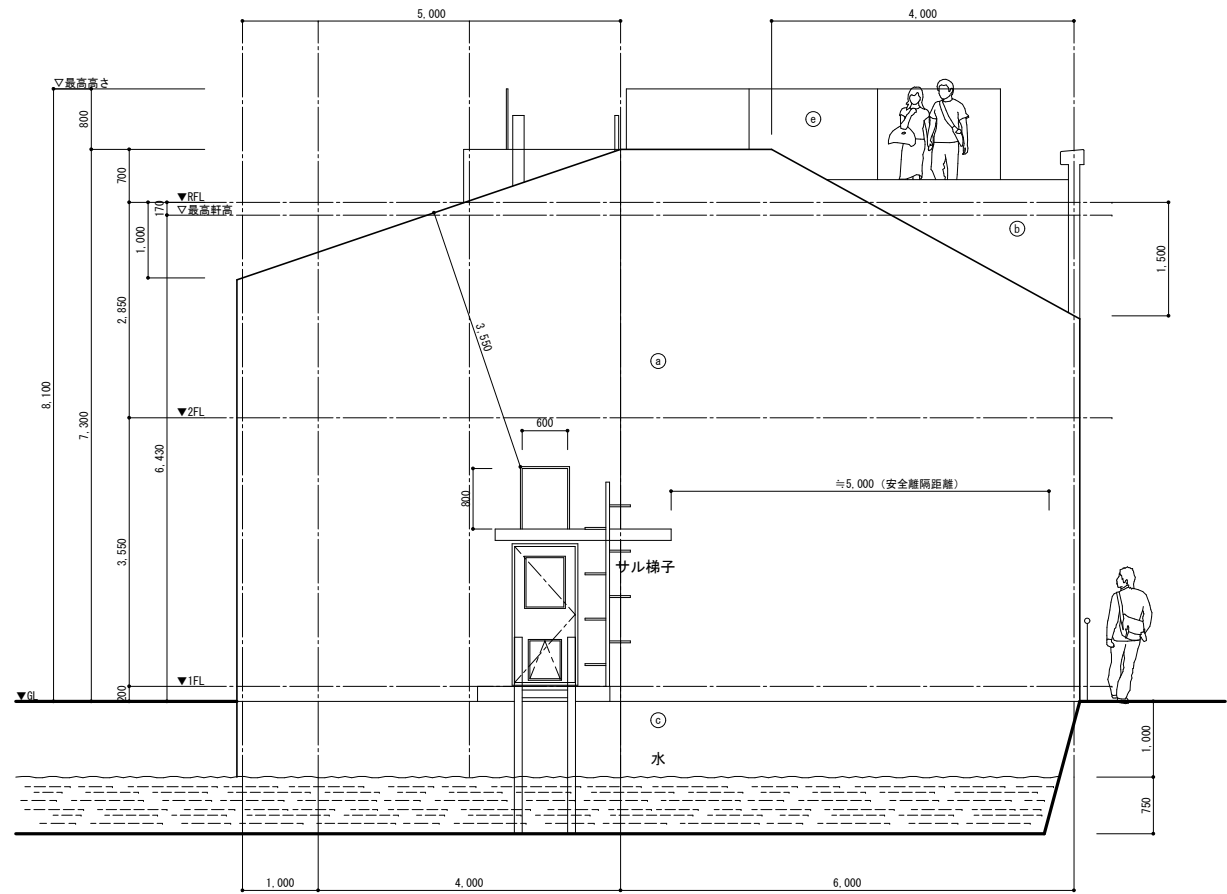
東立面図



北立面図



西立面図



南立面図

特記事項

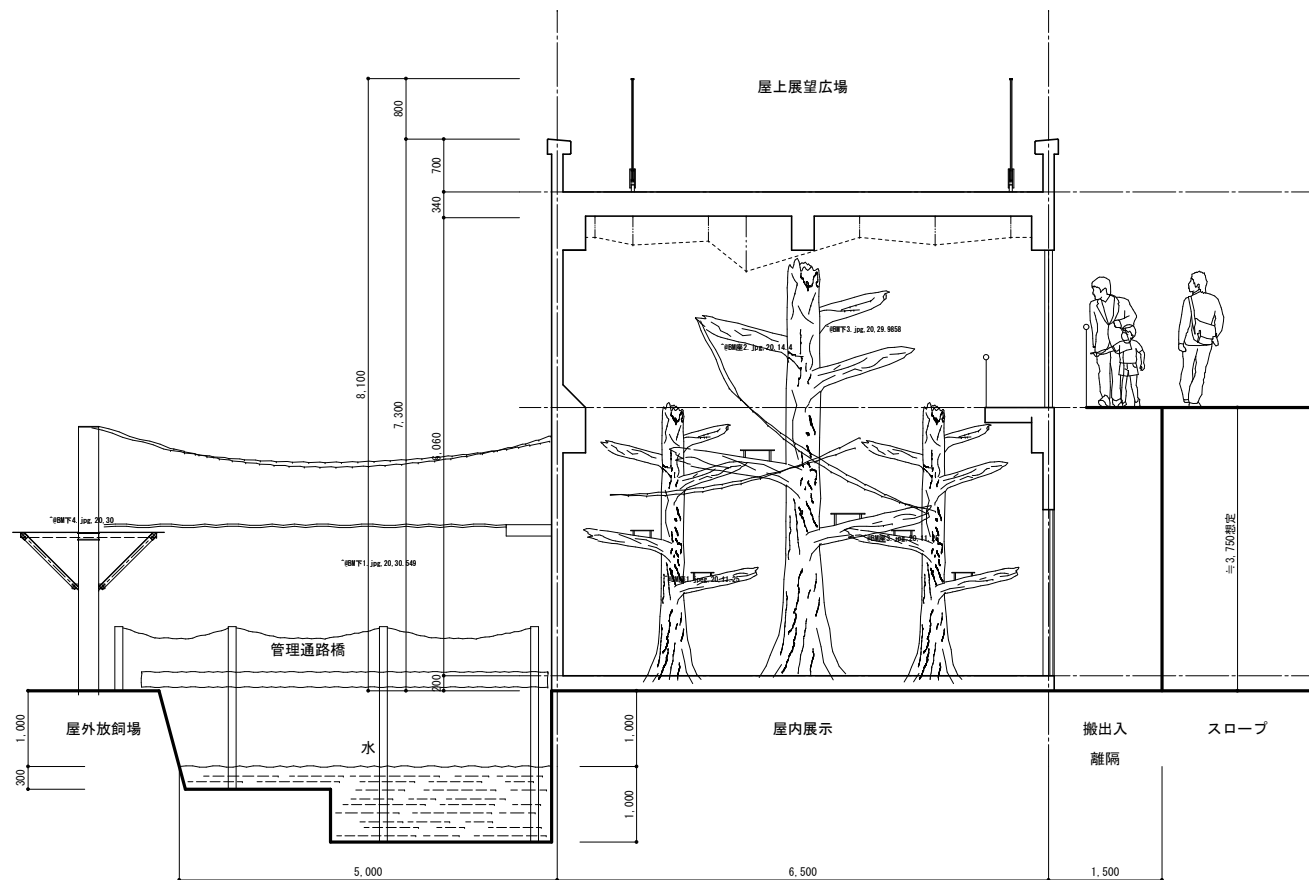


山梨建築設計監理事業協同組合

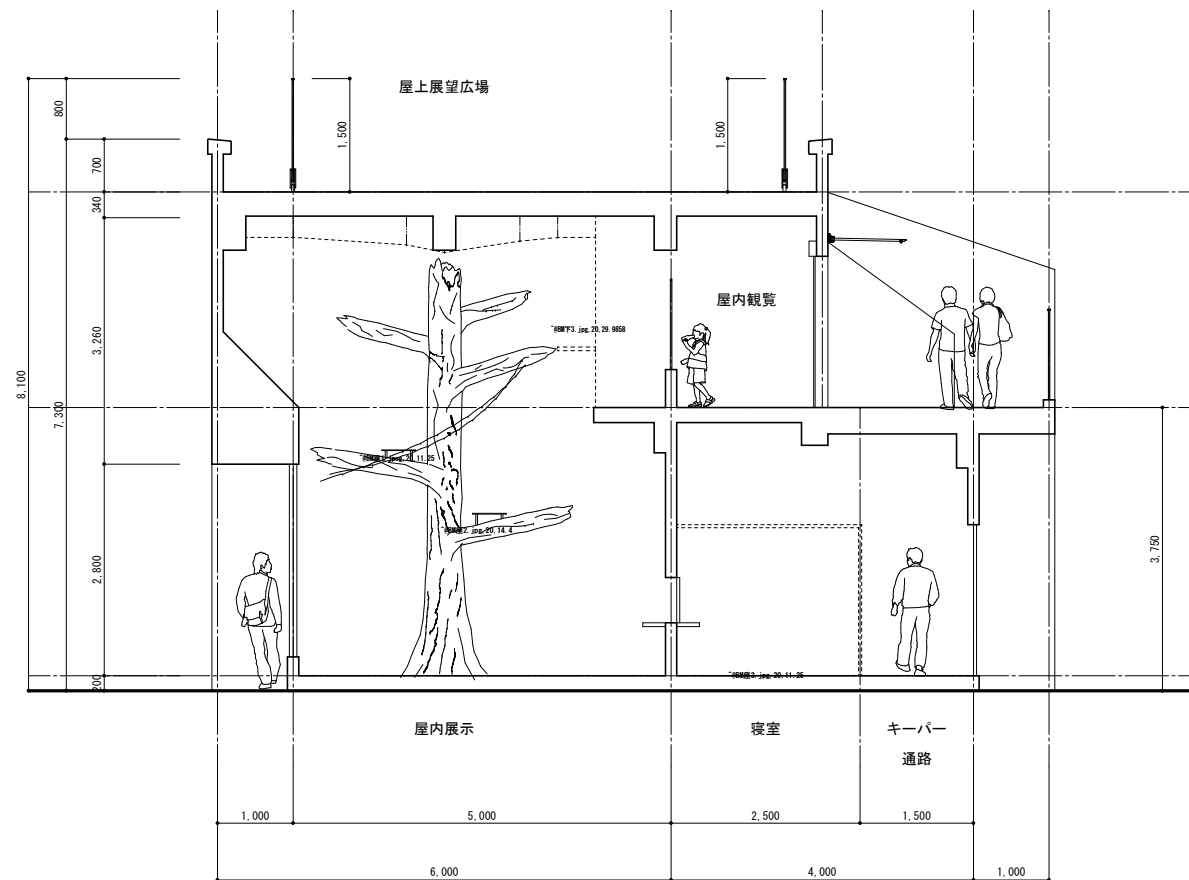
承認 代表設計者 設計担当者 縮 尺
一級建築士 一級建築士 A1→1/50 A3→1/100
第145710号 第300579号 設計年月日
佐野 正秀 丹沢 浩己

工事名称 遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事
(南テナガザル舎)
図面名称 立面図

南テ A-09
No.



断面図 1



断面図 2

特記事項

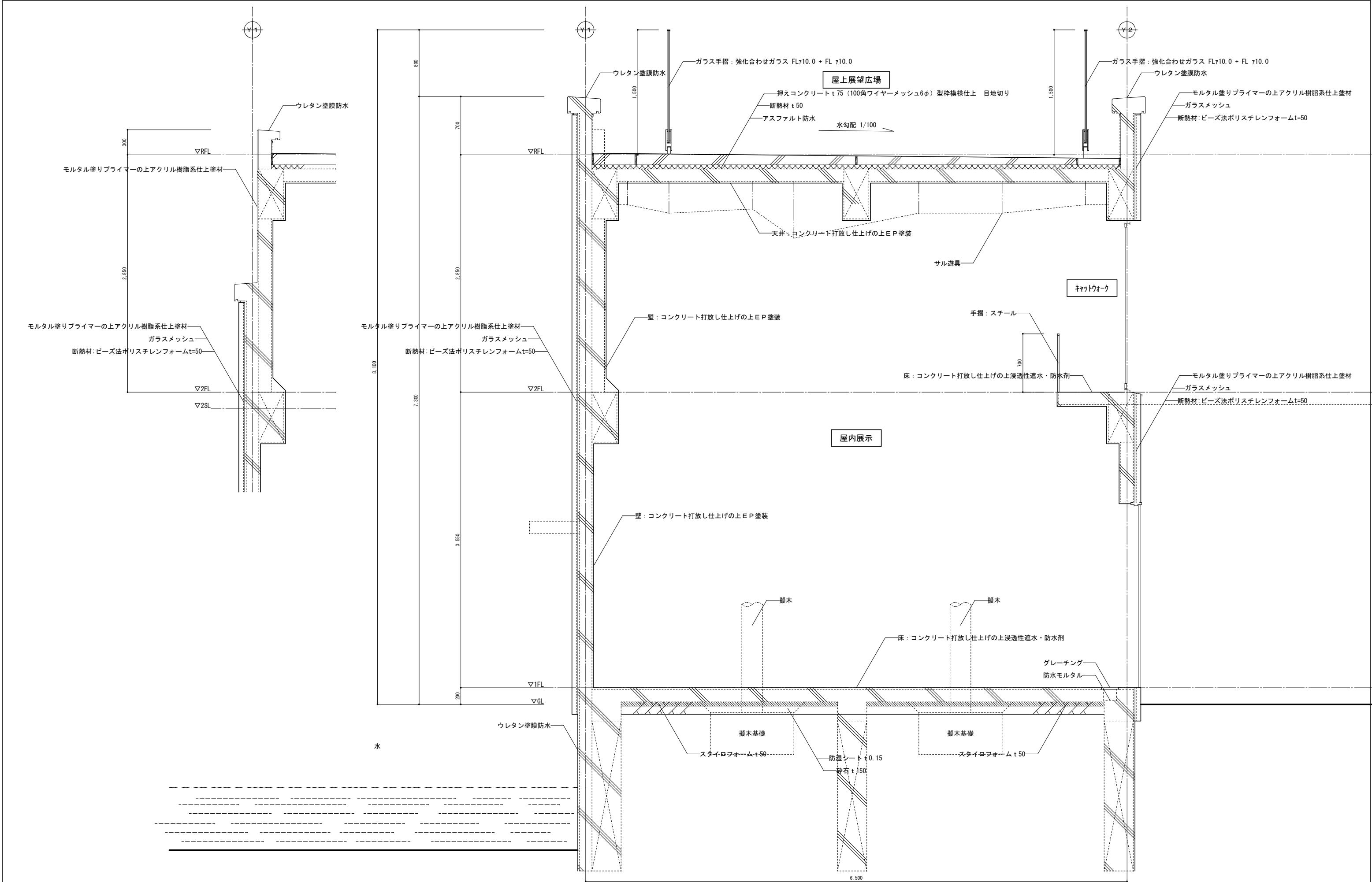


山梨建築設計監理事業協同組合

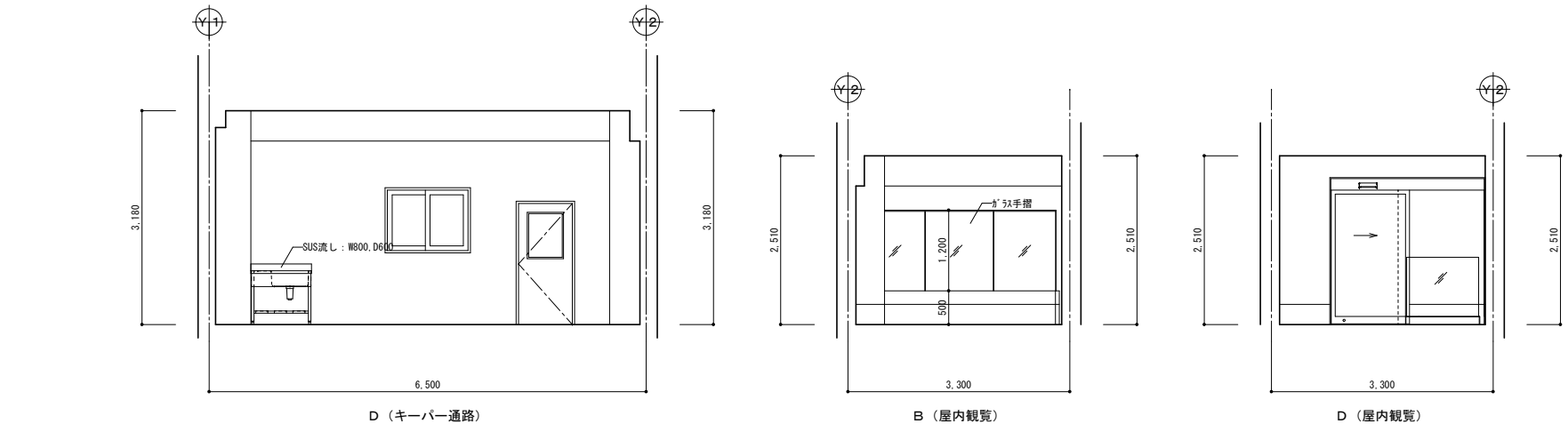
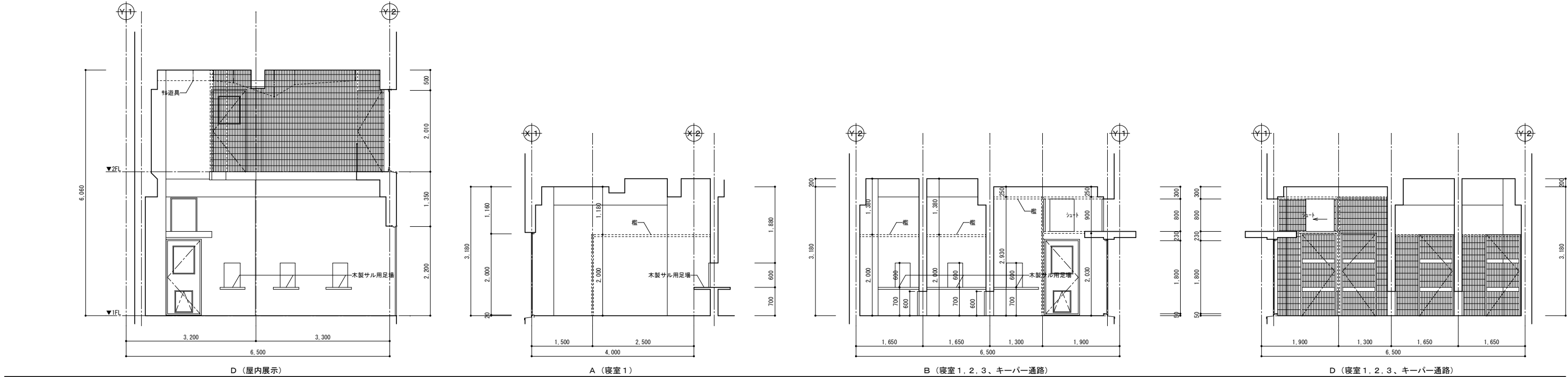
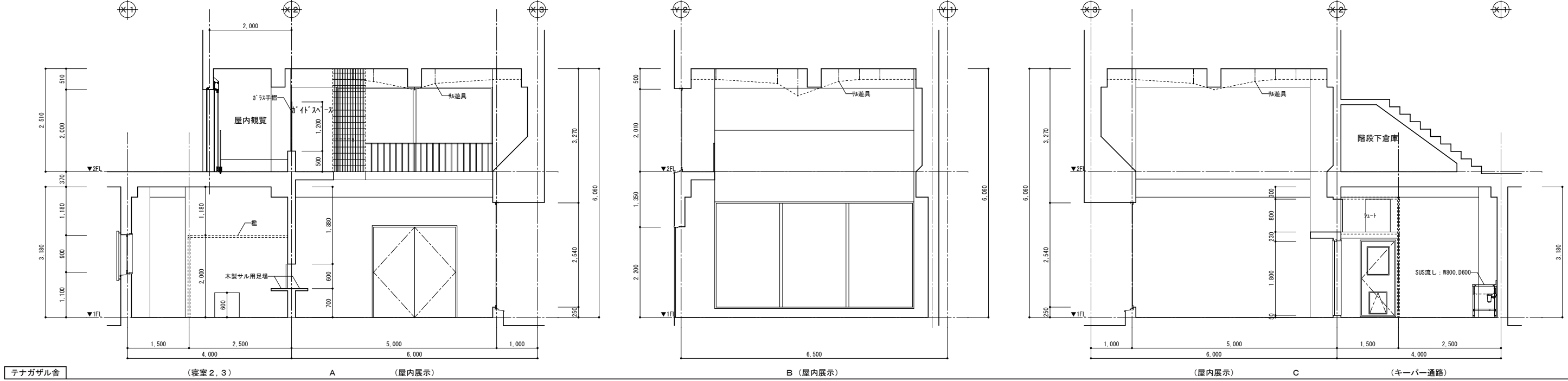
承認	代表設計者	設計担当者	縮尺
	一級建築士 第145710号 佐野 正秀	一級建築士 第300579号 丹沢 浩己	A1→1/50 A3→1/100 設計年月日

工事名称	遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事 (南テナガザル舎)
図面名称	断面図

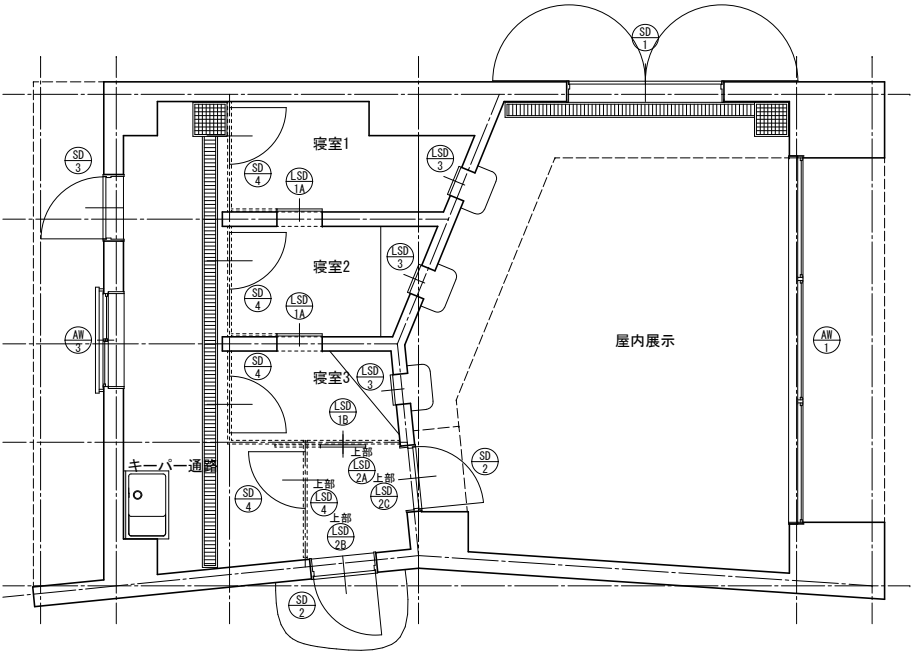
南テ A-10
No.



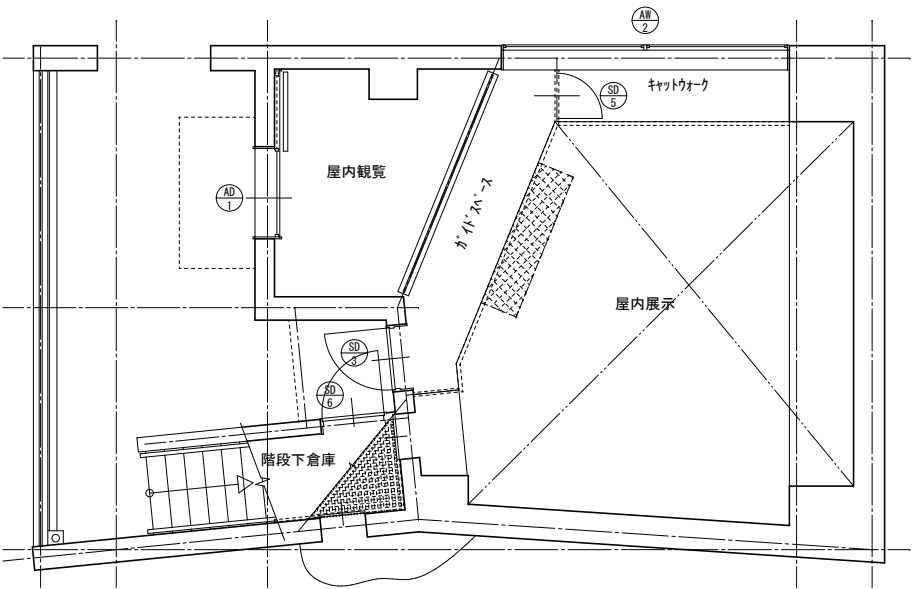
特記事項		山梨建築設計監理事業協同組合	承認	代表設計者	設計担当者	縮尺	遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事 (南一テナガザル舎)	工事名称	図面名称	矩計図 1	南テ A-11 No.	
				一級建築士 第145710号 佐野 正秀	一級建築士 第300579号 丹沢 浩己	A1→1/20 A3→1/40						設計年月日



屋内展示、ガイドスペース、キャットウォーク				寝室1、寝室2、寝室3、キーパー通路		屋内観覧	
床	コンクリート打放し仕上げの上 浸透性遮水・防水剤			床	コンクリート打放し仕上げの上 浸透性遮水・防水剤	床	防滑性ビニル床シートt=2.5
巾木				巾木		巾木	床材巻き上げ H=300
壁	コンクリート打放し仕上げの上 E P 塗装			壁	コンクリート打放し仕上げの上 浸透性遮水・防水剤	壁	コンクリート打放し仕上げの上 E P 塗装
天井	コンクリート打放し仕上げの上 E P 塗装			天井	コンクリート打放し仕上げの上 浸透性遮水・防水剤	天井	コンクリート打放し仕上げの上 E P 塗装
備考				備考		備考	



1 階建具キープラン



2 階建具キープラン

記 号 ・ 数 量	AH 1	1	形状		AH 2	1	形状		AH 3	1	形状		AH 4	1	形状	
				▽FL				▽FL				▽FL				▽FL
				場 所				場 所				場 所				場 所
				形式・見込				形式・見込				形式・見込				形式・見込
				材質・仕上				材質・仕上				材質・仕上				材質・仕上
				備 考				備 考				備 考				備 考
記 号 ・ 数 量	SD 1	1	形状		SD 2	2	形状		SD 3	2	形状		SD 4	4	形状	
				▽FL				▽FL				▽FL				▽FL
				場 所				場 所				場 所				場 所
				形式・見込				形式・見込				形式・見込				形式・見込
				材質・仕上				材質・仕上				材質・仕上				材質・仕上
				備 考				備 考				備 考				備 考
記 号 ・ 数 量	SD 5	1	形状		SD 6	1	形状									
				▽FL				▽FL								
				場 所				場 所								
				形式・見込				形式・見込								
				材質・仕上				材質・仕上								
				備 考				備 考								
記 号 ・ 数 量	LSD 1	3	形状		LSD 2	3	形状		LSD 3	3	形状		LSD 4	1	形状	
				▽FL				▽FL				▽FL				▽FL
				場 所				場 所				場 所				場 所
				形式・見込				形式・見込				形式・見込				形式・見込
				材質・仕上				材質・仕上				材質・仕上				材質・仕上
				備 考				備 考				備 考				備 考

特 記
事 項

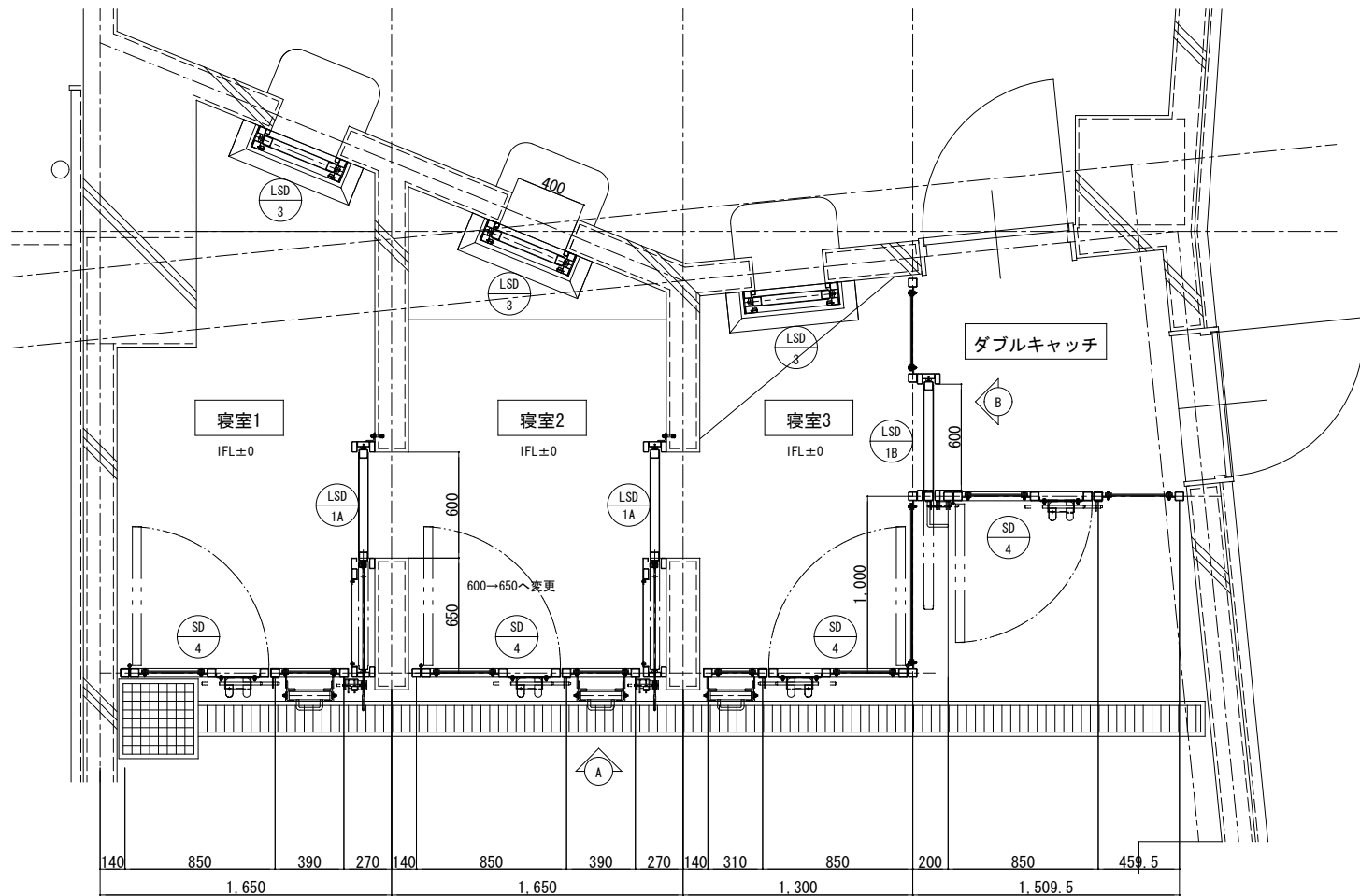


山梨建築設計監理事業協同組合

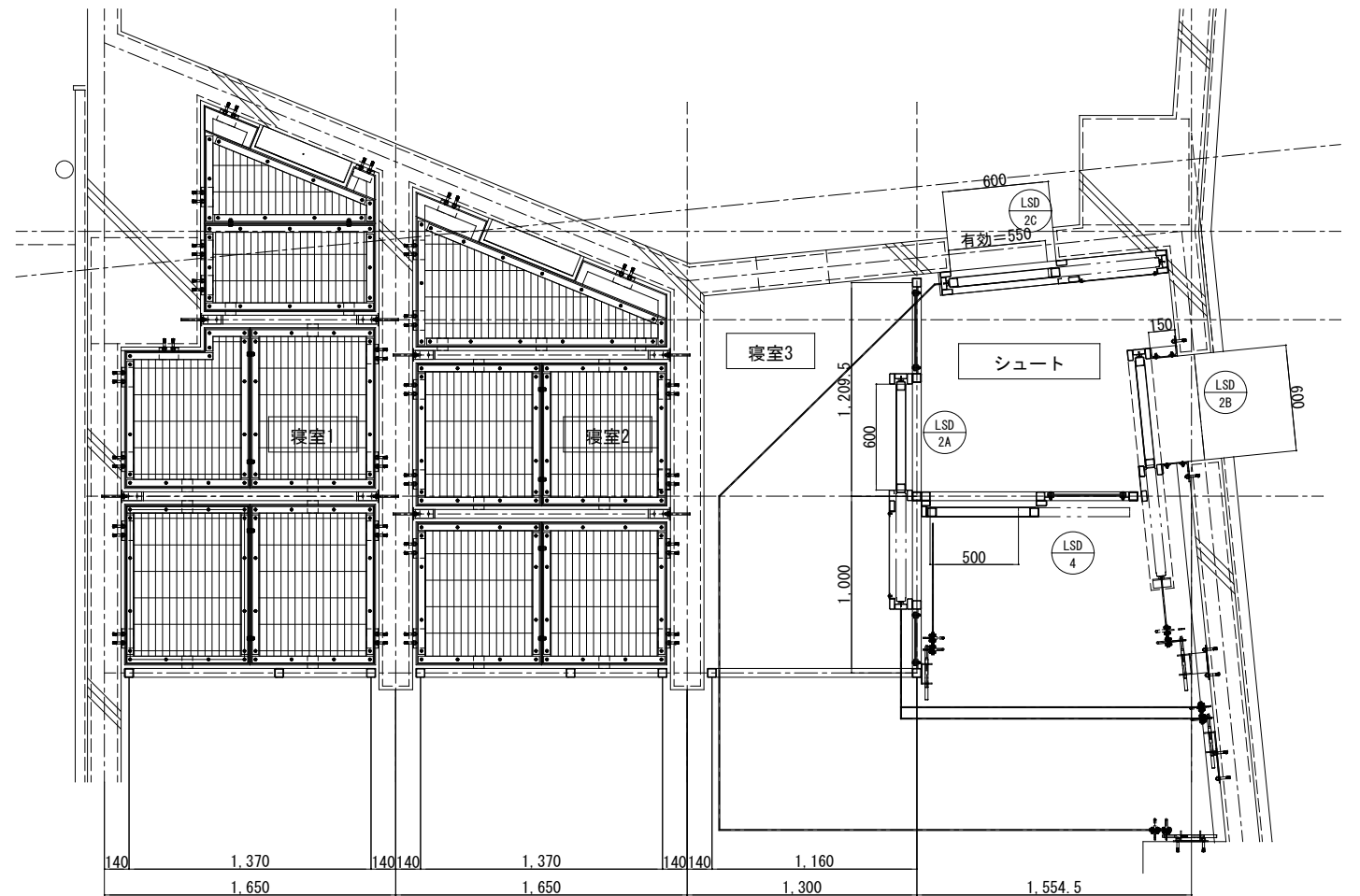
承認
代表設計者
設計担当者
縮 尺
A1→1/50 A3→1/100
設計年月日

工事名称
図面名称
遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事
(南テナガザル舎)
建具キープラン、建具表

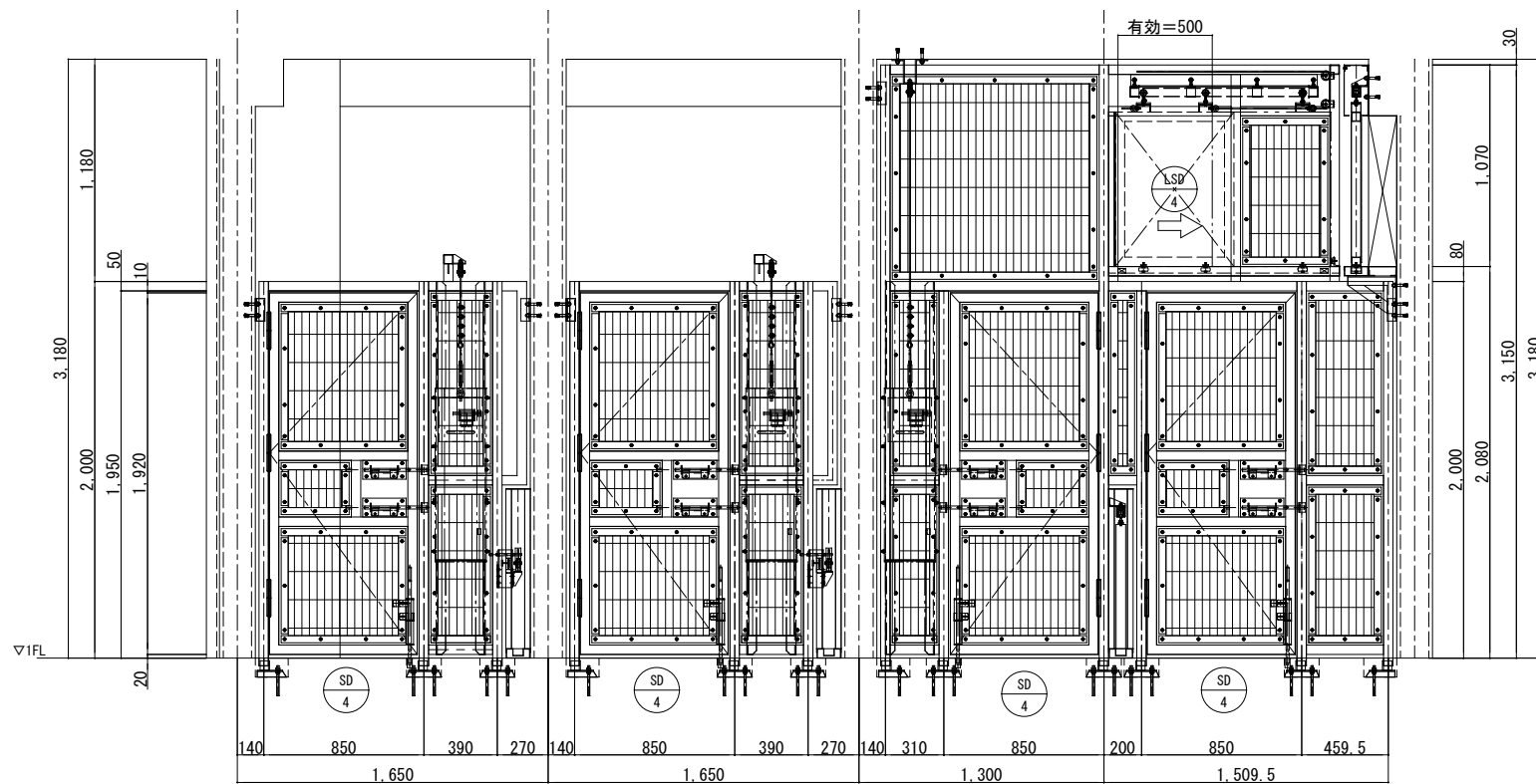
南テ A-14
No.



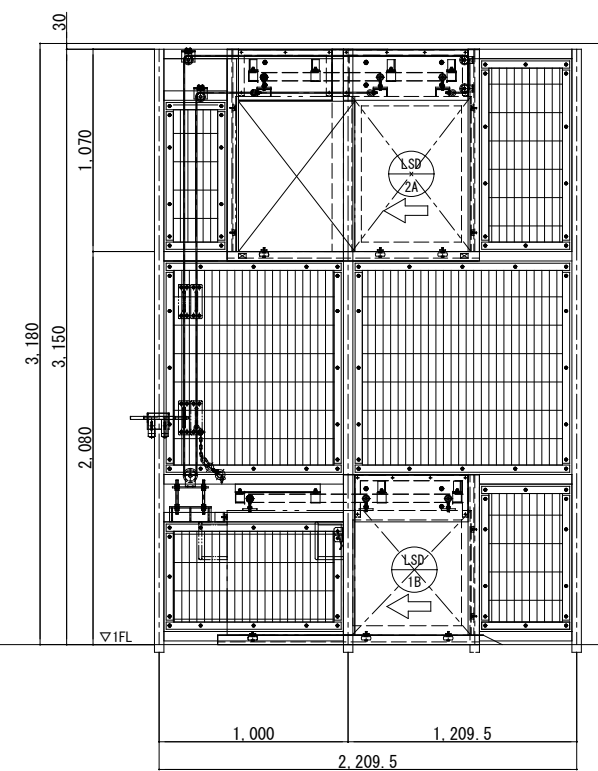
平面図 (FL+1,000)



平面図 (FL+2,100)



A-立面図



B-立面図

特記事項



山梨建築設計監理事業協同組合

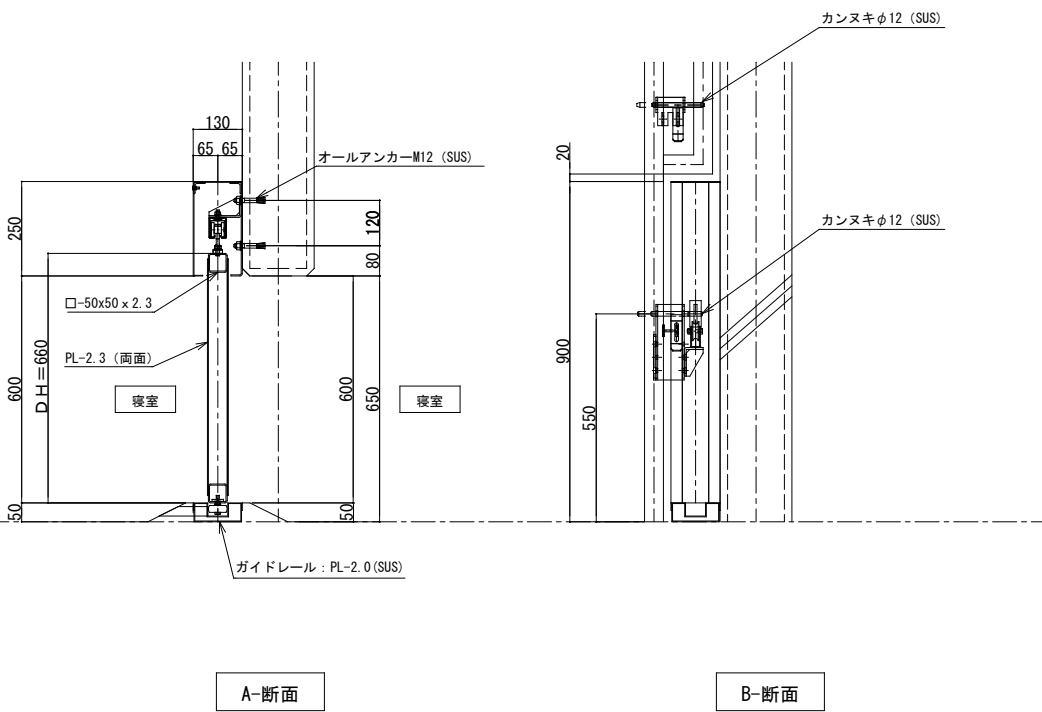
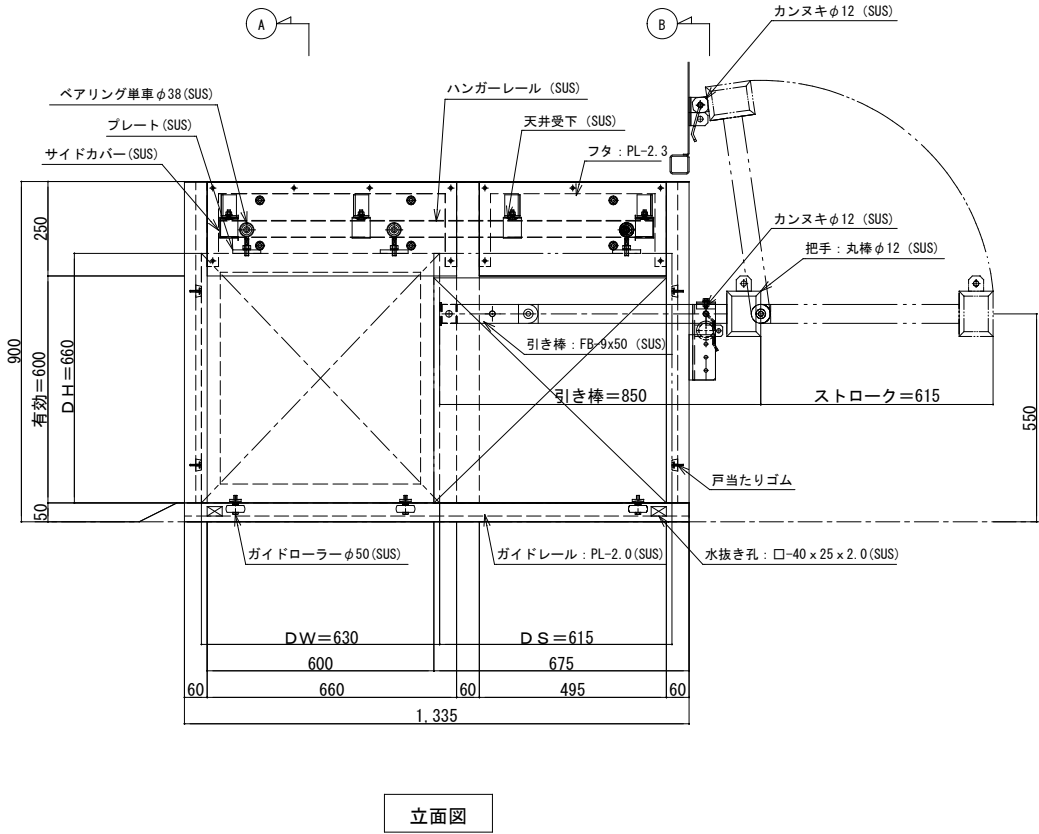
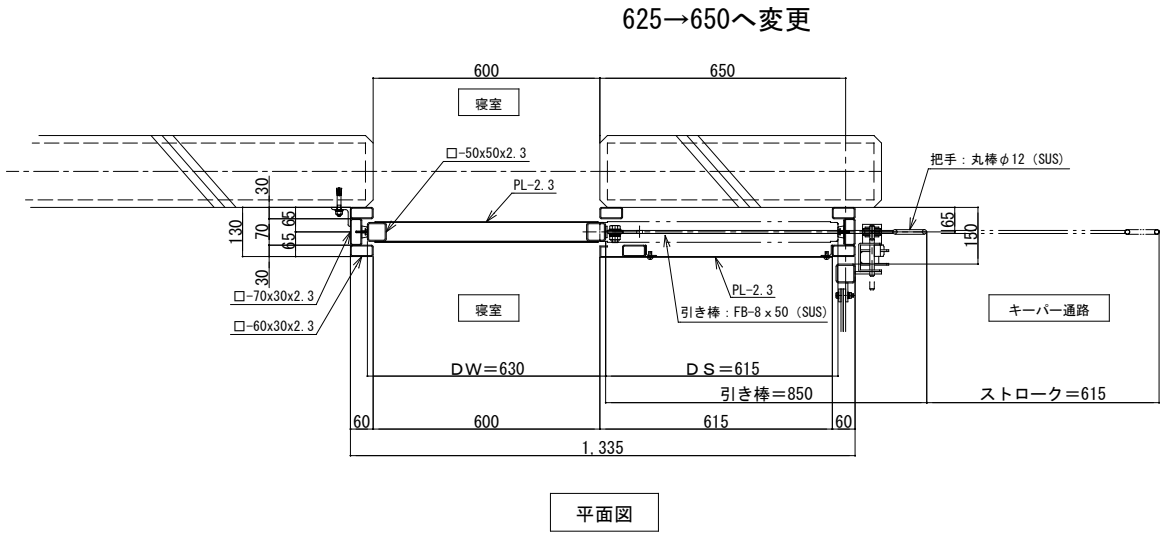
承認 代表設計者 設計担当者 縮 尺
一級建築士 一級建築士 A1→1/20 A3→1/40
第145710号 第300579号 設計年月日
佐野 正秀 丹沢 浩己

工事名称 遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事
(南テナガザル舎)
図面名称 1F檻 姿図

南テ A-15
No.

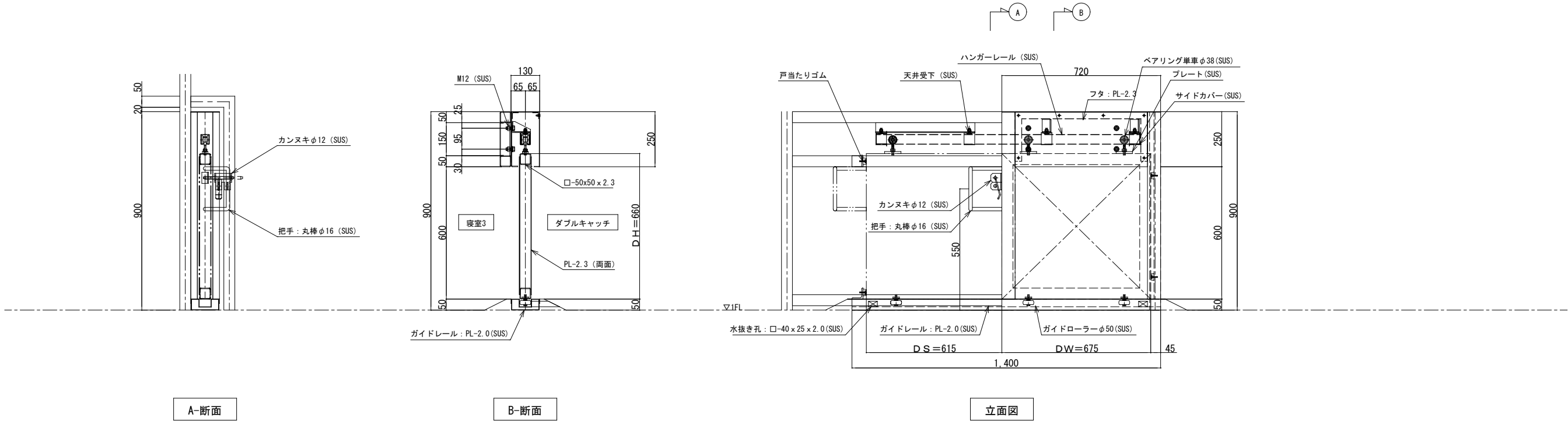
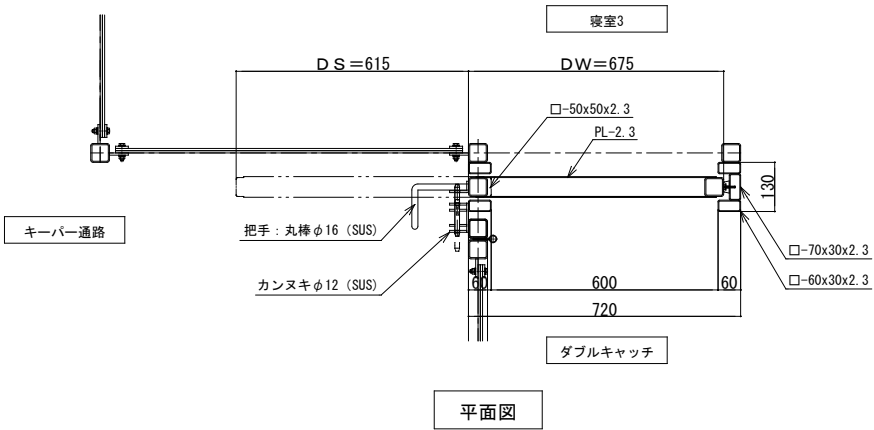
符 号	数 量	取付場所	寝室1・2	
LSD 1A	2	種 類	片引き戸	
		鋼材・仕上	SS材・溶融亜鉛めっき仕上	
部 品 名		品 番	数 量	摘 要
SUS/ベアリング単車			2	
SUS/プレート			2	
SUS/ハンガーレール			1	
SUS/サイドカバー			2	
SUS/天井受下			4	
SUS/ガイドローラー			2	
SUS/ガイドレール			1	
SUS/カンヌキ			1	
SUS/カンヌキ			1	
戸当たりゴム			4	

(部品数量は1台当りの数量を示す。)



符 号 数 量		取付場所	ダブルキャッチ	
<div><div>LSD</div><div>1B</div></div>	1	種 類	片引き戸	
		鋼材・仕上	SS材・溶融亜鉛めっき仕上	
部 品 名		品 番	数 量	摘 要
SUS/ベアリング単車			2	
SUS/プレート			2	
SUS/ハンガーレール			1	
SUS/サイドカバー			2	
SUS/天井受下			4	
SUS/ガイドローラー			2	
SUS/ガイドレール			1	
SUS/カンヌキ			1	
戸当たりゴム			4	

(部品数量は1台当りの数量を示す。)



特記事項

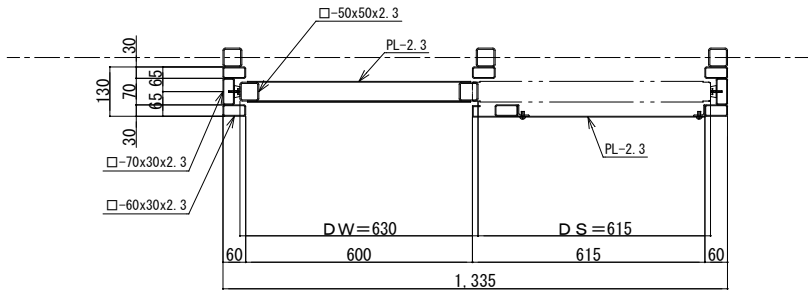


山梨建築設計監理事業協同組合

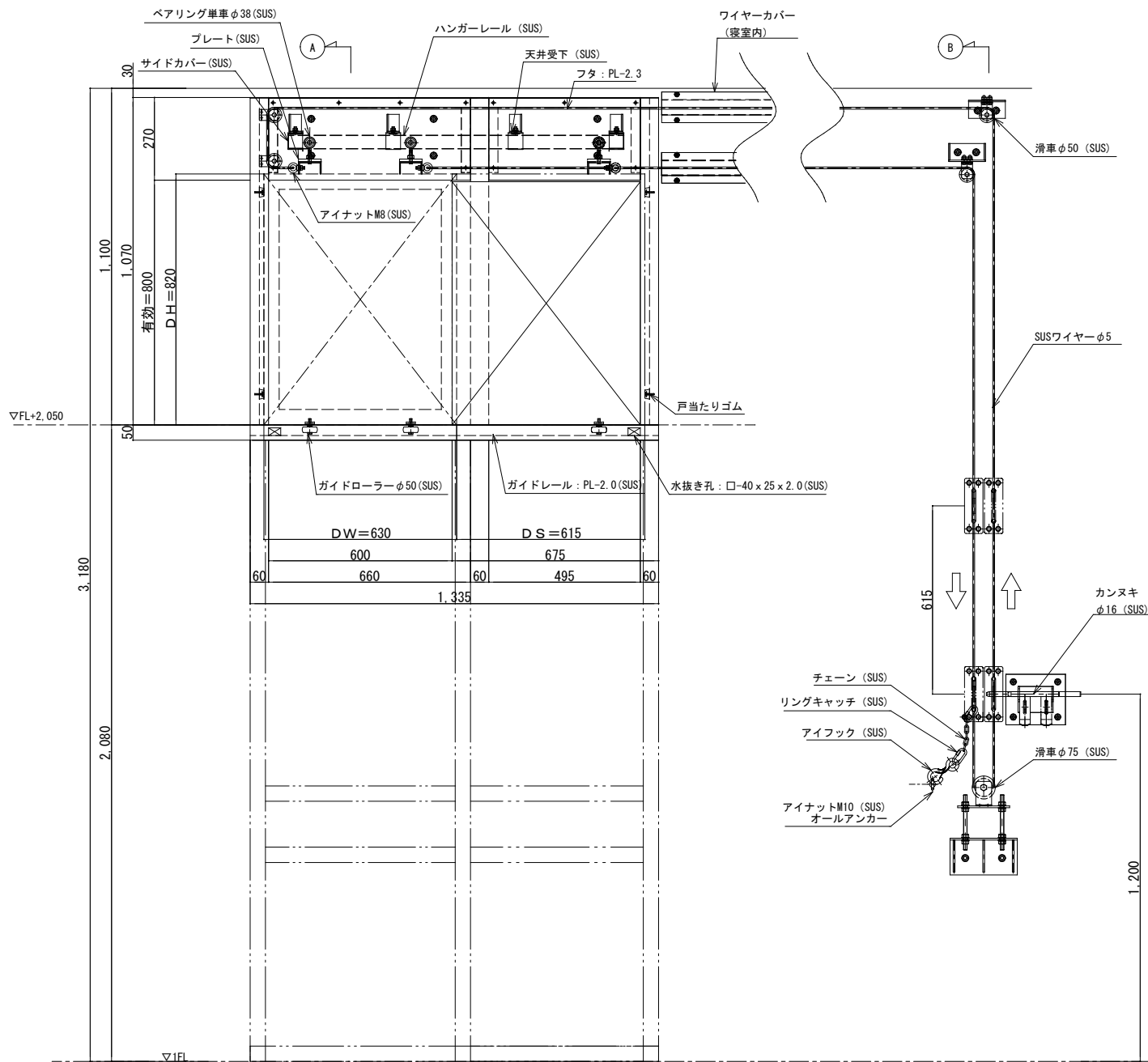
承認	代表設計者	設計担当者	縮 尺
	一級建築士 第145710号 佐野 正秀	一級建築士 第300579号 丹沢 浩己	A1→1/10 A3→1/20 設計年月日

工事名称	遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事 (南—テナガザル舎)
図面名称	建具詳細図 (LSD-1B)

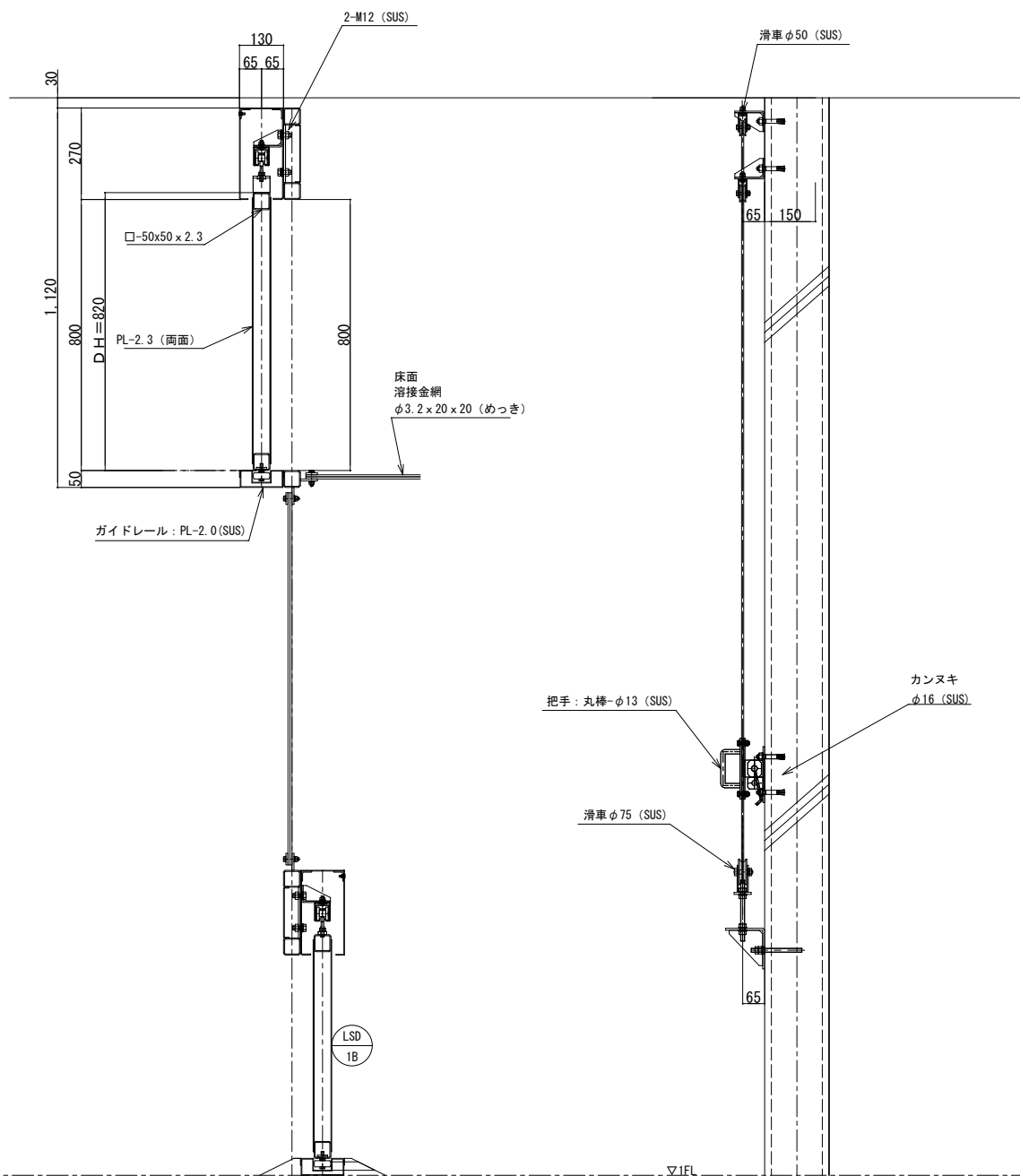
南テ A-17
No.



平面図



立面図



A-断面

B-断面

符 号	数 量	取付場所	ダブルキャッチ	
LSD 2A	1	種 類 鋼材・仕上	片引き戸	
			SS材・溶融亜鉛めっき仕上	
部 品 名		品 番	数量	摘 要
SUS/ベアリング単車			2	
SUS/プレート			2	
SUS/ハンガーレール			1	
SUS/サイドカバー			2	
SUS/天井受下			4	
SUS/ガイドローラー			2	
SUS/ガイドレール			1	
SUS/カンヌキ			1	
戸当たりゴム			4	
SUS/滑車φ50			4	
SUS/滑車φ75			1	

(部品数量は1台当りの数量を示す。)

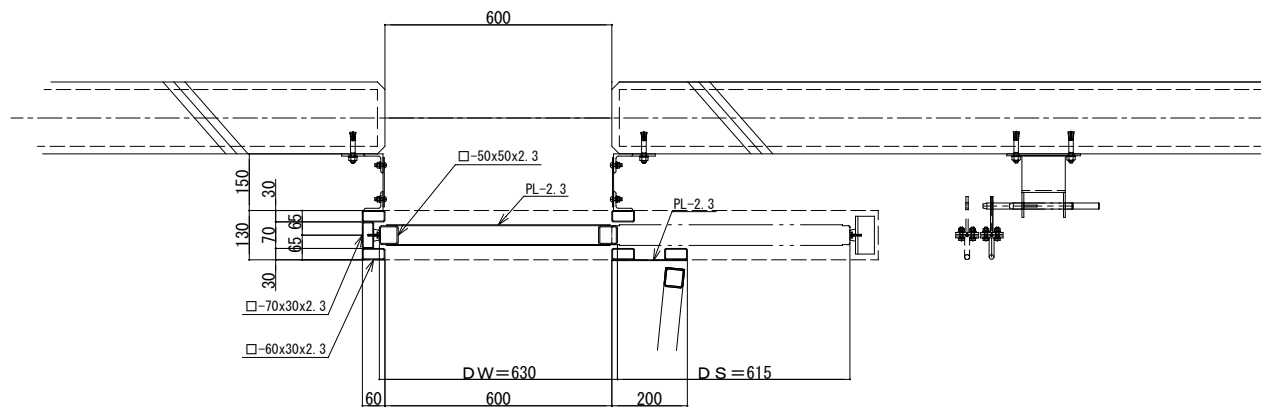
特 記 _____
事 項 _____



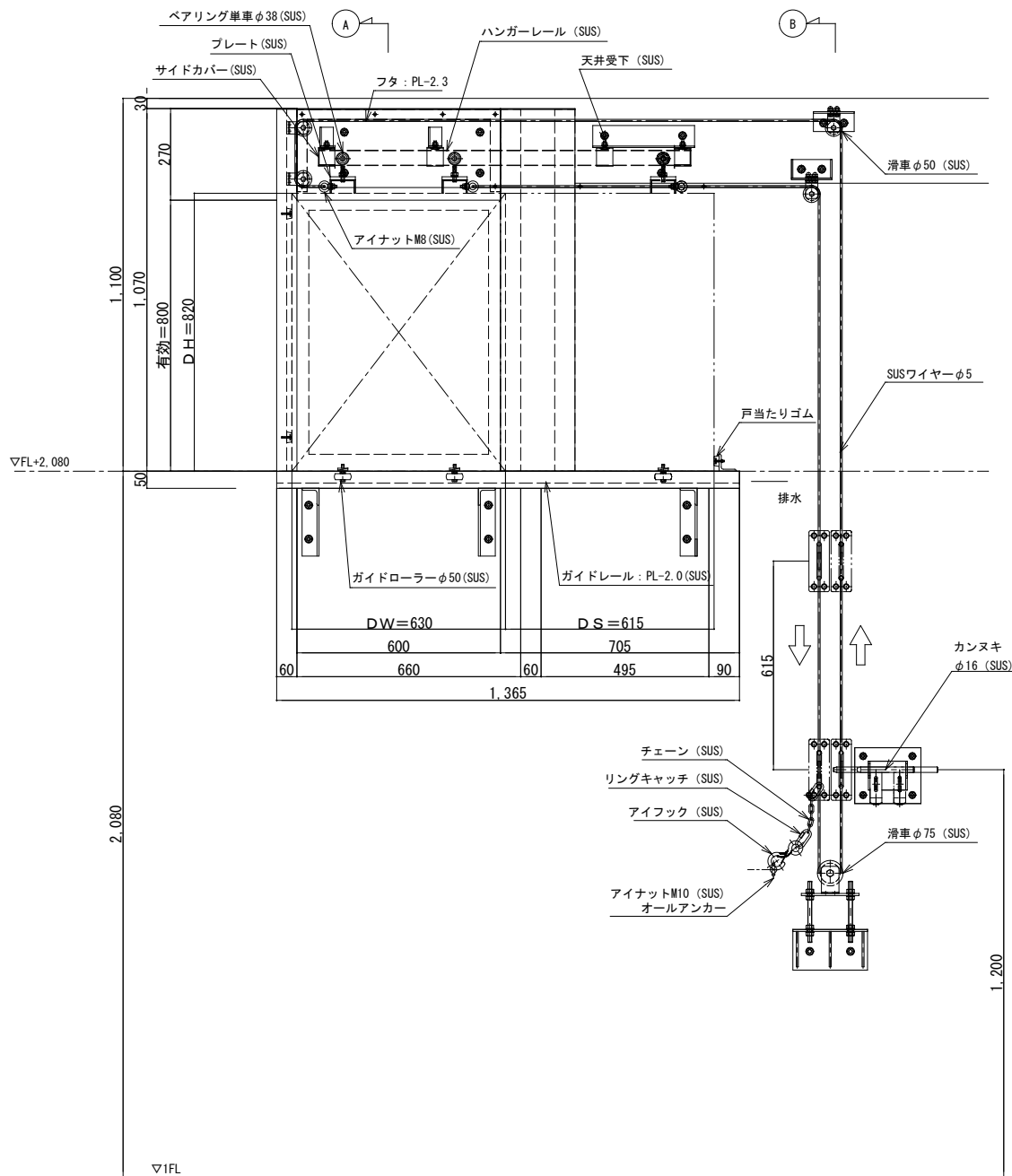
山梨建築設計監理事業協同組合

承認	設計	担当	縮 尺	遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事 (南—テナガザル舎)	
	一級建築士 第145710号 佐野 正秀	一級建築士 第300579号 丹沢 浩己	A1→1/10 A3→1/20		工事名称
設計年月日					図面名称
				建具詳細図 (LSD-2A)	

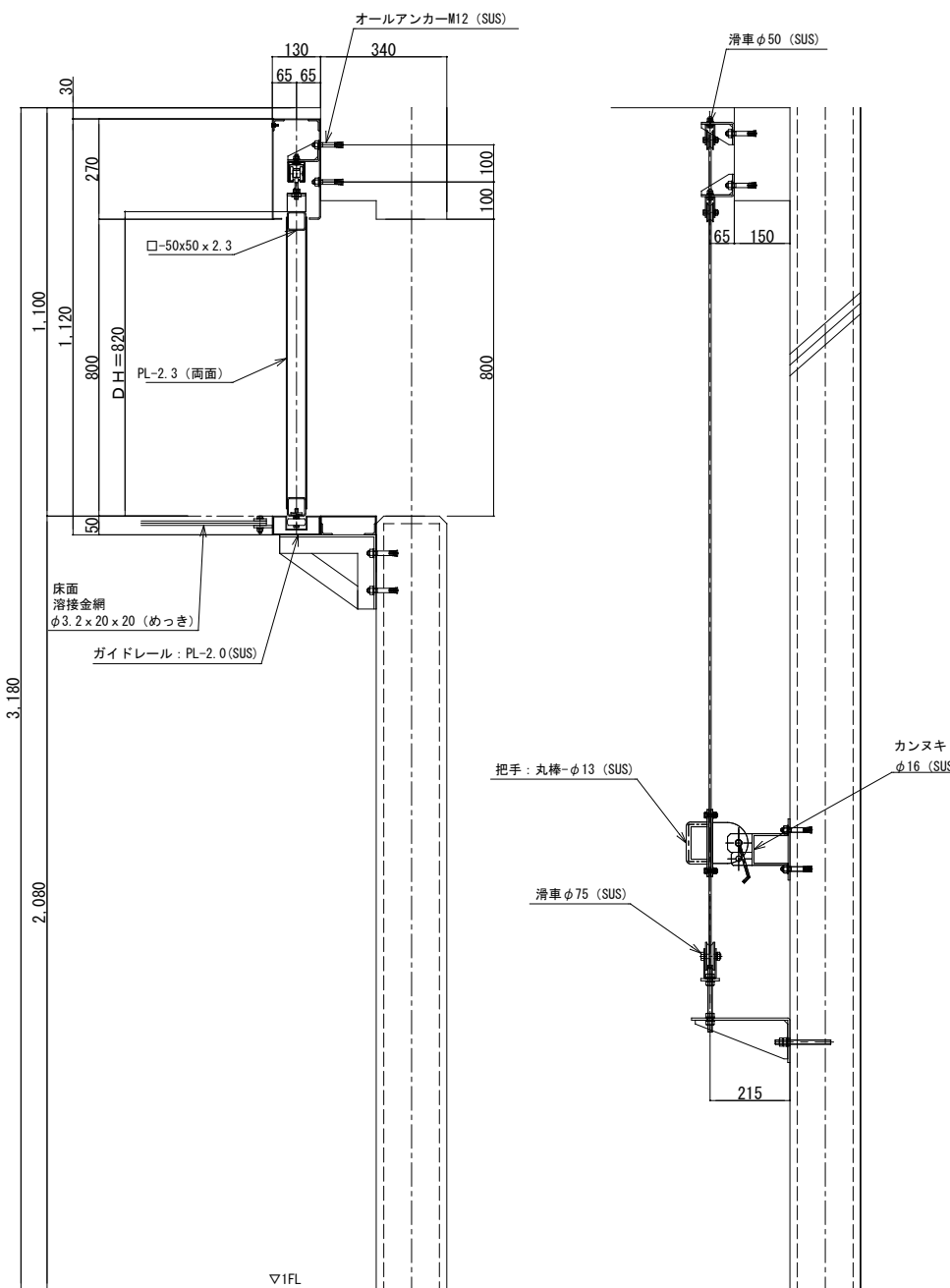
南テ A-18
No.



平面図



立面図



A-断面

B-断面

符 号	数 量	取付場所		ダブルキャッチ
		種 類		片引き戸
LSD 2B	1	鋼材・仕上		SS材・溶融亜鉛めっき仕上
部 品 名		品 番	数 量	摘 要
SUS/ベアリング単車			2	
SUS/プレート			2	
SUS/ハンガーレール			1	
SUS/サイドカバー			2	
SUS/天井受下			4	
SUS/ガイドローラー			2	
SUS/ガイドレール			1	
SUS/カンヌキ			1	
戸当たりゴム			4	
SUS/滑車φ50			4	
SUS/滑車φ75			1	

(部品数量は1台当りの数量を示す。)

特 記
事 項



山梨建築設計監理事業協同組合

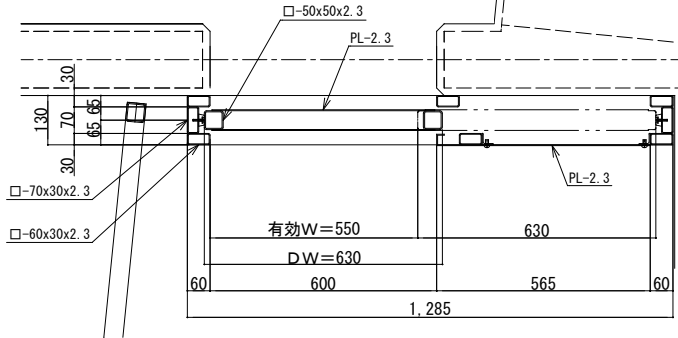
承認	設計	担当	縮 尺
	一級建築士 第145710号 佐野 正秀	一級建築士 第300579号 丹沢 浩己	A1→1/10 A3→1/20 設計年月日

工事名称	遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事 (南—テナガザル舎)
図面名称	建具詳細図 (LSD-2B)

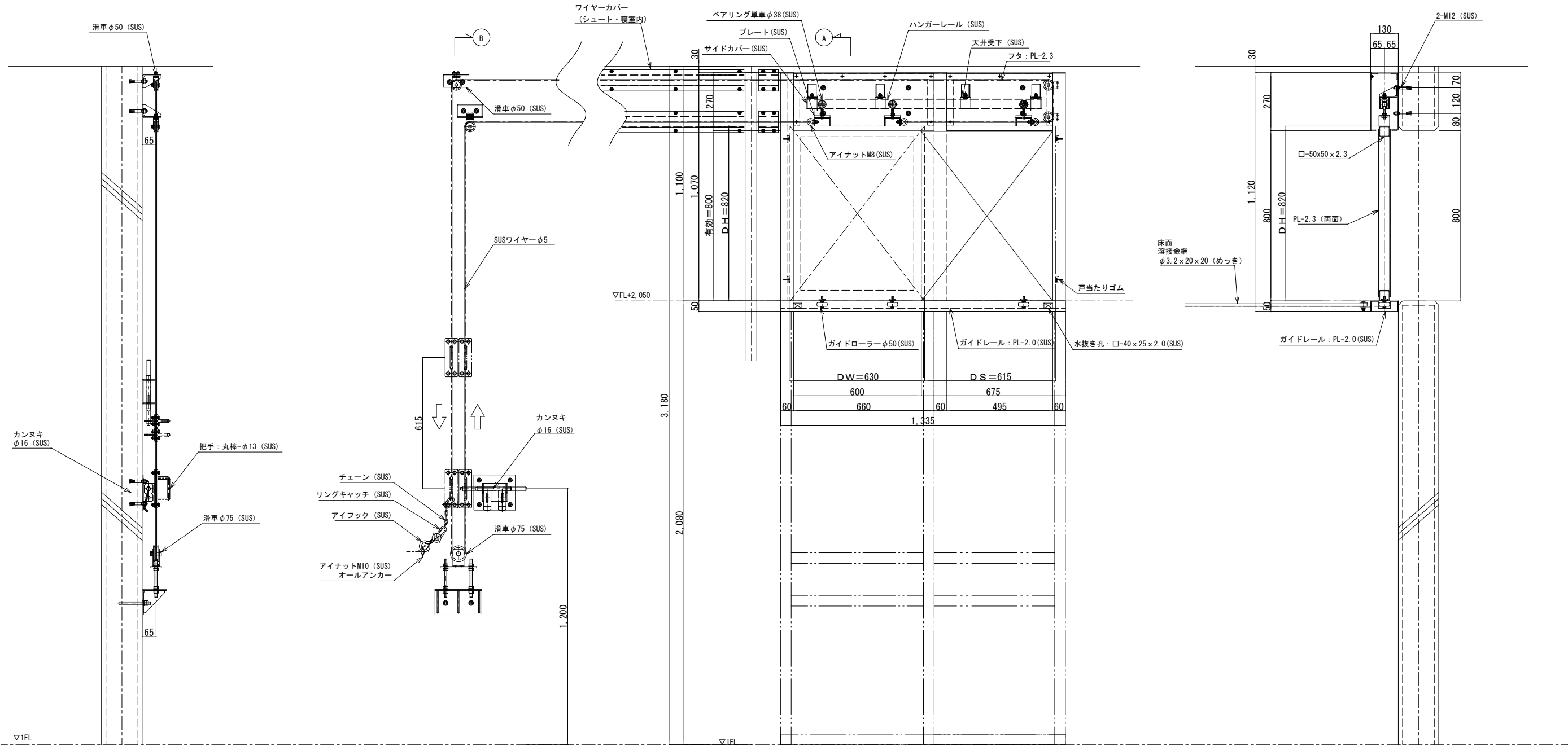
南テ A-19
No.

符 号	数 量	取付場所 種 類	ダブルキャッチ	
			片引き戸	
LSD 2C	1	鋼材・仕上	SS材・溶融亜鉛めっき仕上	
部 品 名		品 番	数 量	摘 要
SUS/ベアリング単車			2	
SUS/プレート			2	
SUS/ハンガーレール			1	
SUS/サイドカバー			2	
SUS/天井受下			4	
SUS/ガイドローラー			2	
SUS/ガイドレール			1	
SUS/カンヌキ			1	
戸当たりゴム			4	
SUS/滑車φ50			10	
SUS/滑車φ75			1	

(部品数量は1台当りの数量を示す。)



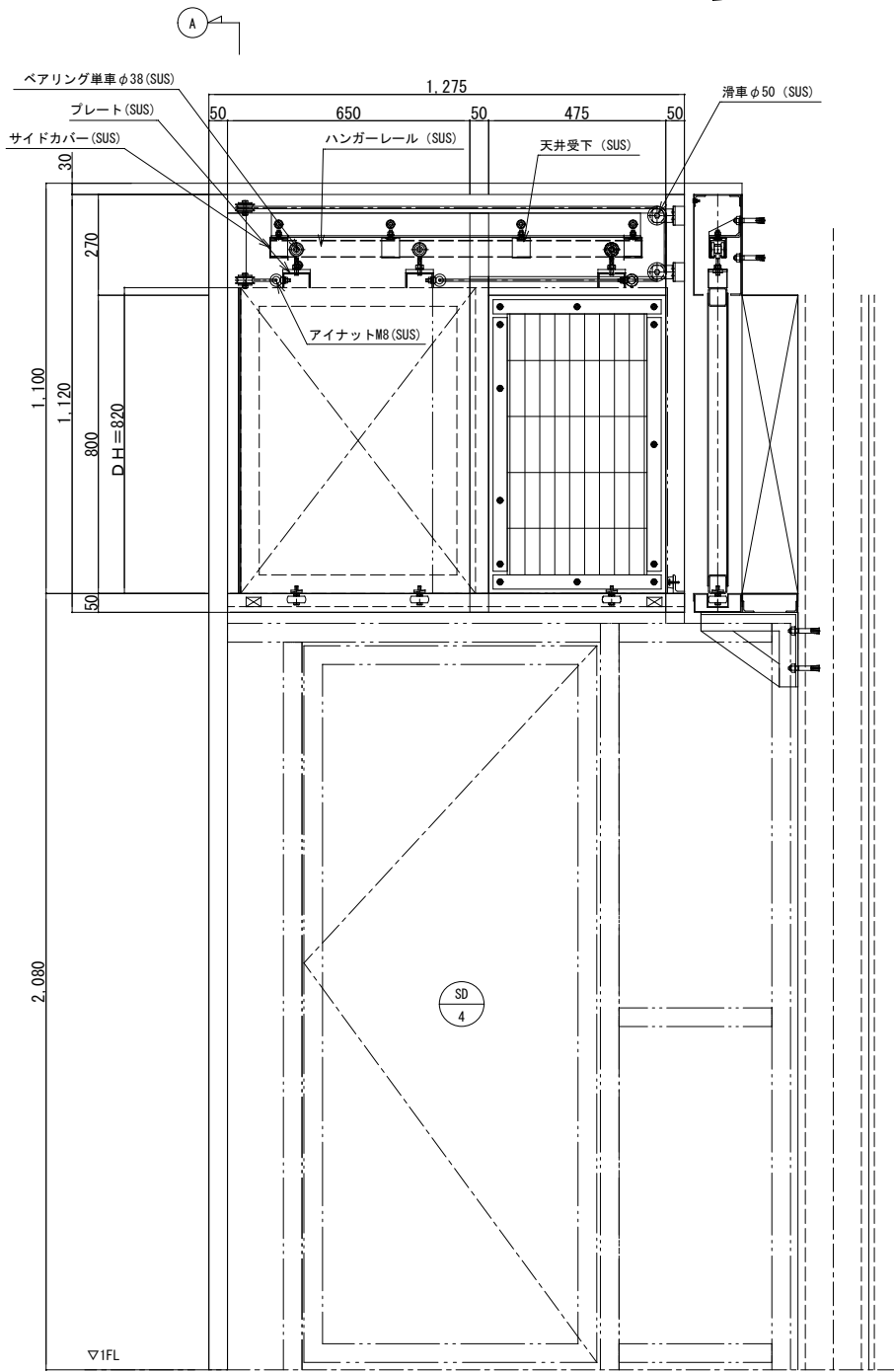
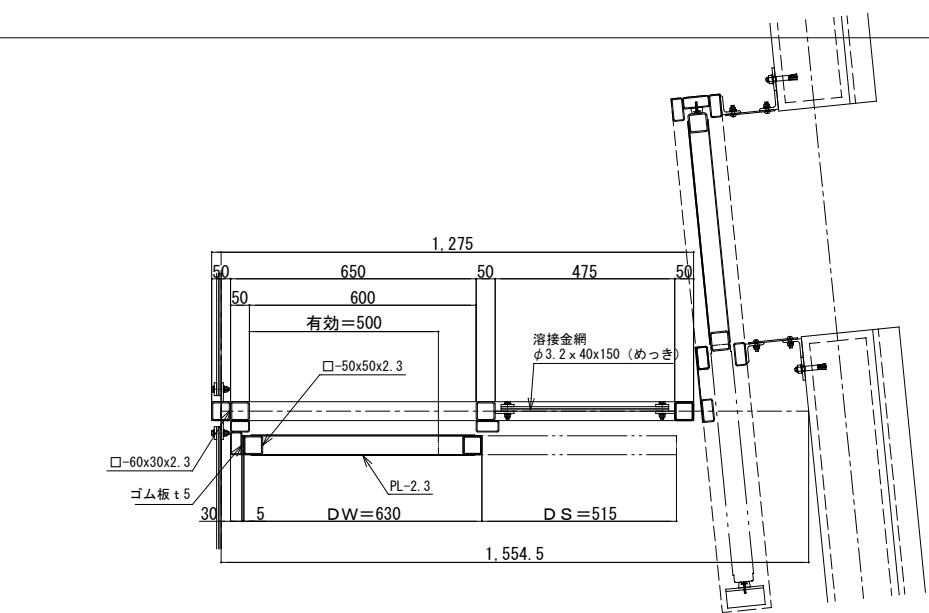
平面図



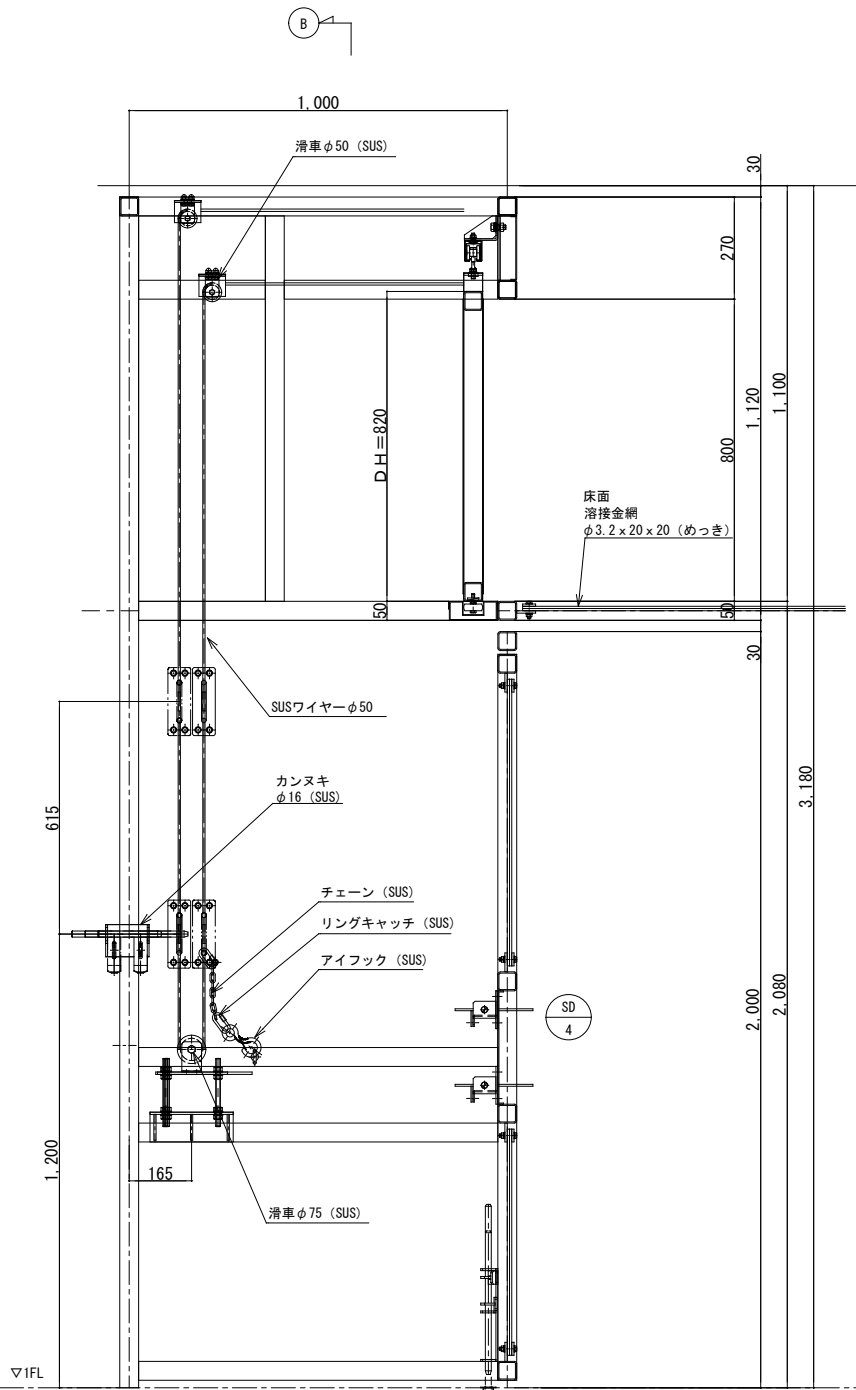
B-断面

立面図

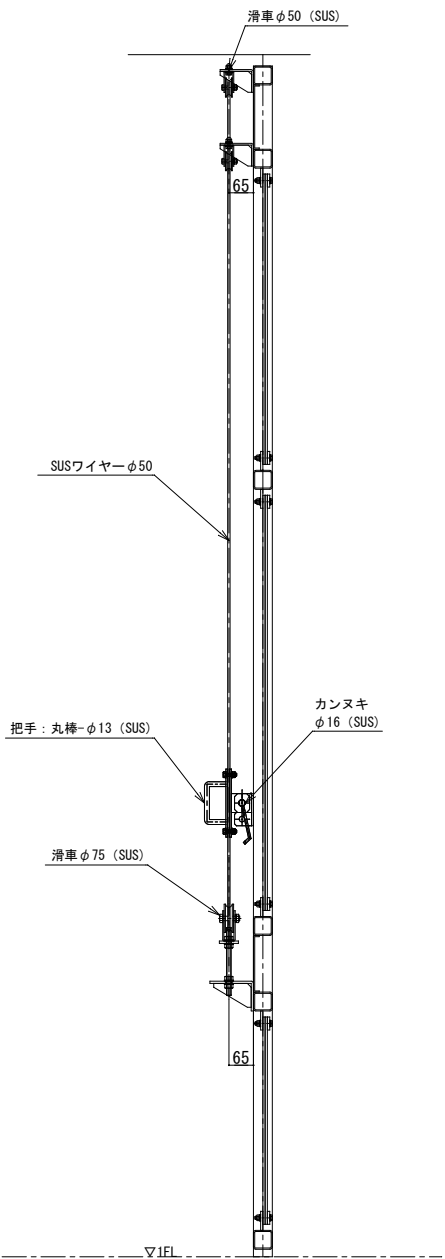
A-断面



立面図



A-断面図



B-断面

符 号	数 量	取付場所	ダブルキャッチ	
			種 類	片引き戸
LSD 4	1	鋼材・仕上	SS材・溶融亜鉛めっき仕上	
部 品 名		品 番	数 量	摘 要
SUS/ベアリング単車			2	
SUS/プレート			2	
SUS/ハンガーレール			1	
SUS/サイドカバー			2	
SUS/天井受下			4	
SUS/ガイドローラー			2	
SUS/ガイドレール			1	
SUS/カンヌキ			1	
戸当たりゴム			1	
ゴム板 t5			1	
SUS/滑車 φ50			6	
SUS/滑車 φ75			1	

(部品数量は1台当りの数量を示す。)

特 記
事 項



山梨建築設計監理事業協同組合

承認	設計	担当	縮 尺
	一級建築士 第145710号 佐野 正秀	一級建築士 第300579号 丹沢 浩己	A1→1/10 A3→1/20 設計年月日

工事名称	遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事 (南—テナガザル舎)
図面名称	建具詳細図 (LSD-4)

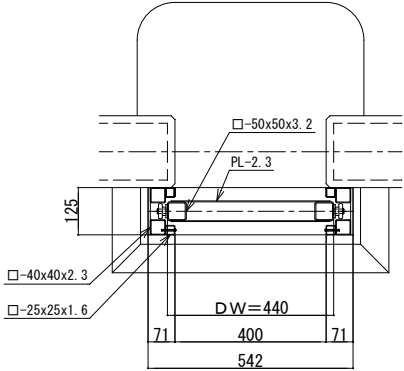
南テ A-21
No.

符 号 数 量		取付場所	キーパー通路	
LSD 3	3	種 類	ウェイト	
		鋼材・仕上	SS材・溶融亜鉛めっき仕上	
ウェイト側				
部 品 名		品 番	数 量	摘 要
SUS/滑車 (φ50)			1	
SUS/アイボルト		M10	1	
SUS/ライトシンプル			1	
SUS/ワイヤークリップ			4	
SUS/ターンバックル			1	
SUS/ダブルカンスキ			1	

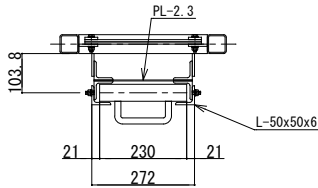
(部品数量は1台当りの数量を示す。)

符 号 数 量		取付場所	寝小屋1・2・3	
<div><div>LSD</div><div>3</div></div>	3	種 類	上下フラッシュ扉	
		鋼材・仕上	SS材・溶融亜鉛めっき仕上	
扉側				
部 品 名		品 番	数 量	摘 要
SUS/滑車 (φ50)			1	
SUS/アイボルト		M10	1	
SUS/ライトシンプル			1	
SUS/ガイドローラー			4	

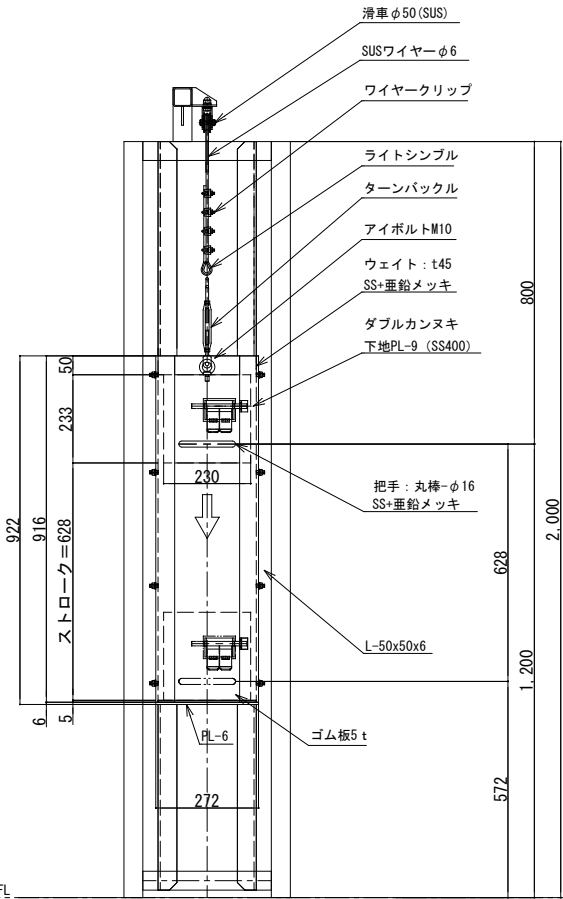
(部品数量は1台当りの数量を示す。)



扉 平面図

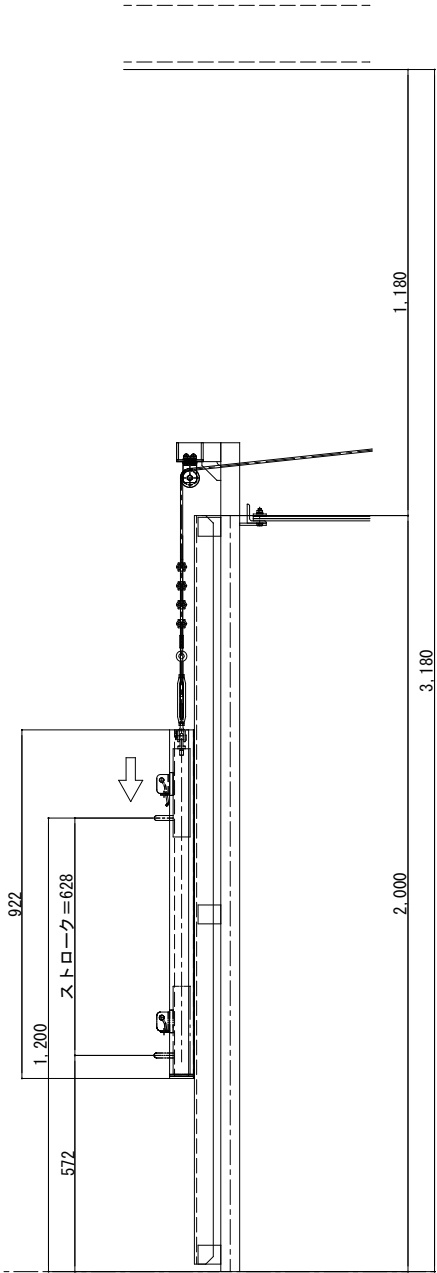


ウェイト 平面図

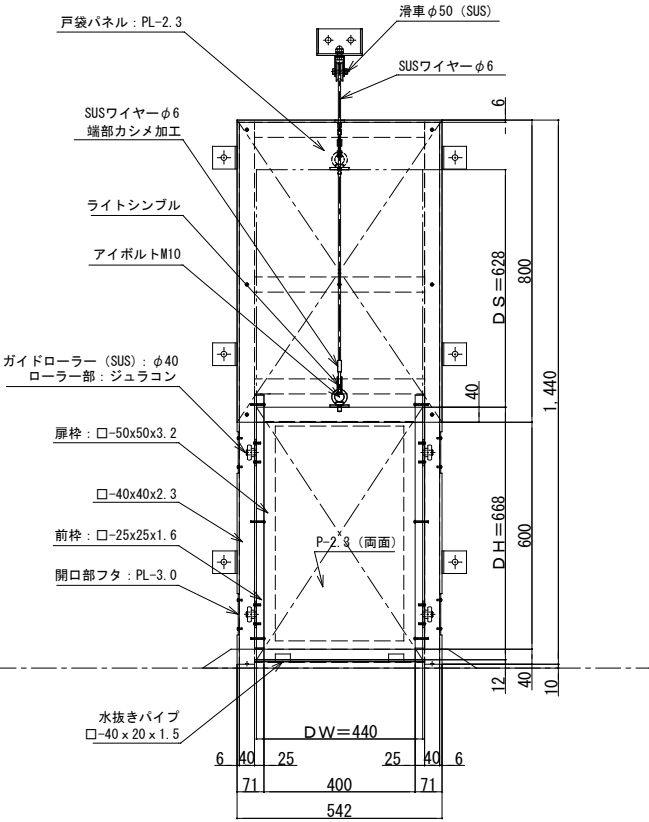
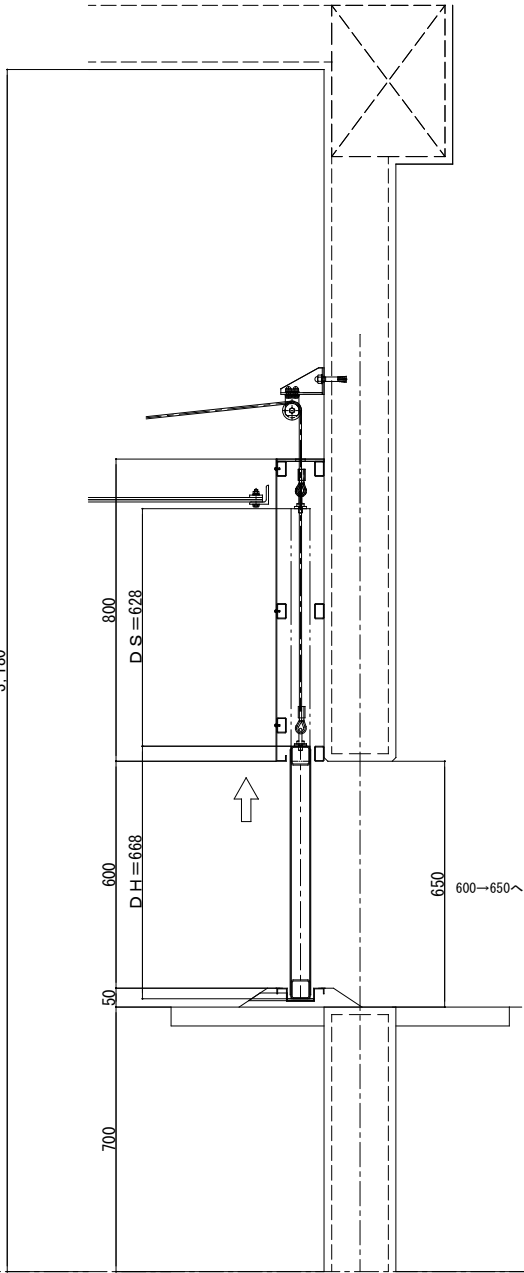


ウェイト 立面図

ウェイト=約18.9kg



断面図



扉 立面図

扉重量：約18.9kg

特 記 _____

事 項 _____



山梨建築設計監理事業協同組合

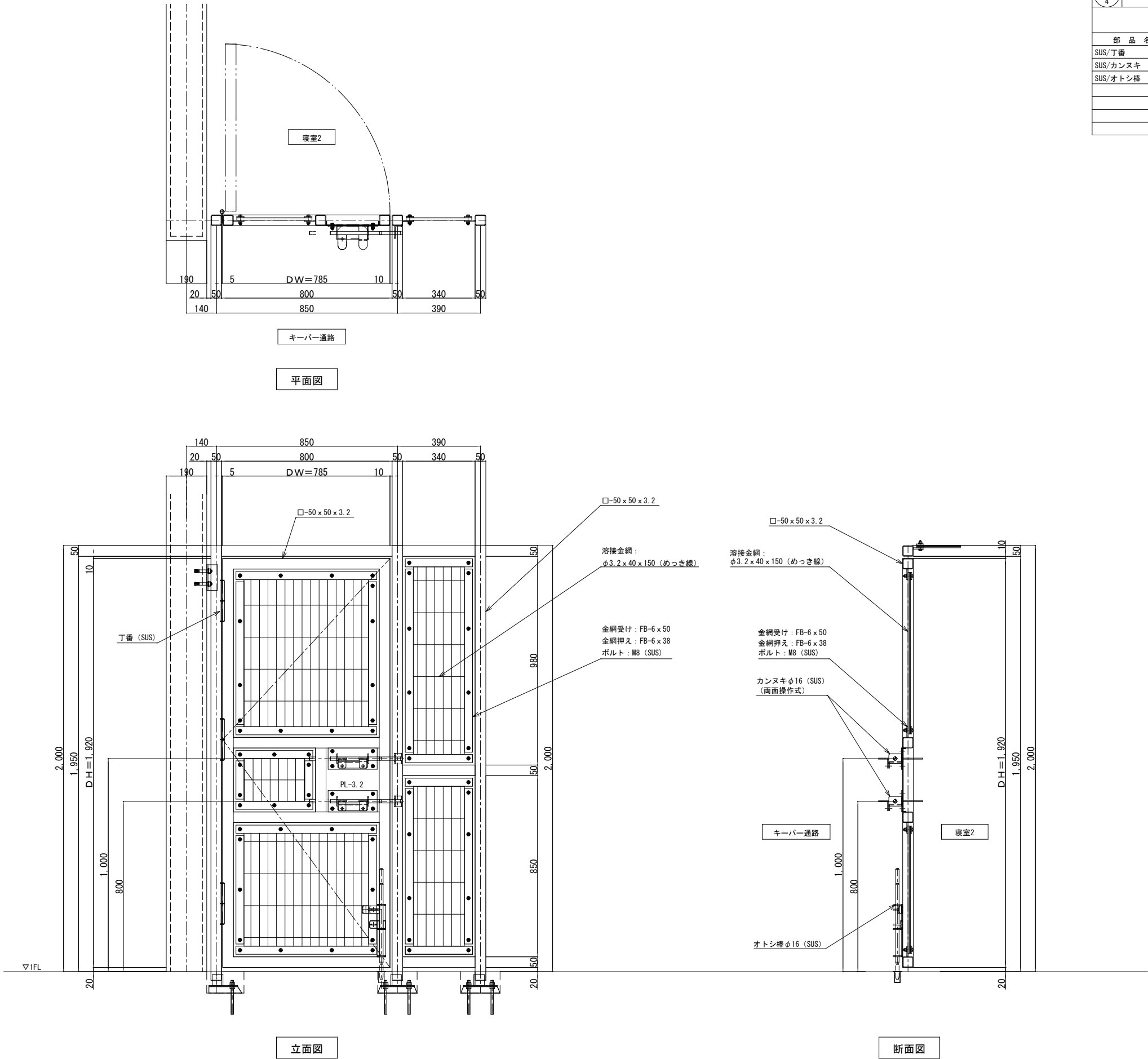
承認	設計	担当	縮 尺
	一級建築士 第145710号 佐野 正秀	一級建築士 第300579号 丹沢 浩己	A1→1/10 A3→1/20 設計年月日

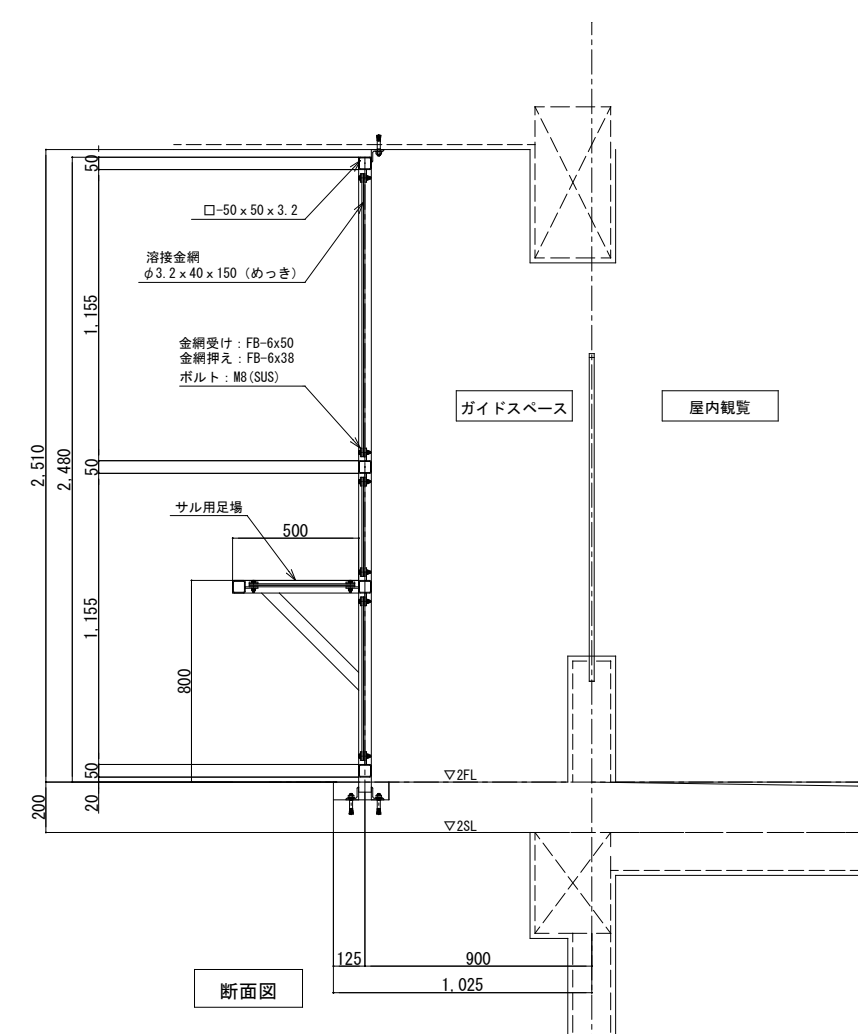
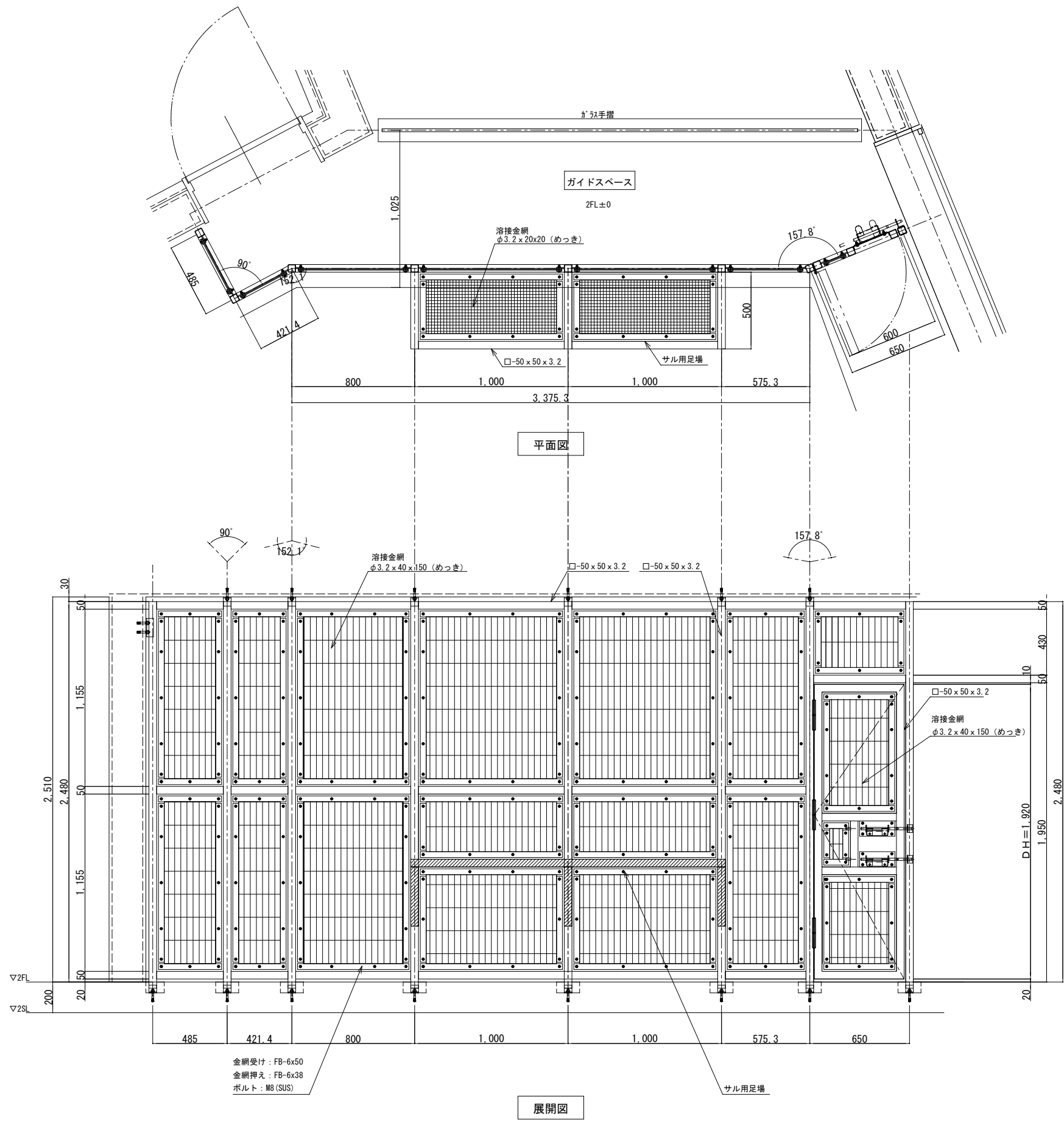
工事名称	遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事 (南—テナガザル舎)
図面名称	建具詳細図 (LSD-3)


南テ A-22
No.

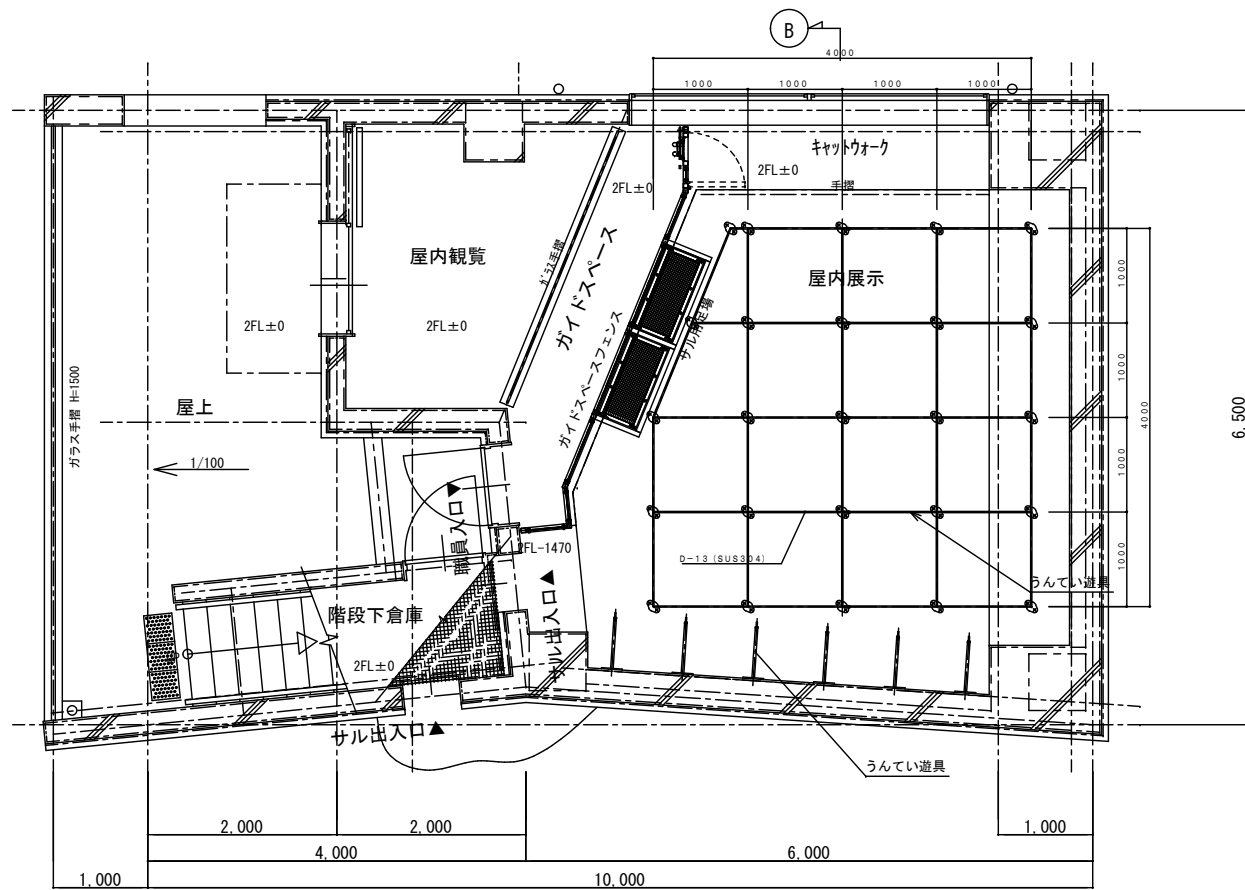
符 号 数 量		取付場所	寝室1・2・3、ダブルキャッチ	
SD 4	4	種 類	片開き扉	
		鋼材・仕上	SS材・溶融亜鉛めっき仕上	
		金 網	溶接金網： φ3.2×40×150（めっき線）	
部 品 名		品 番	数量	摘 要
SUS/丁番			3	
SUS/カンヌキ			2	両面操作式
SUS/オトシ棒			1	

（部品数量は1台当りの数量を示す。）

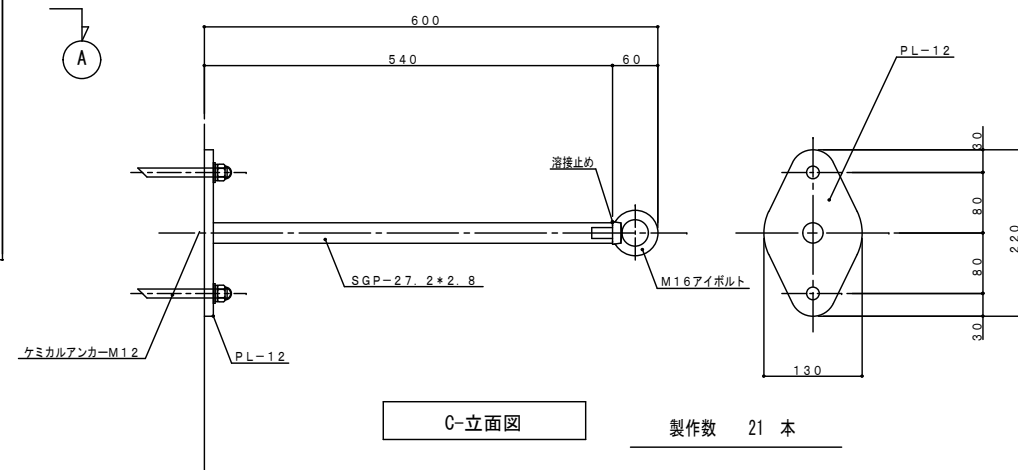




特記事項	<div><div></div><div>山梨建築設計監理事業協同組合</div></div>	承認	設計	担当	縮尺 A1→1/15 A3→1/30 設計年月日	遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事 (南テナガザル舎)	工事名称	図面名称 2F ガイドスペースフェンス姿図	南テ A-24 No.
			一級建築士 第145710号 佐野 正秀	一級建築士 第300579号 丹沢 浩己					

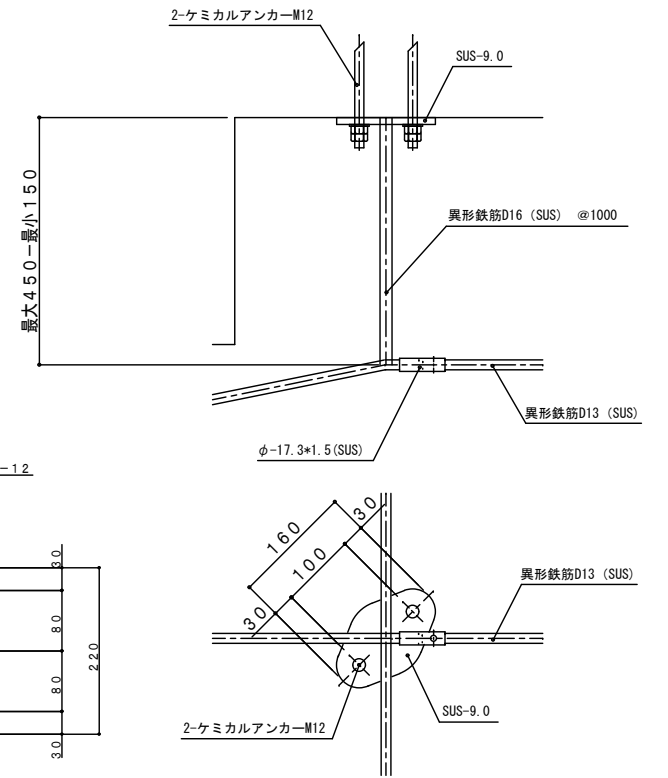


うんてい遊具配置図

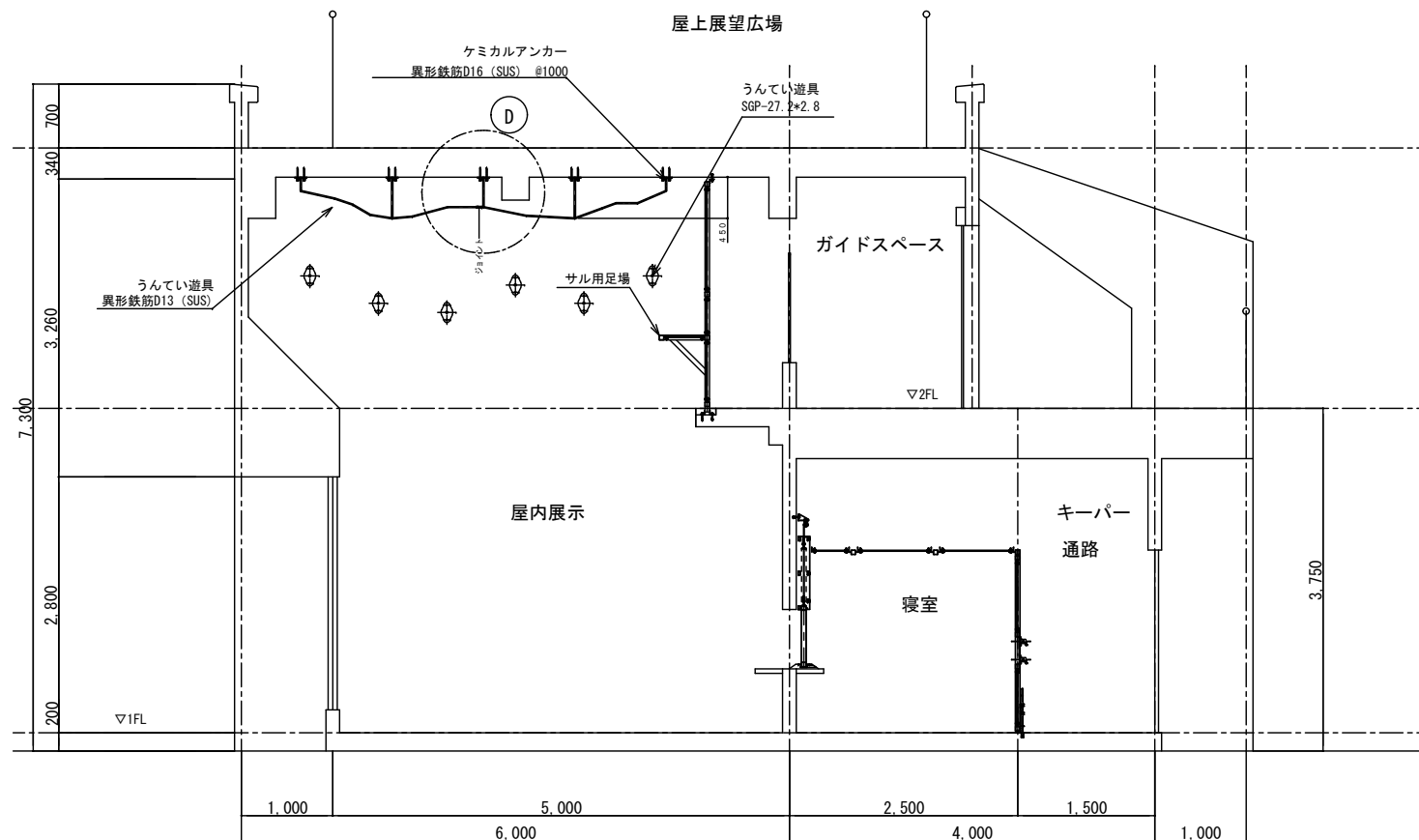


C-立面図

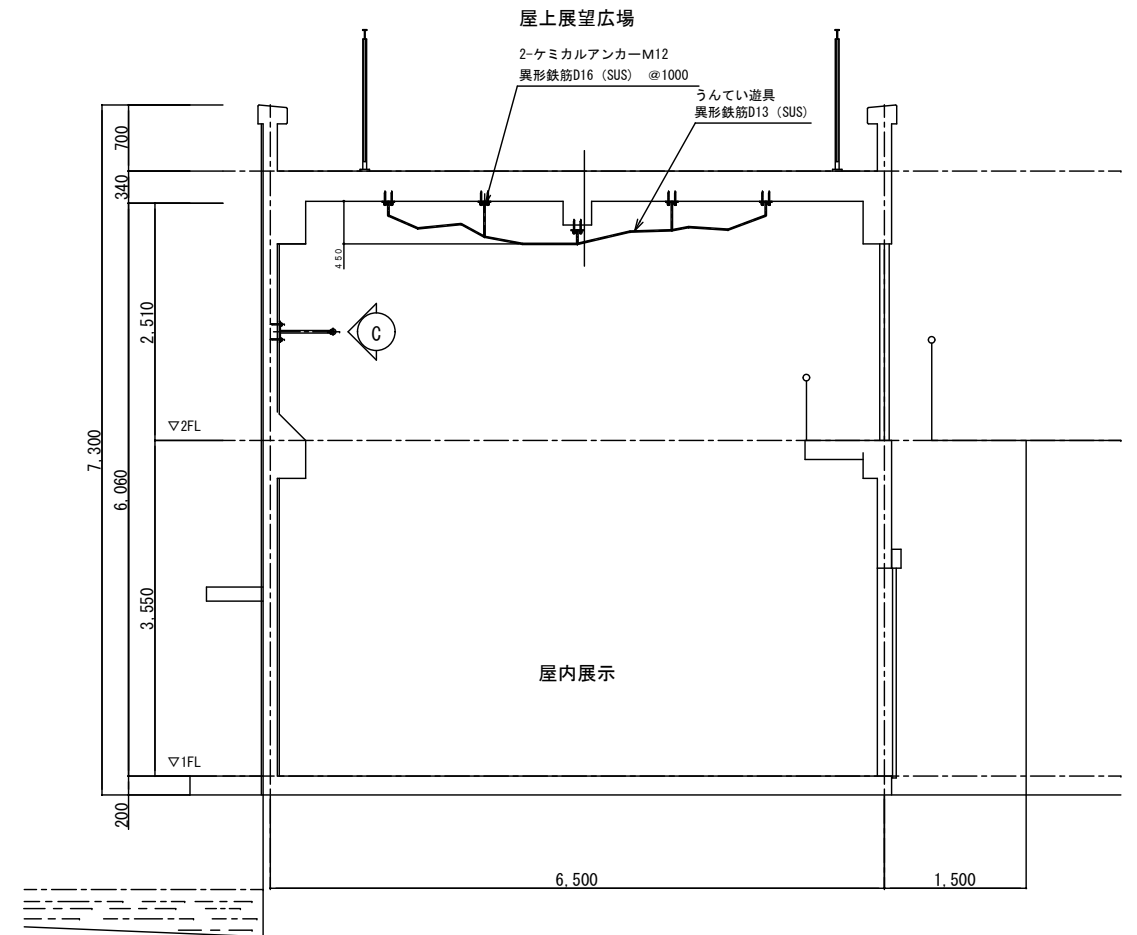
製作数 21 本



D 拡大図 S=1:5



A-断面図



B-断面図

特記事項

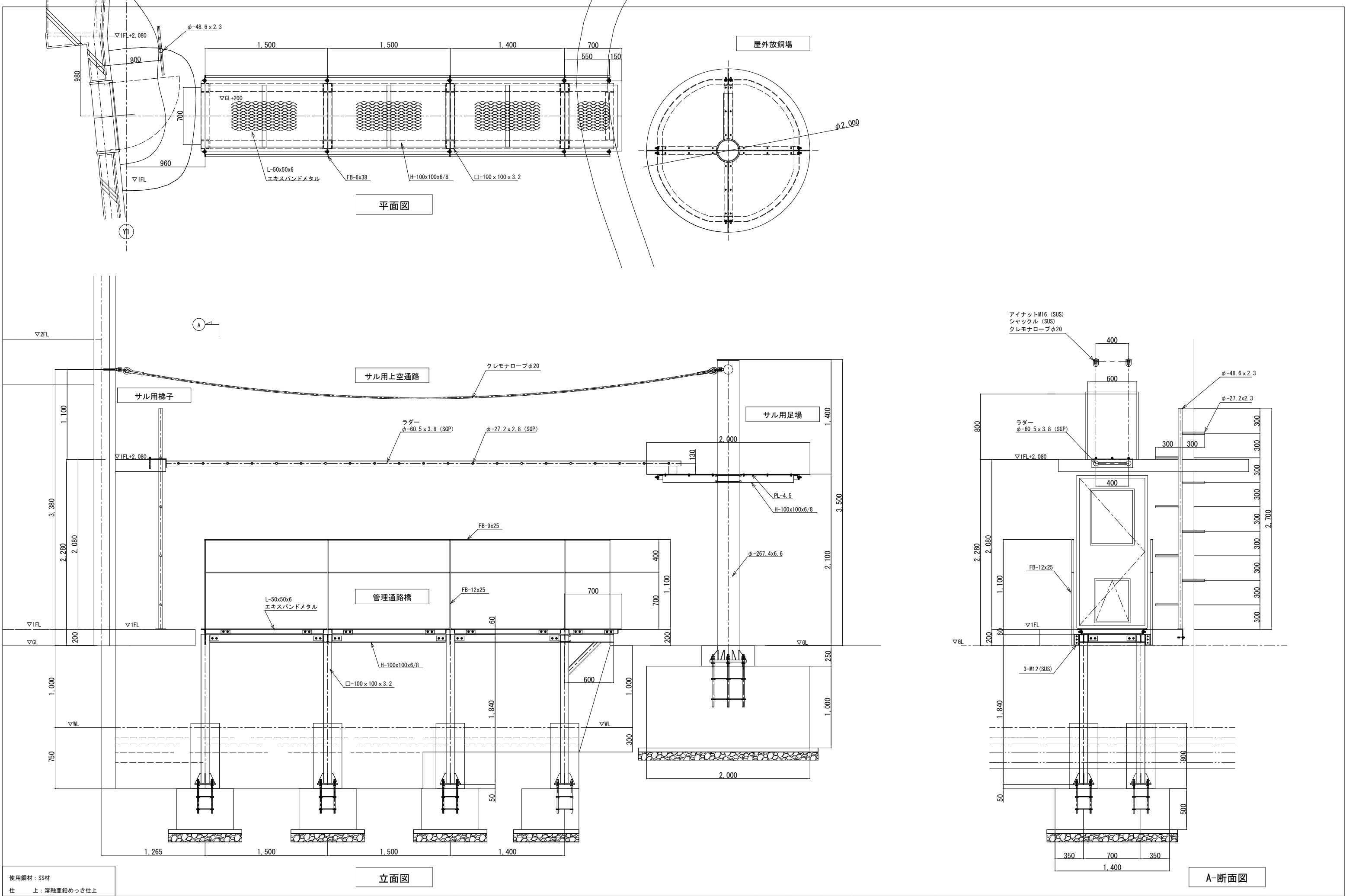



山梨建築設計監理事業協同組合

承認 設計 担当 縮尺
A1→1/40 A3→1/80
A1→1/5 A3→1/10
設計年月日

工事名称 遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事
(南テナガザル舎)
図面名称 屋内展示 うんてい遊具詳細図

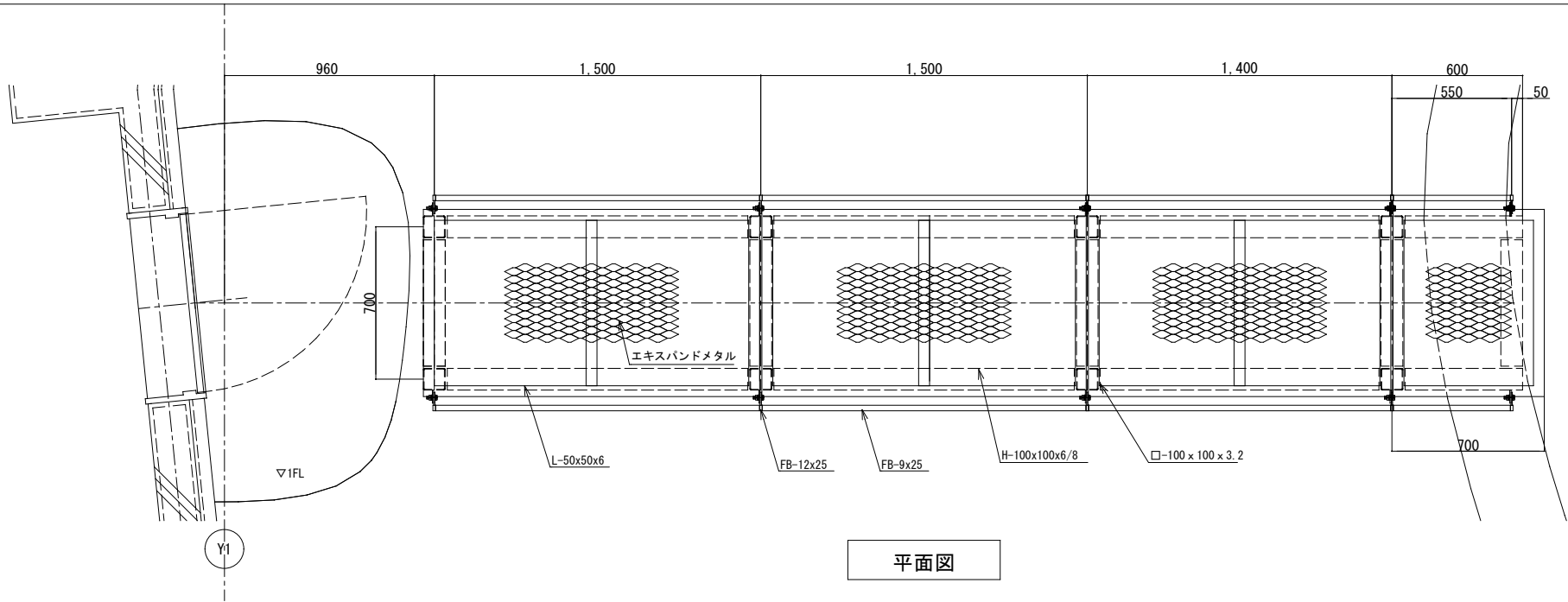
南テ A-25
No.



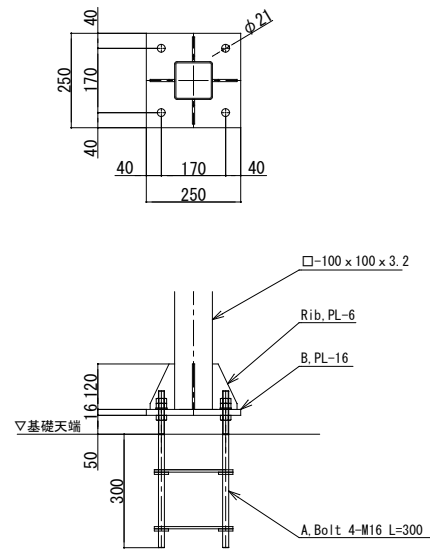
使用鋼材：SS材 仕上：溶融亜鉛めっき仕上		立面図		1.400		A-断面図	
特記事項		 山梨建築設計監理事業協同組合		承認設計担当縮尺		遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事 (南一テナガザル舎)	
				一級建築士 第145710号 佐野 正秀		A1→1/20 A3→1/40 設計年月日	
				一級建築士 第300579号 丹沢 浩己		図面名称 屋内放飼場～屋外放飼場 姿図	

承認	設計	担当	縮 尺
	一級建築士 第145710号 佐野 正秀	一級建築士 第300579号 丹沢 浩己	A1→1/20 A3→1/40 設計年月日

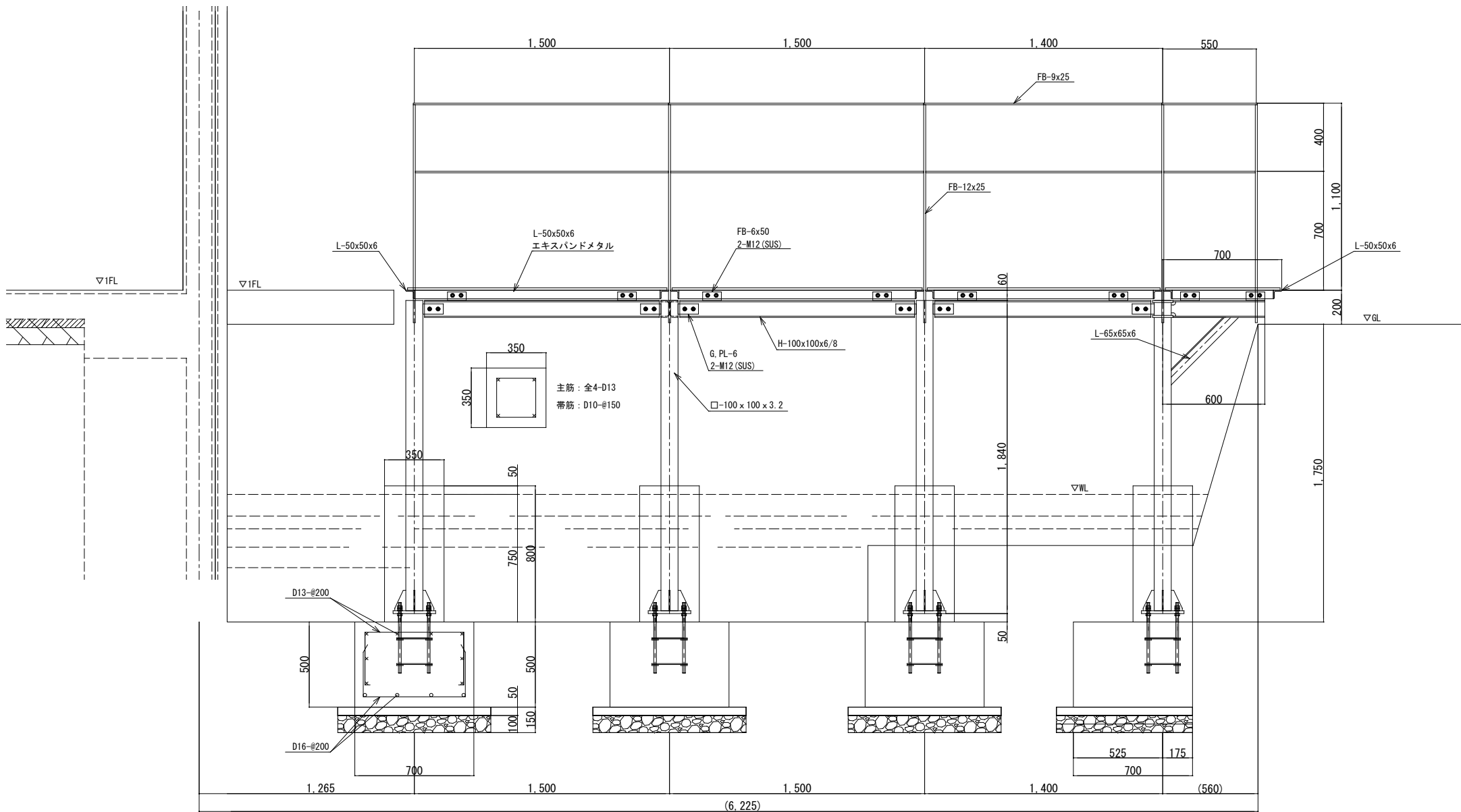
工事名称	遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事 (南テナガザル舎)
図面名称	屋内放飼場～屋外放飼場 姿図



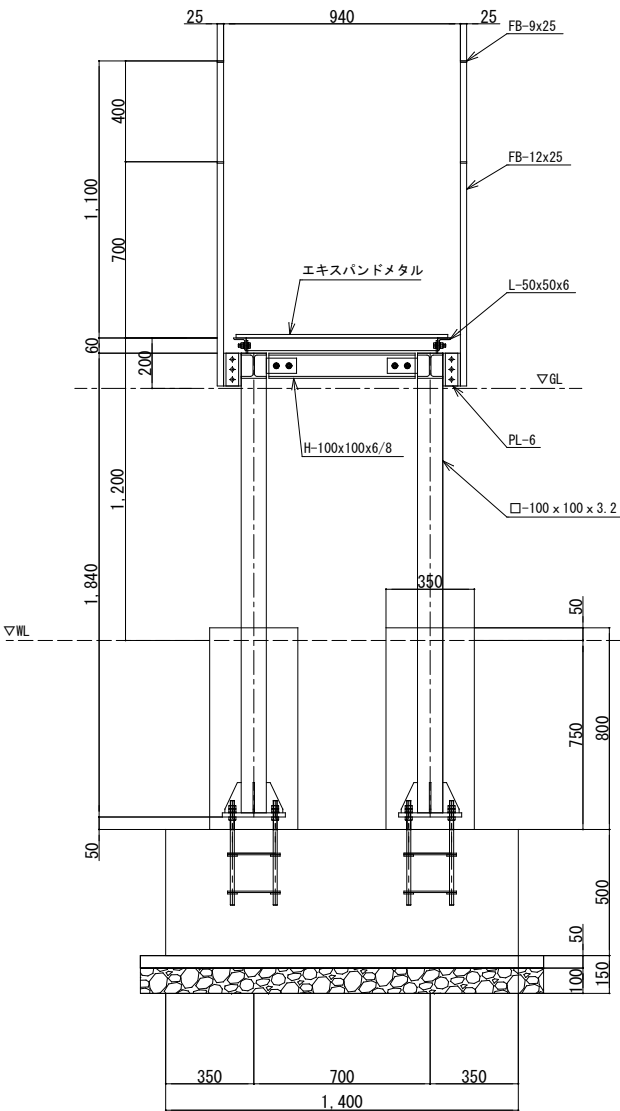
平面図



脚部詳細図 S=1 : 10



立面図



断面図

使用鋼材 : SS材
仕 上 : 溶融亜鉛めっき仕上

特 記
事 項

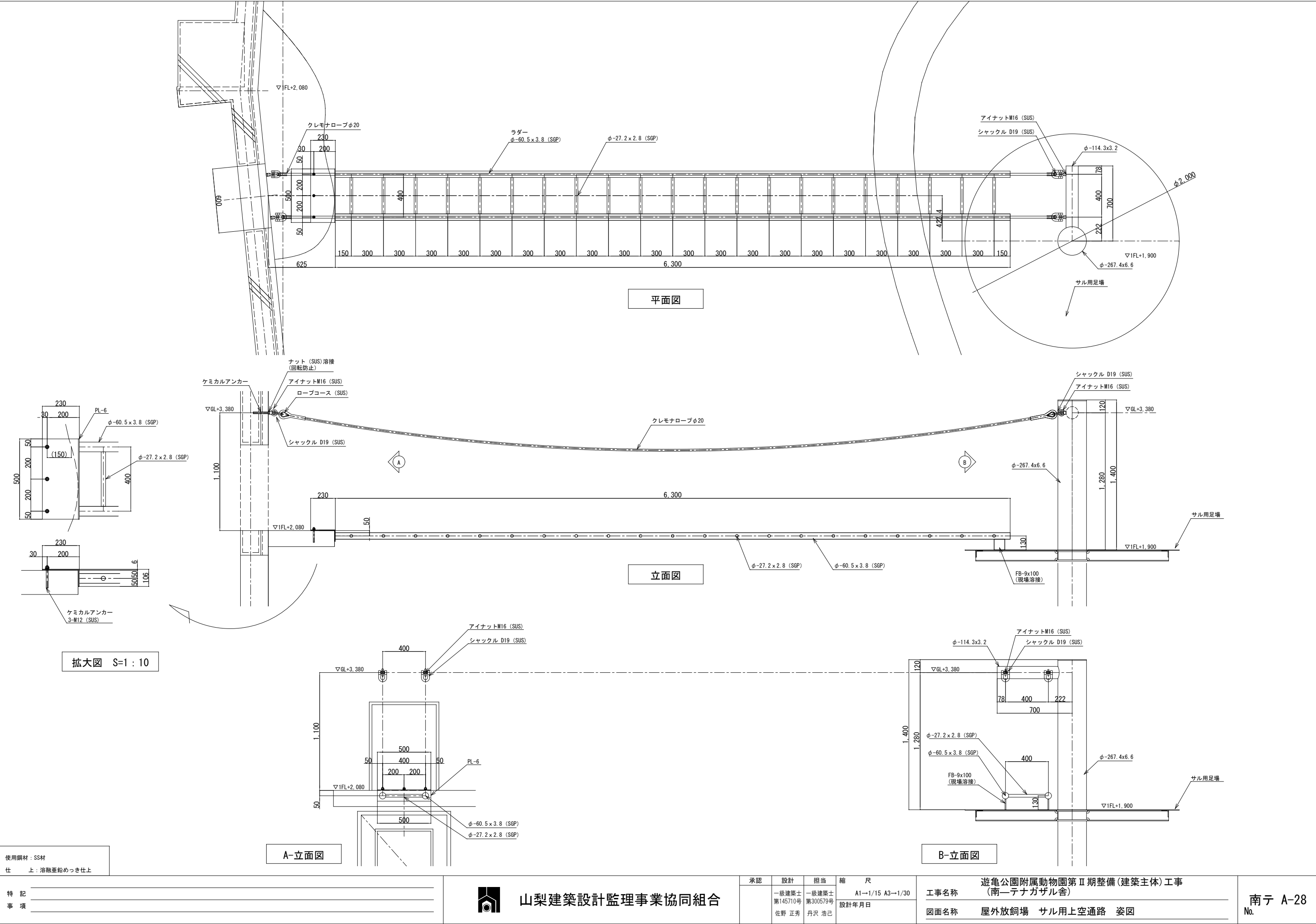


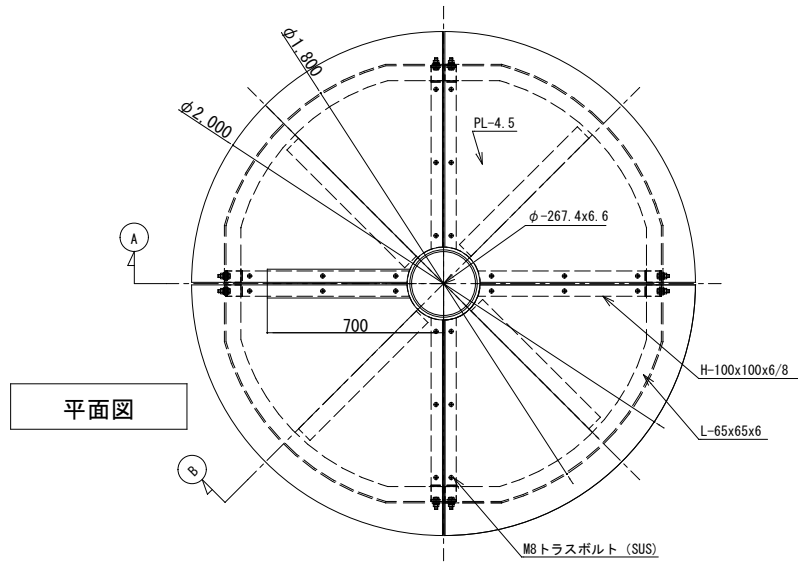
山梨建築設計監理事業協同組合

承認 設計 担当 縮 尺
一級建築士 一級建築士 A1→1/15 A3→1/30
第145710号 第300579号
佐野 正秀 丹沢 浩己
設計年月日

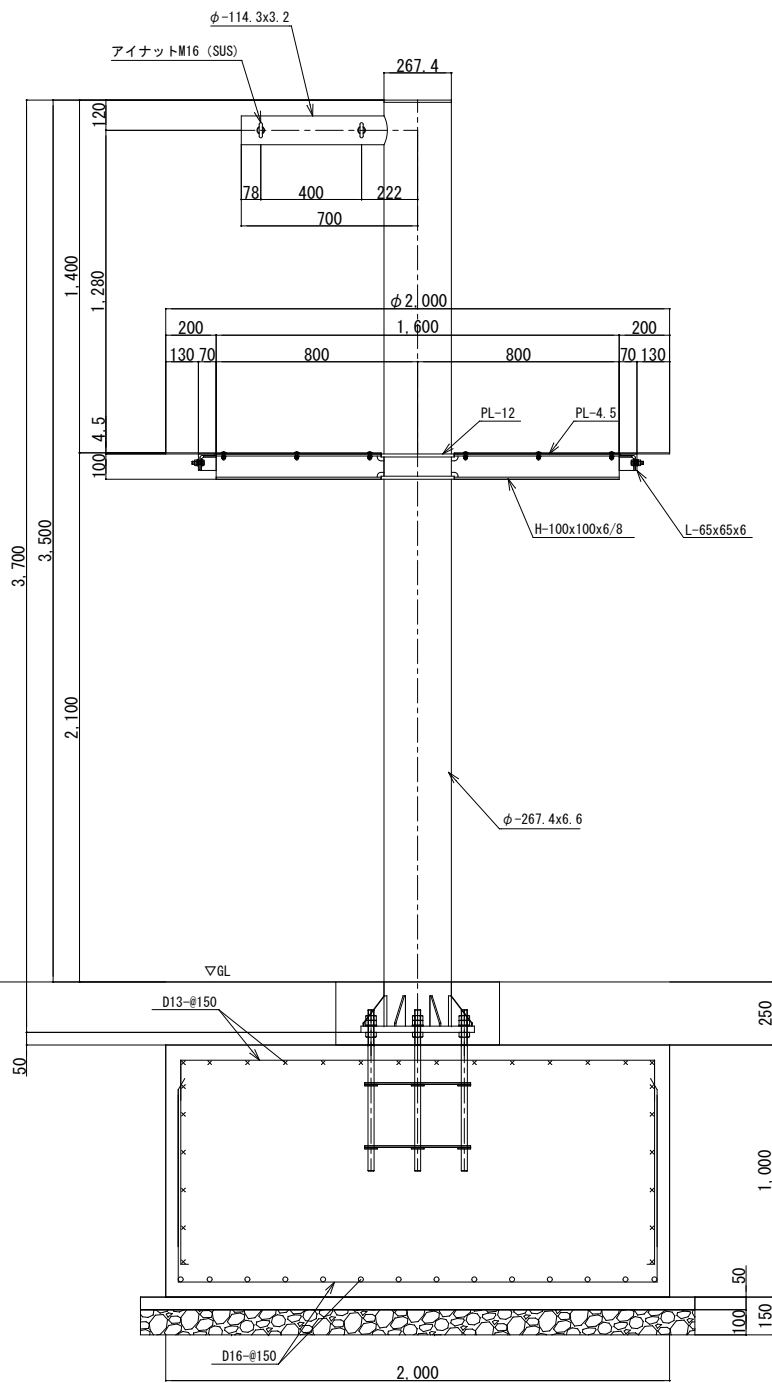
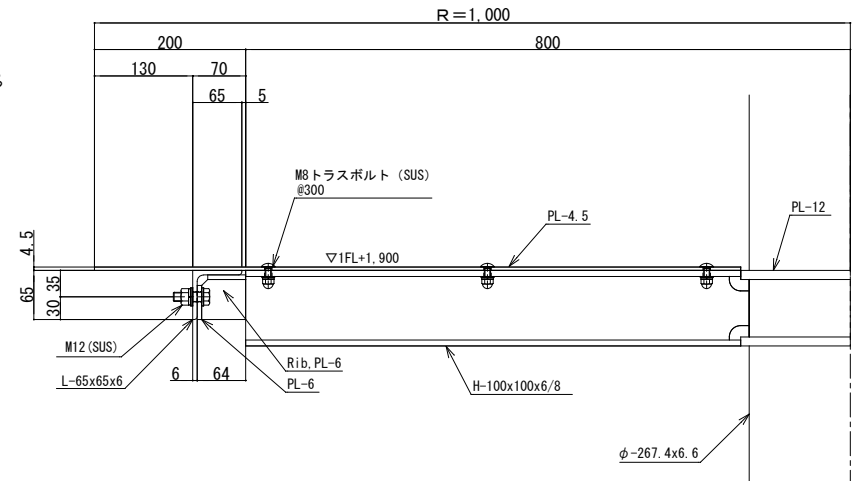
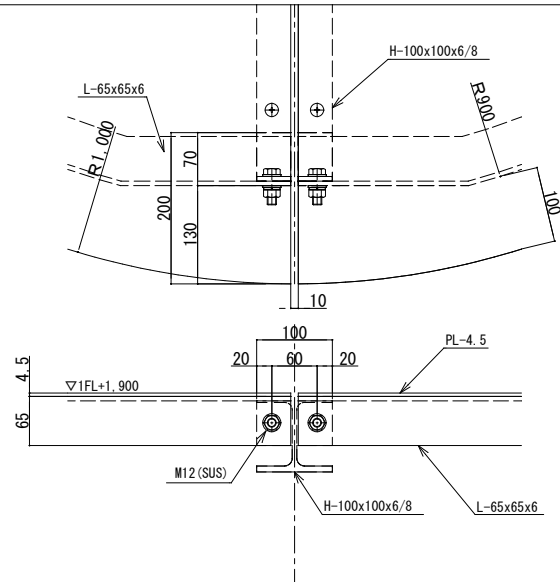
工事名称 遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事
(南一テナガザル舎)
図面名称 屋外放飼場管理通路橋梁図

南テ A-27
No.

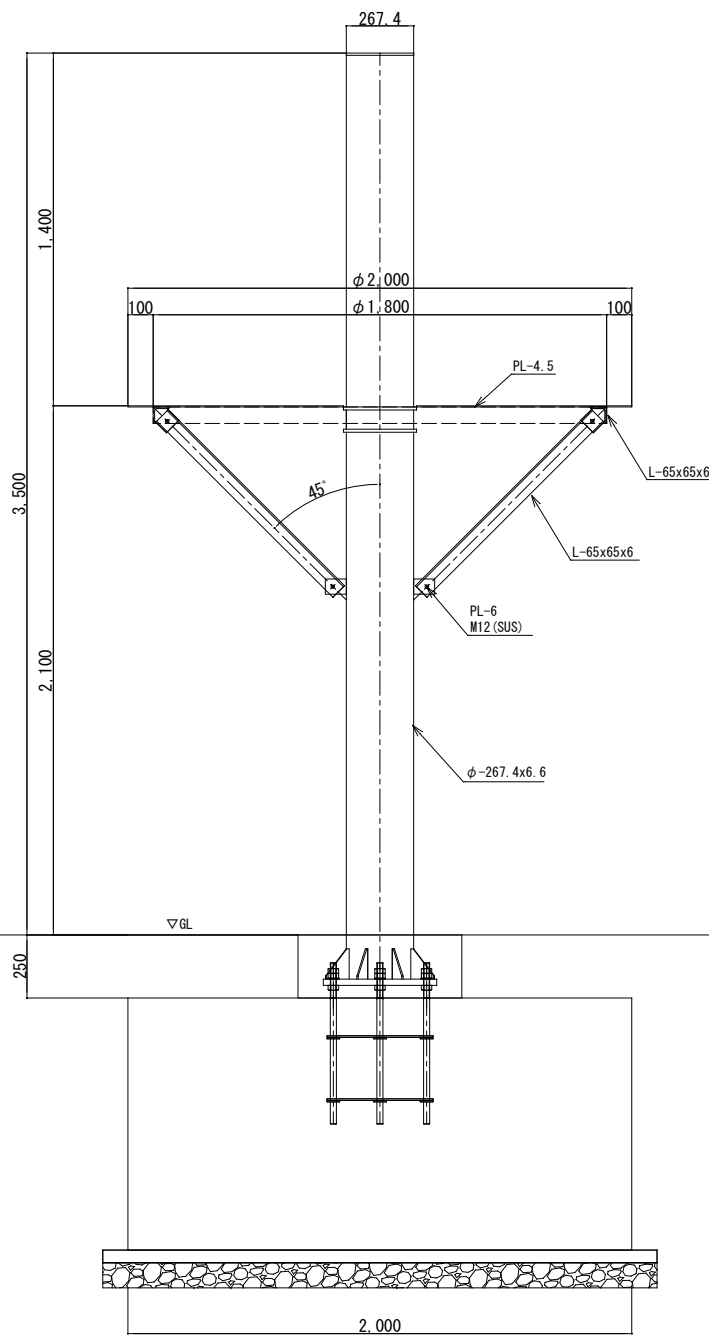




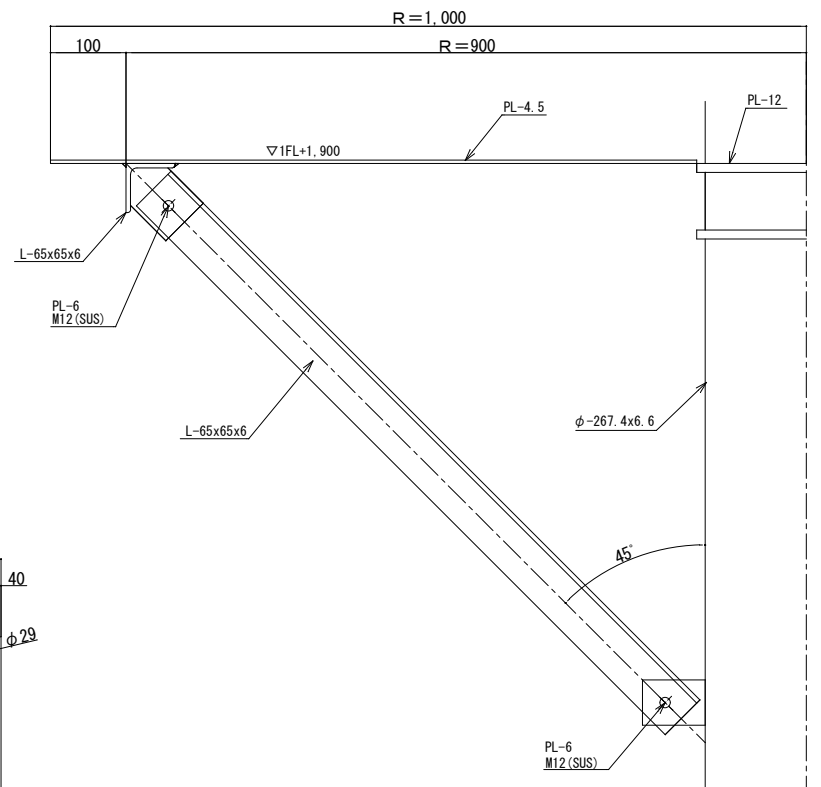
平面図



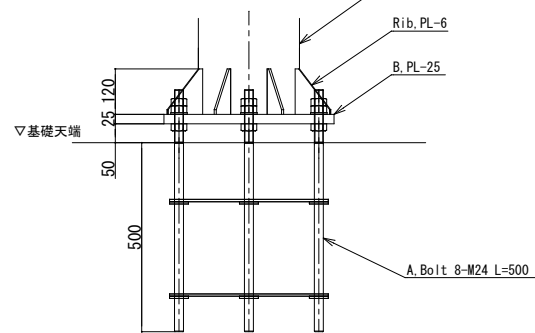
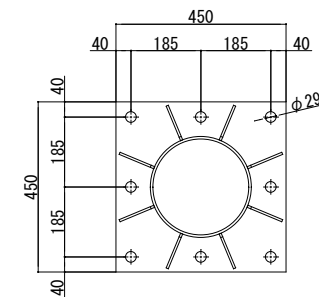
A-断面図



B-断面図



断面拡大図 S=1 : 5



脚部詳細図 S=1 : 10

使用鋼材 : SS材
仕 上 : 溶融亜鉛めっき仕上

特 記
事 項

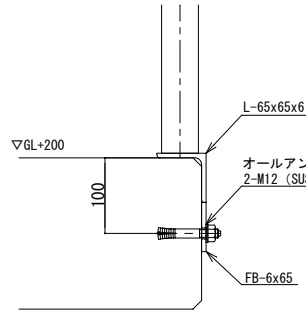
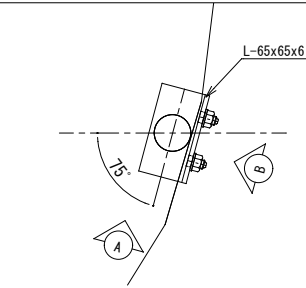
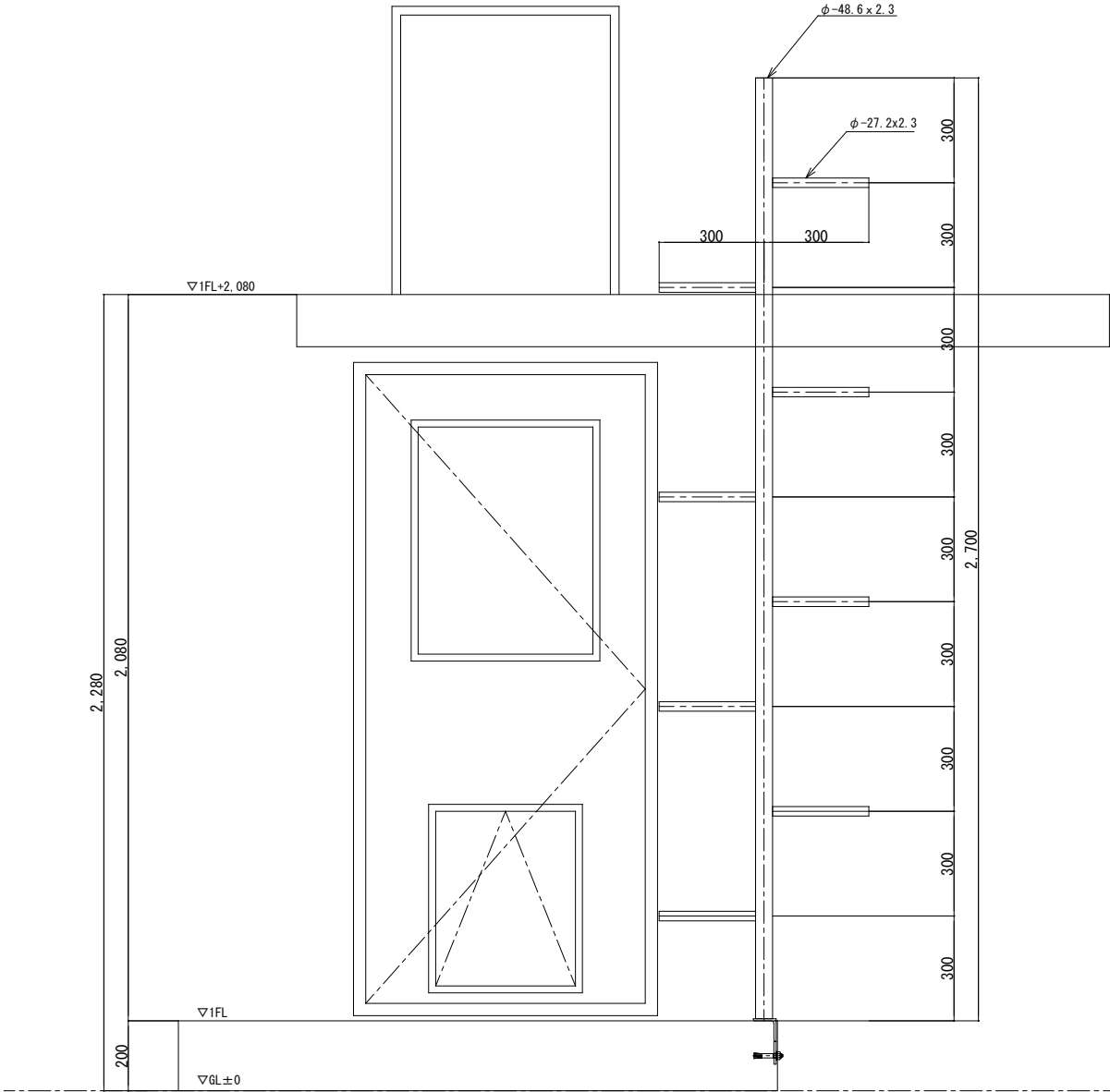
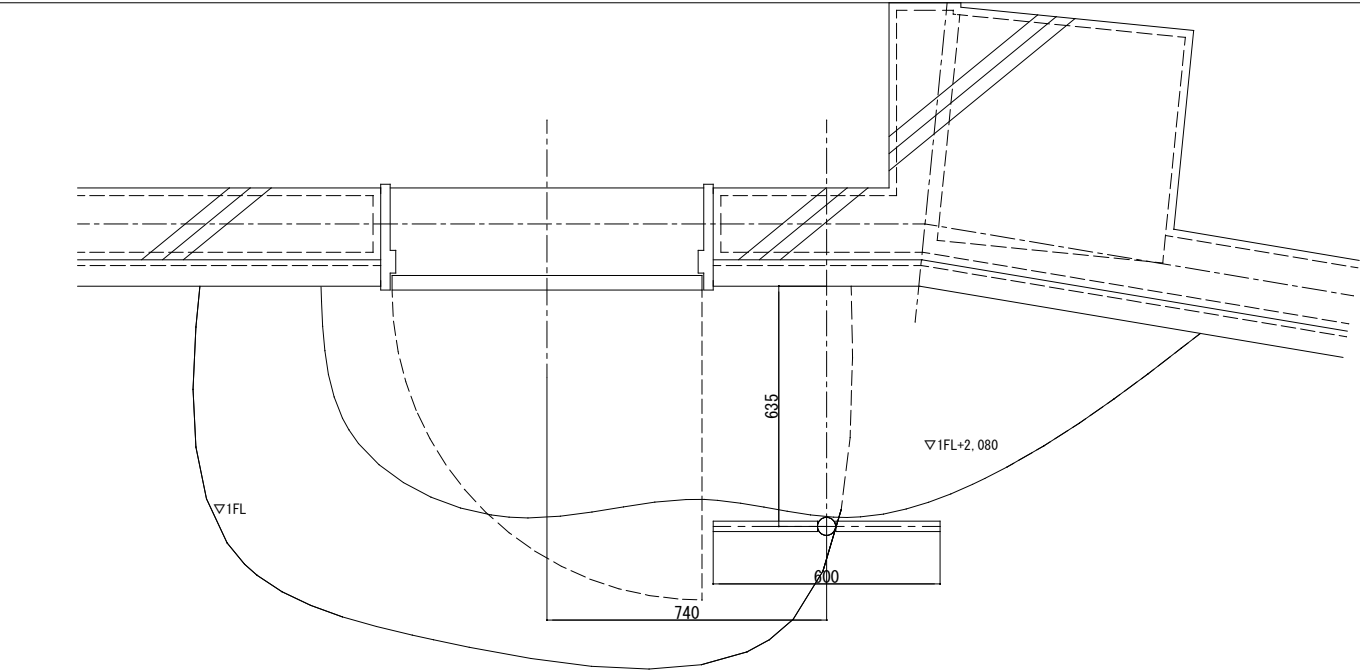


山梨建築設計監理事業協同組合

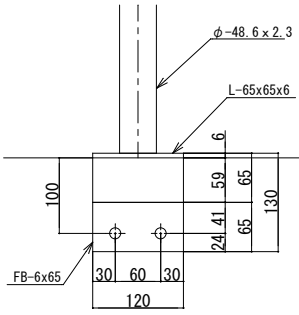
承認 設計 担当 縮 尺
一級建築士 一級建築士 A1→1/15 A3→1/30
第145710号 第300579号
佐野 正秀 丹沢 浩己
設計年月日

工事名称 遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事
(南テナガザル舎)
図面名称 屋外放飼場 サル用足場 姿図

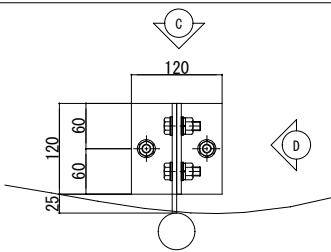
南テ A-29
No.



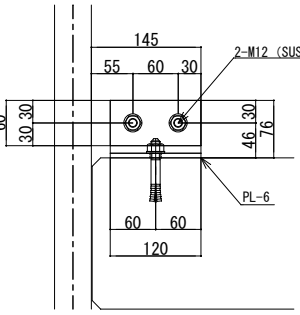
A-立面図



B-立面図

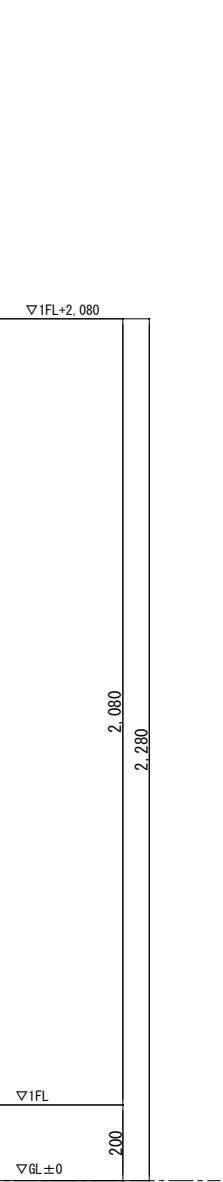
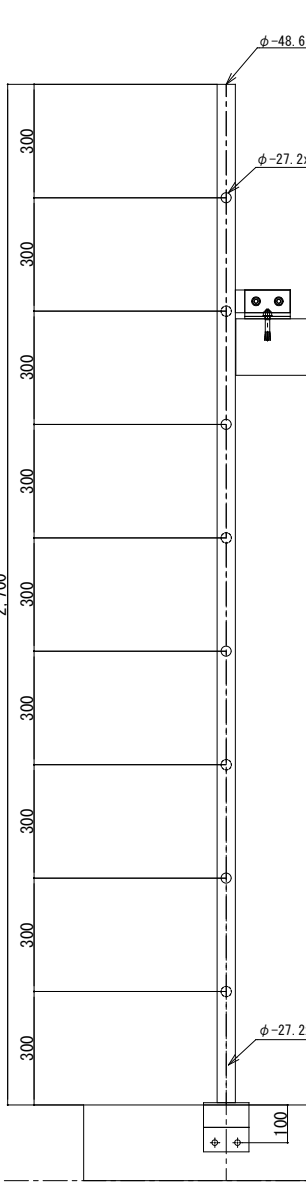


C-立面図



D-立面図

部分拡大図 S=1 : 5



使用鋼材 : SS材
仕 上 : 溶融亜鉛めっき仕上

特 記
事 項



山梨建築設計監理事業協同組合

承認	設計	担当	縮 尺
	一級建築士 第145710号 佐野 正秀	一級建築士 第300579号 丹沢 浩己	A1→1/10 A3→1/20 設計年月日

工事名称	遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事 (南テナガザル舎)
図面名称	屋外放飼場 サル用梯子 姿図

南テ A-30
No.

構造設計特記仕様

適用は●印を記入する。

1. 建築物の構造内容

（１）

工事名称
遊亀公園付属動物園第Ⅱ期整備（建築主体）工事（テナガザル舎）

建築場所
甲府市太田町10-1

（２）

工事種別
●新築
増築
改築

（３）

構造設計一級建築士の関与
必要
必要としない

（４）

構造種別
法第20条第一号（高さ60m超）
法第20条第二号（RC造高さ20m超 S造4階建以上 木造高さ13m超 その他）
注（３）構造設計一級建築士の関与が義務づけられる建築物については解説書を参照して確認する事。

（５）

構造種別
木造(W) 補強コンクリートブロック造(OB) 鉄骨造(S) ※補助部材
鉄筋コンクリート造(RC) 壁鉄筋コンクリート造(WRC)
鉄骨鉄筋コンクリート造(SRC) 壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造(WPRC)
プレキャスト鉄筋コンクリート造(PRC)

（６）

階数
地下 一階 地上 2 階 塔屋 階

（７）

主要用途
動物園（テナガザル舎）

（８）

屋上附属物
高架水槽 kN キュービクル kN 広告塔 煙突

（９）

特別な荷重
エレベーター9人乗（マンリムレス ロープ式 油圧式） リフト kN ホイスト kN
倉庫積載床用 kN/m² 受水槽 kN

（１０）

付帯工事
門扉 擁壁 駐輪場 機械式駐輪場 外構工事

（１１）

増築計画
有（ ） 無（●）

（１２）

構造計算ルート
X方向 1 Y方向 1

3. 令129条の2の3の事項

●建築設備（昇降機を除く）、建築設備の支持部及び緊結金物は腐食または腐朽の恐れのないものとする。

●屋上から突出する水槽、煙突冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力状主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。

●煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。

●煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は、厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。

●建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、
●風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障がない構造とすること。
●建築物の部分を貫通して配管する場合に於いては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
●管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずる恐れがある場合において、伸縮継ぎ手又は可換継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
●管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。

●法第20条第一号から3号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものにあつては建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造上安全なものとすること。

6. 鉄筋コンクリート工事（施工方法等計画書）

本構造設計特記仕様はコンクリートの設計基準強度（F_c）が36N/mm²以下に適用し、鉄筋の材質はSD490以下に適用する。
JASS5は2009年度版を採用する。

（１）コンクリート
●コンクリートはJIS A 5308（レデミクストコンクリート）に適合するJIS認証工場製の製品とし、施工に関しては標準図に記載されている事項を除き、JASS5による。
打込み、締固め方法、打継部の処理の方法は7節に準拠する。養生方法・その他は8節に準拠する。
●耐久設計基準強度 F_d □一般 ●標準 □長期 □
●セメントは、JIS R 5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
●混合計画は、工事開始前に工事監督者の承認を得ること。
●寒中・暑中・その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、混合・打込み・養生・管理方法など必要事項について、工事監督者の承認を得ること。
●フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で（財）国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録および測定値の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し承認を得る。測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
●構造体コンクリートについて現場の圧縮強度試験方法はJASS5 T-603によることとし、供試体は現場水中養生、又は現場封かん養生とし、採取は打ち込み区ごと・打ち込み日ごととする。
また、打ち込み量が150m³を超える場合は150m³ごとまたは、その増数ごとに一回を標準とする。
一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。
なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4週用い3本を用いる。
●ポンプ打ちコンクリートは、打ち込み位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。
ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または、同等以上の技能を有する者が従事すること。
なお、打ち込み継継中における打ち継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は15分0. 25℃以上の場合は12分以内とする。
●コンクリート打ち込み中及び打ち込み後5日間は、コンクリートの温度が2度を下らないようにする。
●乾燥、振動等によってコンクリートの凝結及び硬化が妨げられないように養生を行う。
●水セメント比は50％以下とする。

（２）鉄筋
●鉄筋はJIS G 3112の規格品を標準とする。施工は、標準図に記載されている事項を除きコンクリートと同様に、JASS5による。
□高強度せん断補強筋は、JIS G 3137に規定されるD種1適合品とする。
●鉄筋の加工寸法、形状・かぶり厚さ・鉄筋の継手位置・継手の重ね長さ・定着長さは、「鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）（２）」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）（２）」による。
●鉄筋継手等
鉄筋継手工法
（１）引張り最小部位
（２）（１）以外の部位（注）
鉄筋の径
●重ね継手 ●40d □35d □1. d ●D（16）以下
●圧接継手 ●告示1463号第2項各号 □ ●D（19）以上
□溶接継手 □告示1463号第3項各号 □ □D（ ）以上
□機械継手 □告示1463号第4項各号 □ □D（ ）以上
注（１）（１）以外の部位に設ける継手は、平成12年告示第1463号ただし書きに基づき、日本鉄筋継手協会、日本建築センター等の認定・評定等を取付た継手工法の等級で、構造計算にあたって「鉄筋コンクリート使用基準（建築物の構造関係技術基準解説書2007）」によって検討した部材の条件・仕様によること。
●D19未満は、すべて重ね継手とする。
●継手部の施工要領は（社）日本建築継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」（ガス圧接継手工事、溶接継手工事、機械式継手工事）による。
●継手部の検査方法：外観検査：●有 □無、引張試験：□有 □無、超音波探傷試験：●有 □無
ガス圧接部の検査を超音波探傷試験によって行う場合、最初の数ロットについて引張試験も併用し、1回の試験は5本以上とする。（1ロットは同一作業班が同一日に作業した圧接箇所で200箇所程度とする）
●柱の帯筋（Hoop）の加工方法は、●H型（タガ型） ●W型（溶接型） ●S型（スパイラル型）とする。
●コンクリート及び鉄筋の試験は下記の試験機関で行うこと
試験機関名 公共試験機関
代行業者名
（３）型枠
●材料 合板厚12mmを標準とする。 ●施工 JASS5による。
●型枠存置期間
種類
部位
基礎、はり側、柱、壁
スラブ下、はり下
スラブ下
はり下
セメントの種類
早強ポルトランドセメント
普通ポルトランドセメント
早強ポルトランドセメント
普通ポルトランドセメント
早強ポルトランドセメント
普通ポルトランドセメント
早強ポルトランドセメント
普通ポルトランドセメント
高炉セメントA種
シリカセメントA種
高炉セメントA種
シリカセメントA種
高炉セメントA種
シリカセメントA種
シリカセメントA種
シリカセメントA種
コンクリートの圧縮強度
15℃以上
5℃～15℃
5℃未満
2
3
5
4
6
10
15
28
12
25
28
15
28
28
設計基準強度の85％
設計基準強度の50％
85％
100％
注）1.片持ばり・底・スパン9.0m以上のはり下は、工事監督者の指示による。
注）2.大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはり下の場合も原則として行わない。
注）3.支柱の盛りかえは、必ず直上側のコンクリート打ち後とする。
注）4.盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受け板、角材または、これに代わるものを置く。
注）5.支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。一時に全部の支柱を盛り取りつて、盛りかえをしなければならない。
注）6.直上層に著しく大きな積載荷重がある場合においては、支柱（大梁の支柱を除く）の盛りかえを行わないこと。
注）7.支柱の盛りかえは、養生中のコンクリートに有害な影響をもたらすおそれのある震動又は衝撃を与えないように行うこと。
注）8.上表以外のセメントを使用する場合は工事監督者の指示による。
注）9.コンクリートの圧縮強度による場合は、標準仕様書に定める構造計算書を行う。

7. 鉄骨工事（施工方法等計画書）

（１）鉄骨工事は指示のない限り下記による
□日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
□社）日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」
□鉄骨製作管理技術者登録機構「突合継ぎ手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」

（２）工事監督者の承認を必要とするもの
□製作工場 □製作要領書 □工作図 □施工計画書
□認定または登録工場（大臣認定 S H M R J グレード 都登録 T1 T2 T3 ランク）
□材料規格証明書*、または試験成績書
□鋼材 □高力ボルト □特殊ボルト □頭付スタッド
*社）日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシート。
□社内検査表 □

（３）工事監督者が行う検査項目
（□印以外の項目の検査結果については、工事管理者に報告すること）
□現地検査 □組立、開先検査 □製品検査 □建方検査 □

（４）接合部の溶接は下記によること
□平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロ
□鉄骨造等の建築物の工事に際する東京都取扱要綱（建築構造設計指針第12章）
□日本建築学会「溶接工作規程、同解説Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ」
□日本建築学会「鉄骨工事技術指針、工事現場施工編」
□東京都アーク溶接工事管理規程（建築構造設計指針第12章）

（５）接合部の検査
□溶接部の検査（検査結果は後日工事監督者に報告すること）

検査箇所
検査方法
検査率又は検査数
現場自主検査
第三者受入検査
工事監督者
備考
□完全溶込み溶接部（突合溶接）
外観検査
100％
100％
％
超音波探傷試験
100％
30％
％
内質検査（注）
硬さ試験
個
個
個
示温塗料塗布
マクロ試験、その他
外観検査
第三者検査機関名
（都知事登録 号）
第三者検査機関とは、建築主、工事監督者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。
注1）現場溶接部については原則として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を100％行うこと
注2）知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対応策を建築主事等に報告すること
高力ボルトの検査（検査結果は後日工事監督者に報告すること）
軸力導入試験 □要 □否
高力ボルトすべり係数試験 □要 □否
一次締め後にマーキングを行い、二次締め後のずれを見て、再回り等の異常がないことを確認する。
トルシヤ形高力ボルトは二次締め後、ピンテールが破断していることを確認する。
高力ボルトは「JIS B 1186の高力ボルト」を標準とする。
摩擦面の処理は黒皮などを床面外径2倍以上の範囲でショットブラスト・グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態、すべり係数が0.45以上確保できるものを標準とし目視により検査を行う。
ただし、ショットブラスト・グリットブラストによる処理で、表面あざさが50μmRz以上である場合は、赤さびは発生しない状態のままでもよい。
高力ボルトの締め付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締め付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。
また、締め付けは原則として2段階で行う。
締め付け後の検査は、各種付け工法別に適切な締め付けが行われているか検査する。

（６）防錆塗装
防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。
錆止めペイントは、□JIS K5621 □JIS K5625 □ を使用して、4つ星2回塗を標準とするが、実情に依りて決定すること。
□現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し、2回塗りとする。

（７）耐火被覆の材料
□

8. その他

●建築設備の構造は、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとする。
●建築設備の支持構造部及び緊結金物には、錆止め等、防錆のための有効な措置を講ずること。
□建築物に設ける屋上からの突出する水槽・煙突・その他これらに類するものは、風圧・地震力等に対して構造耐力上主要な部分に緊結され、安全であること。
□煙突は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造とすること。
●設備配管は、地震時等の建物変形に追従できること。また、地震力等に対して構造耐力上安全であること。
●エレベーターの駆動装置等は、構造体に安全に緊結されていること。
●特記以外の乗貫通孔は原則として設けない。
●床スラブ内に設備配管等を埋め込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上を原則とする。
●設備機器の架台及び基礎については工事監督者の承認を得ること。
●給湯設備は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
●満水時の質量が15.0kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成24年国土交通省告示第1447号第5に規定する構造方法によること。

特記事項

山梨建築設計監理事業協同組合

承認
代表設計者
設計担当者
縮尺
工事名称
図面名称
遊亀公園付属動物園第Ⅱ期整備工事（南テナガザル舎）
構造設計標準仕様
南テ S-01 No.

工事名称
図面名称
遊亀公園付属動物園第Ⅱ期整備工事（南テナガザル舎）
構造設計標準仕様

南テ S-01 No.

鉄筋コンクリート配筋標準図（１）

１．一般事項

- （１） 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- （２） 記号
d：異形棒鋼の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 D：部材の成 R：直径
@：間隔 r：半径 CL：中心線 L0：部材間の内法距離 h0：部材間の内法高さ
ST：あばら筋 HOOP：帯筋 S. HOOP：補強帯筋 ϕ：直径又は丸鋼

２．鉄筋加工、かぶり

（１） 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	折曲げ角度90°はスラブ筋・帯筋の末端部、またはスラブと同時に打ち込む形およびL形形成のキャップタイにのみ用いる。 ※片持ちスラブ上端筋の先端
図				
鉄筋の余長	4d以上	6d以上(※4d以上)	8d以上(※4d以上)	

折曲げ寸法Rは、SR235は3d以上、SD295A、SD295B、SD345のD16以下は、3d以上、D19以上は4d以上

（２） 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋の折曲げ角度90°以下

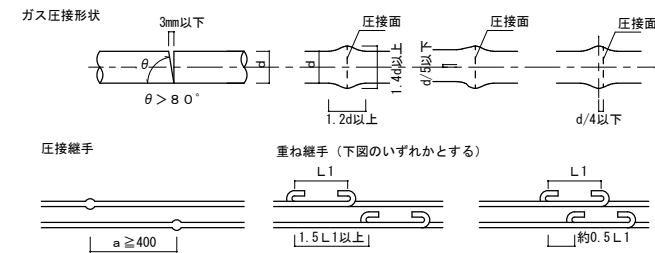
図	鉄筋の使用箇所 による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による 区分	鉄筋の折曲げ 内法寸法(R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235、SD295A SD295B、SD345	16φ D16 19φ D19	3d以上
	上記以外の鉄筋	SR235、SD295A SD295B、SD345	16φ D16 19φ～25φ D19～D25 28φ～32φ D29～D38	4d以上 6d以上 8d以上

（３） 鉄筋の定着及び重ね継ぎ手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm ²)	定 着 の 長 さ			特別の定着及び重ね継手の長さ (L1)
		一般 (L2)	下ば筋 (L3)		
			小 梁	スラブ	
SD 295A SD 295B	18	40 d または 30 d フックつき	20 d または 10 d フックつき	10 d かつ 15 cm 以上	45 d または 35 d フックつき
	21	35 d または 25 d フックつき			40 d または 30 d フックつき
	24 ~ 27	35 d または 25 d フックつき			35 d または 25 d フックつき
	30 ~ 36	30 d または 20 d フックつき			35 d または 25 d フックつき
	39 ~ 45	30 d または 20 d フックつき			30 d または 20 d フックつき
SD 345	18	40 d または 30 d フックつき	20 d または 10 d フックつき	10 d かつ 15 cm 以上	50 d または 35 d フックつき
	21	35 d または 25 d フックつき			45 d または 30 d フックつき
	24 ~ 27	35 d または 25 d フックつき			40 d または 30 d フックつき
	30 ~ 36	30 d または 20 d フックつき			35 d または 25 d フックつき
	39 ~ 45	30 d または 20 d フックつき			35 d または 25 d フックつき
SD 390	21	40 d または 30 d フックつき	20 d または 10 d フックつき	10 d かつ 15 cm 以上	50 d または 35 d フックつき
	24 ~ 27	40 d または 30 d フックつき			45 d または 35 d フックつき
	30 ~ 36	35 d または 25 d フックつき			40 d または 30 d フックつき
	39 ~ 45	35 d または 25 d フックつき			40 d または 30 d フックつき
	48 ~ 60	30 d または 20 d フックつき			35 d または 25 d フックつき

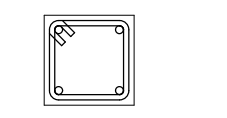
継 手

- 末端フックは、定着及び重ね継ぎ手の長さに含まない。
- 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
- 直径の異なる鉄筋の重ね継ぎ手は、細い方の鉄筋の継ぎ手長とする。
- D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継ぎ手としてはならない。
- 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない。



（４） かぶり厚さ(単位mm)

ひび割れ誘発目地部など鉄筋のかぶり、厚さが部分的に減少する箇所についても最小かぶり厚さを確保する。



かぶり厚さ

部 位		標準・長期 (mm)	超長期 (mm)
土に接しない部分	屋根スラブ	30	40
	床スラブ	40	50
	耐力柱	40	40
	はり	50	50
	耐力壁	50	50
土に接する部分	柱・はり・床スラブ・耐力壁	50	50
	基礎・擁壁	70	70

注）計画共用期間の線が標準・長期および超長期で、耐久性上有効な仕上げを施す場合は、屋内外では設計かぶり厚さを10mm減じることができる。

（５） 鉄筋のあき

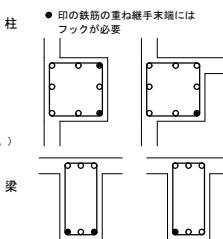
丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上
粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25以上



（６） 鉄筋のフック

(a～fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。)

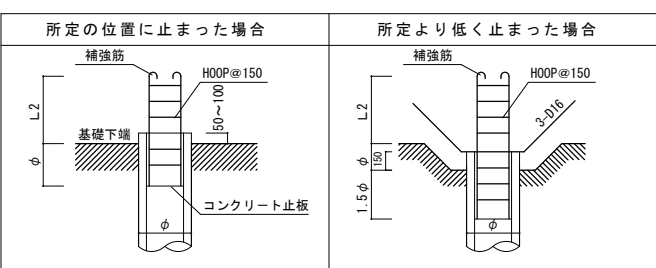
- a. 丸鋼 b. あばら筋、帯筋 c. 煙突の鉄筋
d. 柱、梁（基礎梁を除く）の出隅部分の鉄筋（右図参照）
e. 単純梁の下端筋
f. その他、本配筋標準に記載する箇所



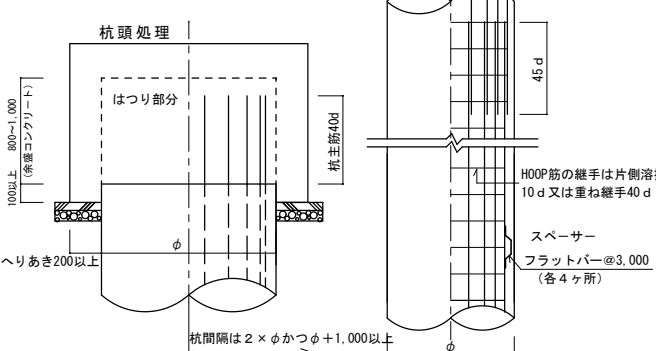
３．杭

（設計図面に記載なき場合は監理者と協議の上、下図にとり施工すること。）

（１） PHC杭の全てに補強を行う

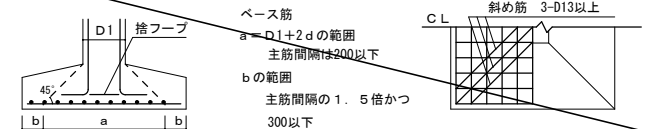


（２） 現場打ちコンクリート杭

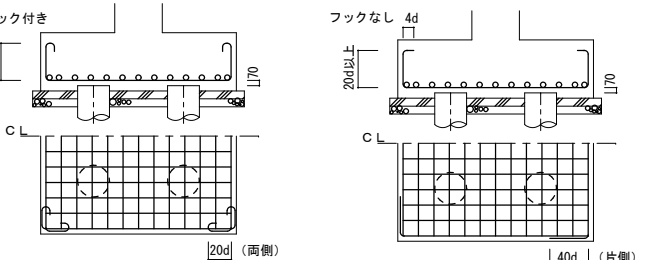


４．基礎

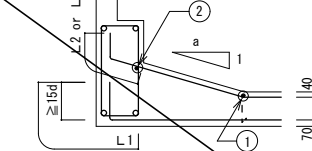
（１） 直接基礎



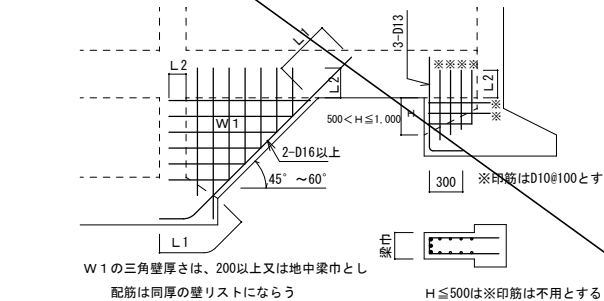
（２） 杭基礎



（３） べた基礎

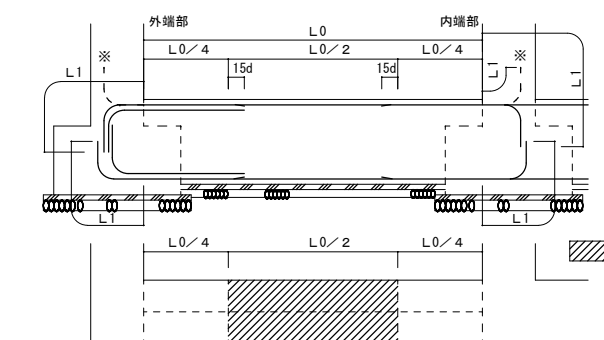


（４） 基礎接合部の補強

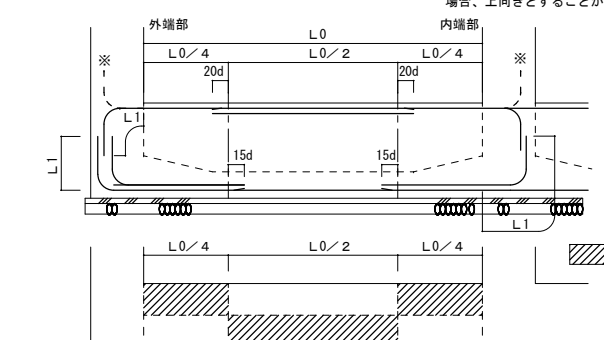


５．地 中 梁

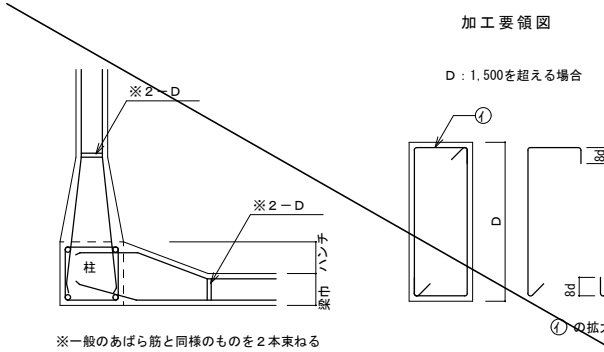
（１） 独立基礎、杭基礎の場合（定着、継手）



（２） 布基礎、べた基礎の場合（定着、継手）



（３） 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領

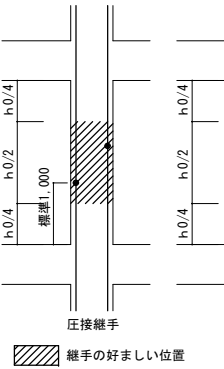


※一般のあばら筋と同様のものを2本束ねる

- 耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう
但し上筋と下筋を眺みかえる
- ①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
- ①の鉄筋はD13以上とする
- 埋戻し土がある場合は40とすると

６．柱

（１） 柱主筋の継手位置

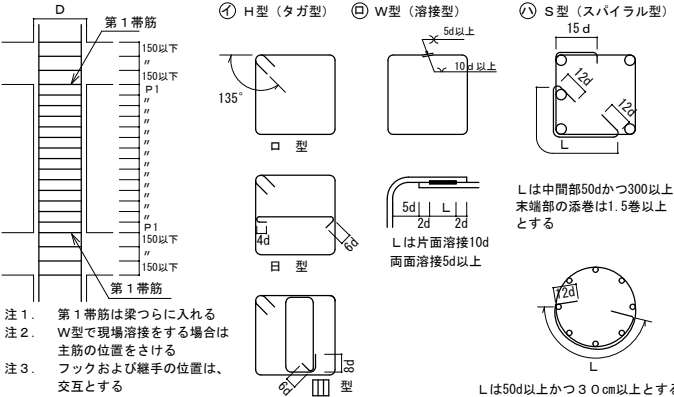


（２） 柱主筋の定着



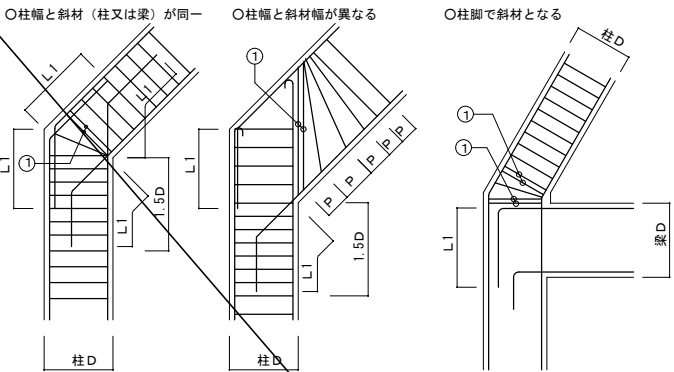
鉄筋のフックは柱頭の四隅の鉄筋並びにはりのせいが小さく、設計応力に対して必要な定着長さが不足する箇所に付ける

（３） 帯 筋



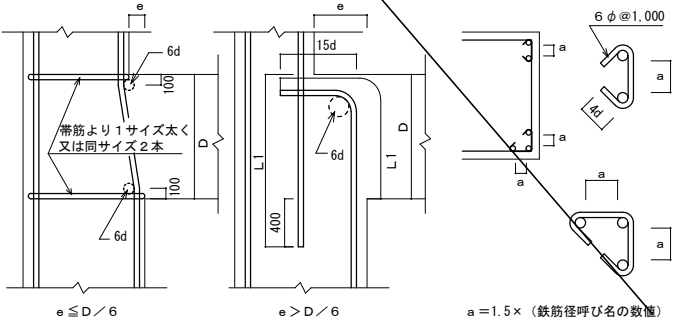
- 注1. 第1帯筋は梁つらに入れる
注2. W型で現場溶接をする場合は主筋の位置をさける
注3. フックおよび継手の位置は、交互とする

（４） 斜め柱・斜め梁

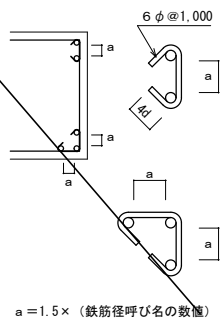


- 注1. 1.5Dの範囲の柱の帯筋は一段太いものか、又はダブル巻きとし@100以下とする
注2. ①の鉄筋は2-D13かつ、2本の一段太い鉄筋とする。

（５） 絞 り



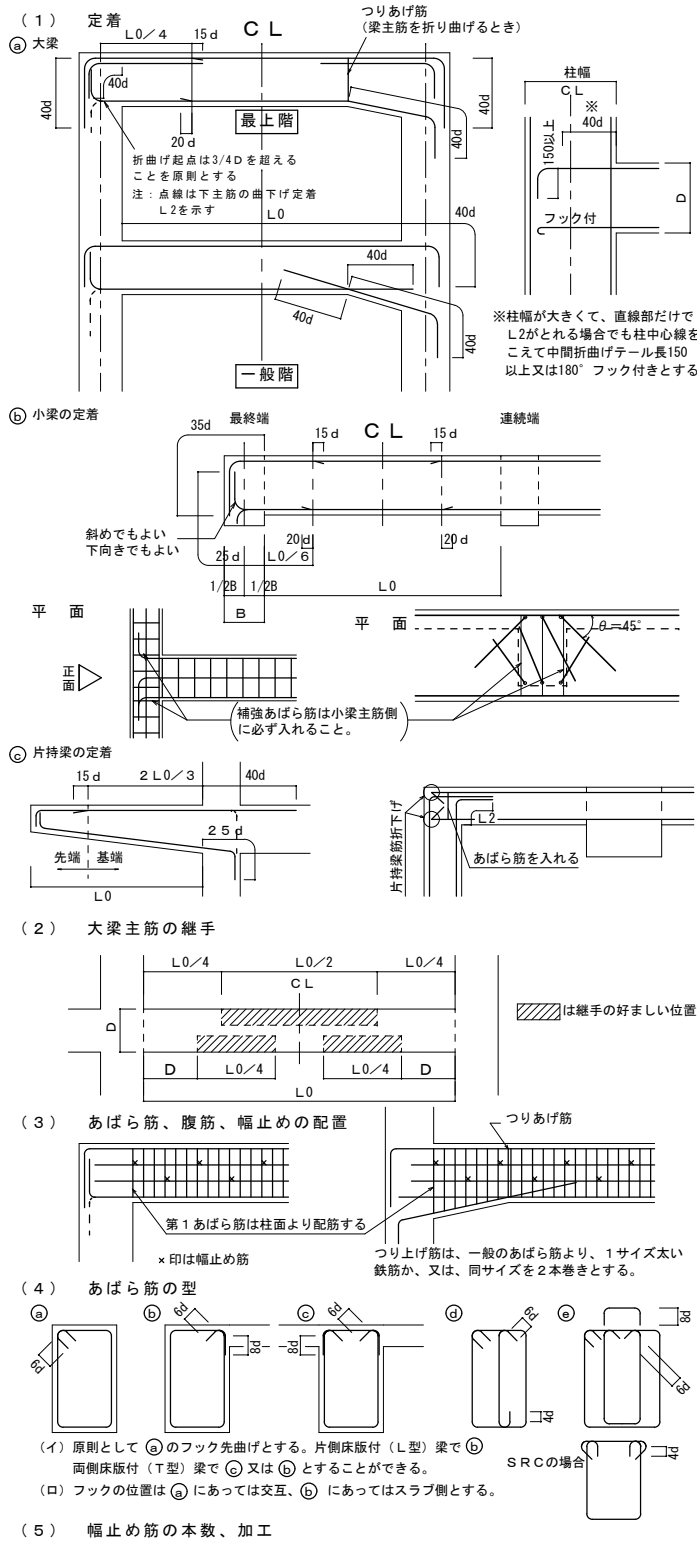
（６） 二段筋の保持



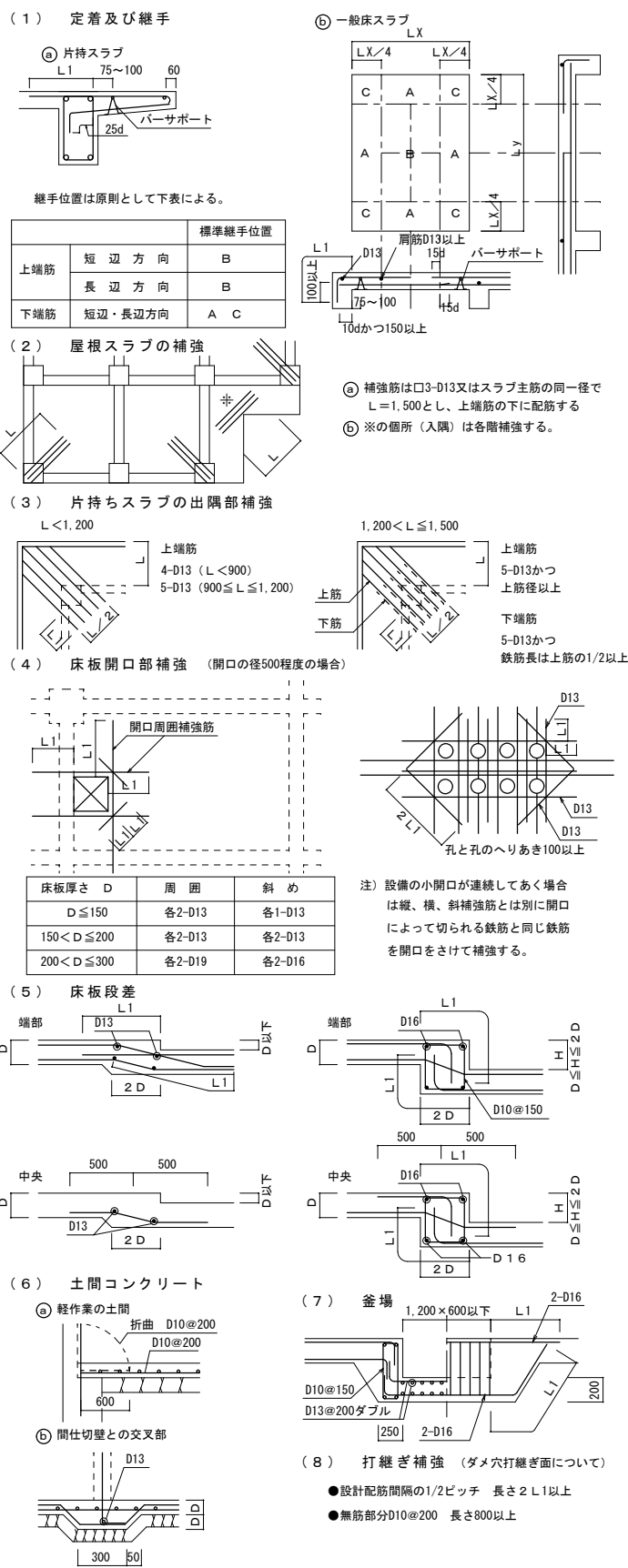
鉄筋コンクリート配筋標準図（2）

L1、L2、L3＝鉄筋コンクリート構造配筋標準図（1）の2～（3）による。

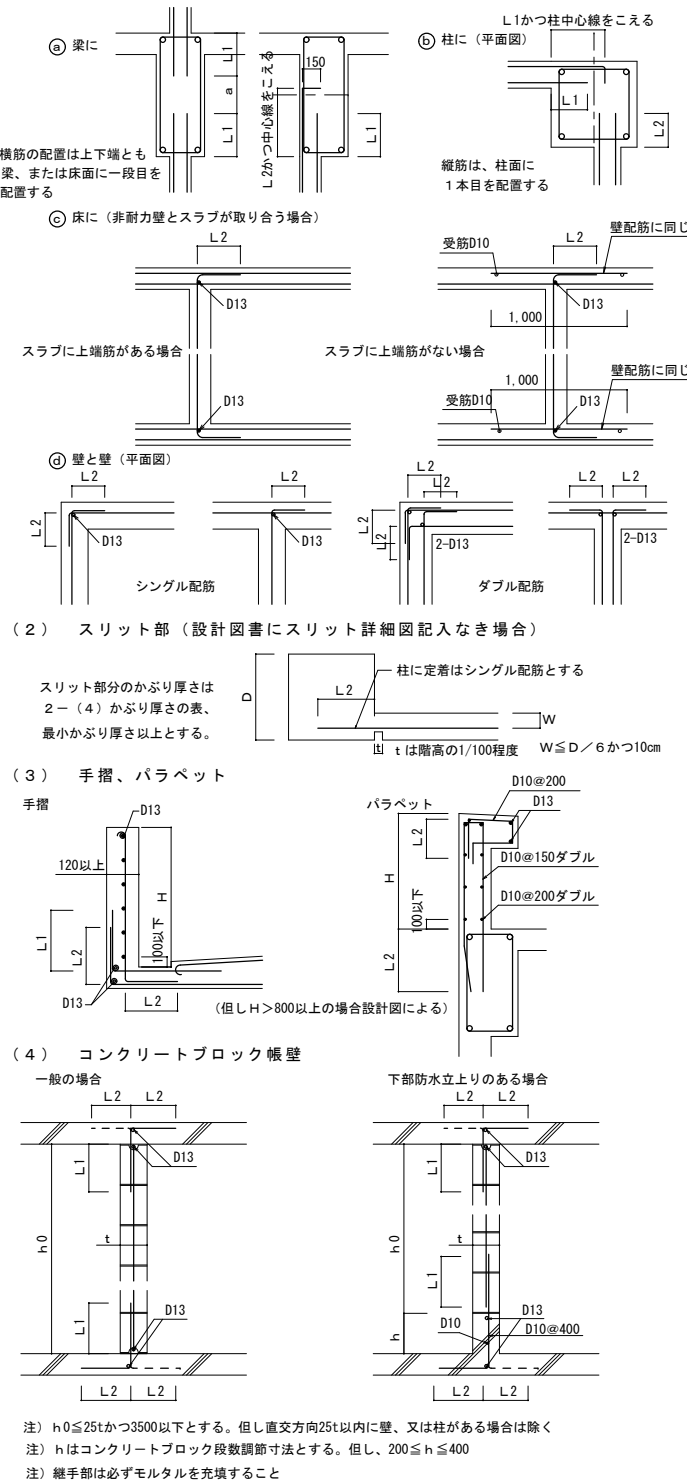
7. 大梁、小梁、片持梁



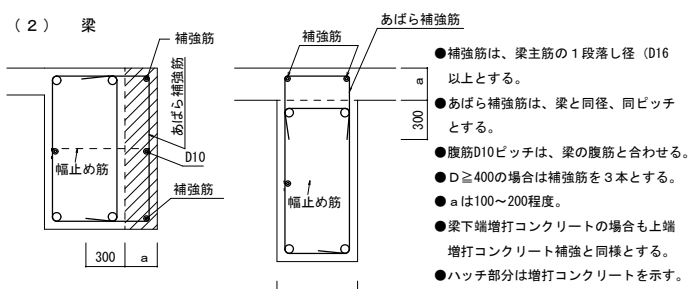
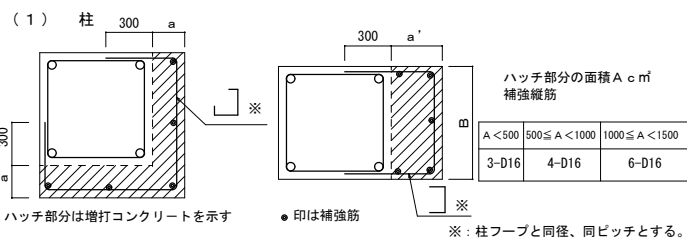
8. 床板



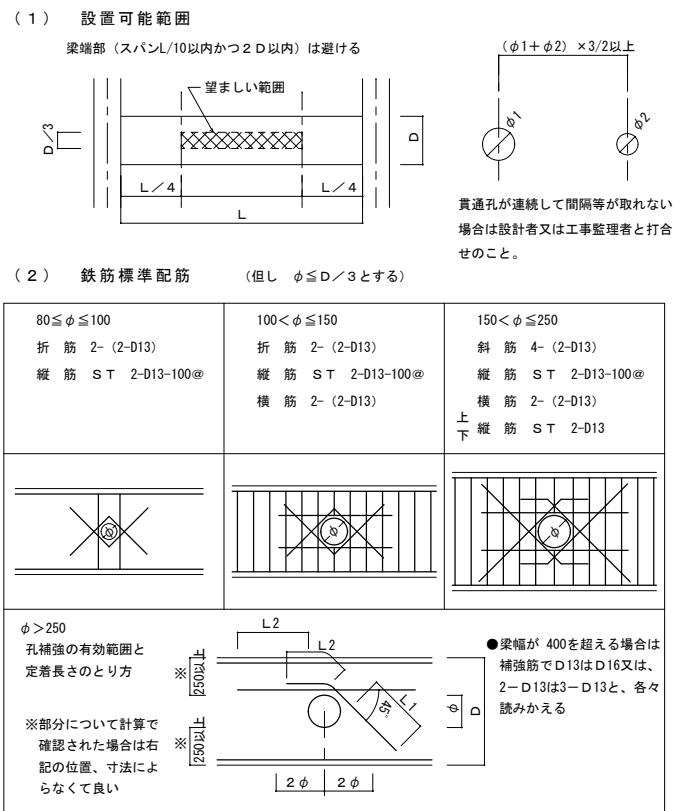
9. 壁



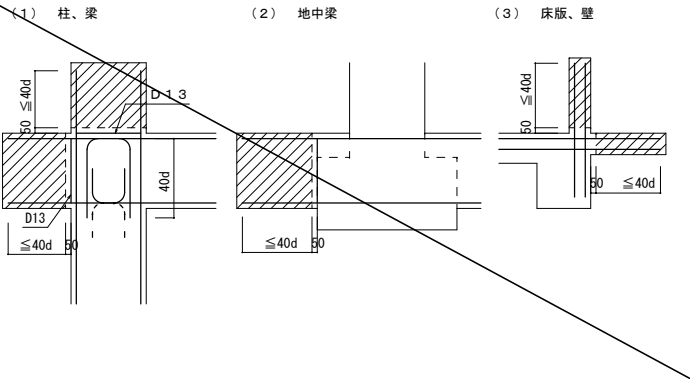
10. 柱、梁増打コンクリート補強



11. 梁貫通孔補強



12. 増築予定



－既製コンクリート杭の杭頭接合－ 設計・施工 標準図（既成品：参考図）

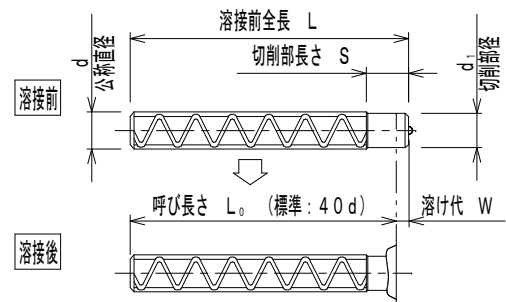
1. 杭頭補強工法概要

本杭頭補強工法は、溶接性に優れた異形棒鋼KSW490を杭頭端板に直接スタッド溶接することにより、抗体に悪影響を及ぼすことなく、抗体と基礎スラブとを接合する技術である。

2. 使用材料

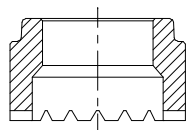
① 杭頭補強筋（スタッド溶接専用異形棒鋼）

KSW490（JIS G 3112 SD345）

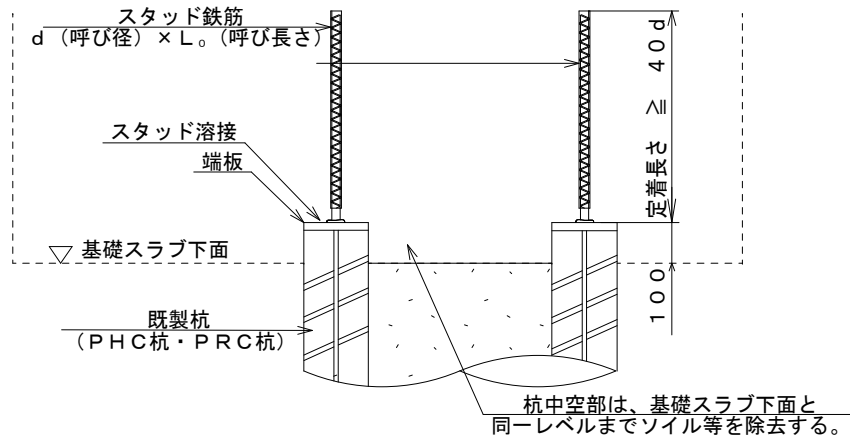


② フェールル

セラミック製の溶接補助材



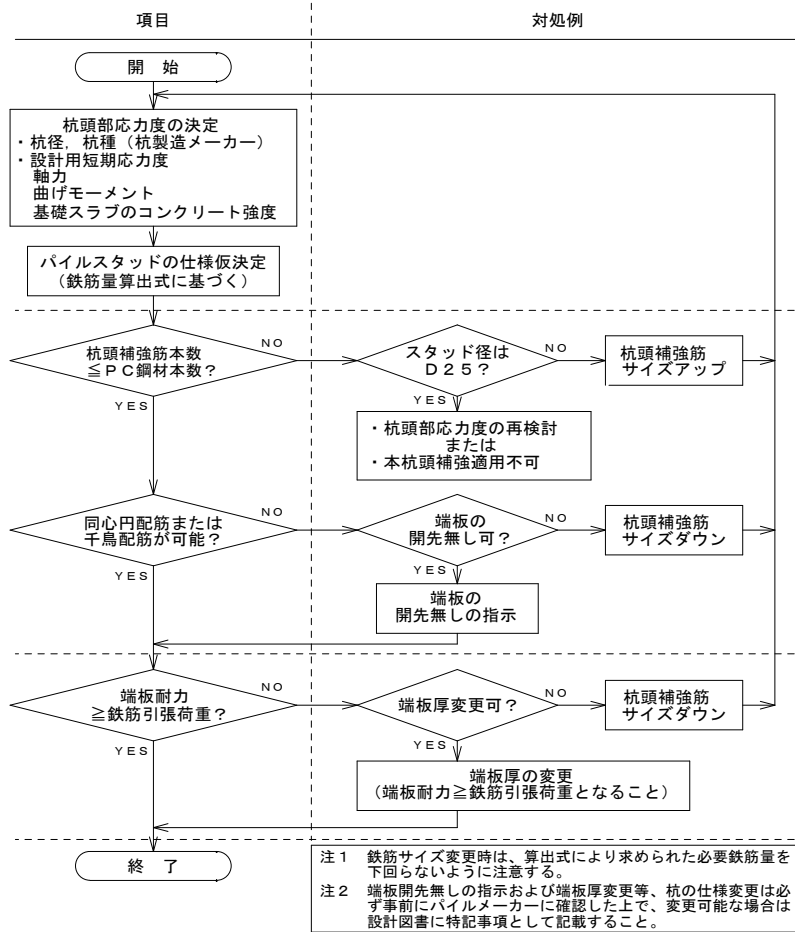
4. 杭頭接合構造図



5. 設計に関する考え方の一例

下図設計手順例は、適用にあたっての一つの参考例であり、構造設計者の考え方に基づく適切な設計法により杭頭接合鉄筋量を算出することが望ましい。詳細は、本工法建設技術審査証明（建築技術）報告書付録による。

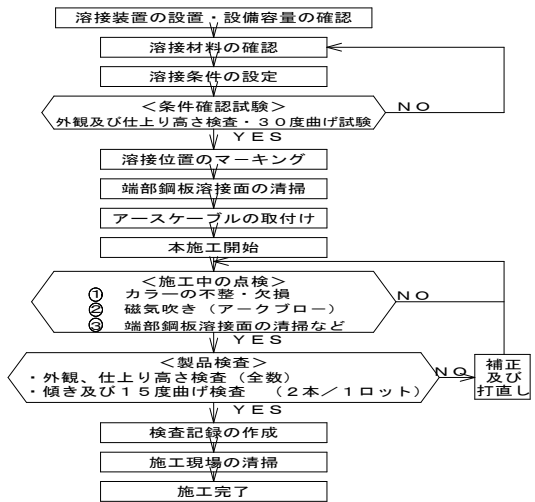
設計手順例



注1 鉄筋サイズ変更時は、算出式により求められた必要鉄筋量を下回らないように注意する。
注2 端板開先無しの指示および端板厚変更等、杭の仕様変更は必ず事前にパイルメーカーに確認した上で、変更可能な場合は設計図書に特記事項として記載すること。

6. 杭頭補強工法 標準施工フロー

（詳細は、本工法建設技術審査証明（建築技術）報告書の「施工要領」による）



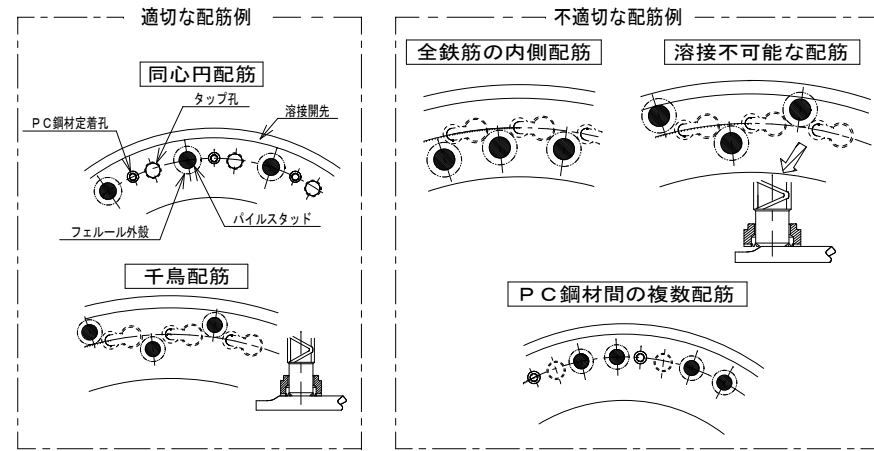
7. 製品検査規定

頻度	検査項目	検査方法	判定基準
全数検査	外観検査	目視	カラーが軸部全周に包囲して、アンダーカットの無いこと
	仕上り高さ	ゲージ等による	設計寸法-0mm～+4mm
抜取検査	傾き検査	ゲージ等による	$\theta \leq 5^\circ$
	曲げ検査	パイプ曲げ等による	溶接部に割れなどの欠陥が生じないこと

8. 杭頭補強筋の配筋規定

（詳細は、本工法建設技術審査証明（建築技術）報告書付録の「配置計画」による）

- フェールル外殻が端板の開先やPC鋼材孔と重ならない位置に溶接する。
- PC鋼材径と同心円上の位置への配筋を基本とする。（同心円配筋）
- 同心円配筋ができない程PC鋼材間が狭隘な場合、フェールルをPC鋼材孔の同心円上の外側、内側と交互に配筋する。（千鳥配筋）
- 杭当たりの配筋本数は、6本以上かつPC鋼材本数以下を原則とする。
- PC鋼材孔間に2本以上配筋しないことを原則とする。
- 杭頭補強筋のあきは、基礎スラブコンクリート粗骨材最大寸法の1.25倍以上かつ杭頭補強筋公称直径の1.5倍以上とする。
また、杭頭補強筋中心とPC鋼材中心は20mm程度離す。



梁貫通孔補強材 梁貫通孔補強 設計・施工標準仕様書（既成品：参考図）

◎標準図

- 1) 一般事項
- 1) 本仕様書は、既成品梁貫通孔補強の標準仕様を定めるものであり、各設計における特記仕様は、本仕様書に優先して適用する。
- 2) 本仕様書に定めなき事項は、日本建築学会「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」2010年版、「鉄骨鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」2014年改定、「建築工事標準仕様書・同解説(JASS5)」2009年版、「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」2010年改定、「鉄骨鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」2005年改定、日本建築センター「建築物の構造関係技術基準解説書」2007年版、公共建築協会「建築構造設計基準」平成22年版及び、「公共建築工事標準仕様書」平成25年版による。
2. 適用範囲
- 1) 適応対応梁の構造
- ・梁の構造種別 : 鉄筋コンクリート造及び、鉄骨鉄筋コンクリート造
 - ・梁せい (D) : $D \geq 450$ (mm)
 - ・コンクリートの設計基準強度 (F_c)
 - a あばら筋に普通鉄筋を用いた梁 $18 \leq F_c \leq 60 \text{N/mm}^2$
 - b あばら筋に高強度鉄筋を用いた梁 $21 \leq F_c \leq 100 \text{N/mm}^2$ただし、コンクリートの設計基準強度が 60N/mm^2 を超えた場合は、建築基準法 第37条二号の大臣認定を取得している高強度コンクリートとする。
- ・鉄筋
- a 主筋 JIS・G 3112 「鉄筋コンクリート用棒鋼」及び、建築基準法 第37条二号の大臣認定を取得している $590 \cdot 685 \text{N/mm}^2$ 級鋼の高強度鉄筋
 - ただし、主筋に丸鋼及びインデントの鉄筋は用いないこととする。
 - b あばら筋 JIS・G 3112 「鉄筋コンクリート用棒鋼」及び、建築基準法 第37条二号の大臣認定を取得している $685 \cdot 785 \cdot 1275 \text{N/mm}^2$ 級鋼の高強度鉄筋
 - ただし、開孔上下部補強筋に丸鋼及びインデントの鉄筋は用いないこととする。
- 2) 開孔径及び、開孔位置
- ・開孔径 (H) : $H \leq D/3$ ただし、 $80 \leq H \leq 750$ (mm)
 - ・開孔の水平方向中心間距離 (A) : $A \geq 3H$ (隣り合う開孔径の平均値の3倍以上)
 - ・開孔の垂直方向中心間距離 (G) : $G \geq 3H$ ただし、 $\Sigma H \leq D/4$ 且つ、基礎梁の中央部に2開孔までとする。(同軸上に同径)
- ・柱際から開孔中心までの距離 (B) : $B \geq D$ (mm)
- ただし、あばら筋に普通鉄筋を使用した梁端の曲げ降伏型ではない基礎梁で、有効補強範囲Cが確保でき、 $1.0 \leq M/Vd \leq 1.22$ 且つ、 $H/D \leq 0.27$ の場合 $B \geq 0.6D$ (mm)
- ・梁上下端からのへりあき距離 (Hc) : 開孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とする。
- ただし、梁上下端からのへりあき距離については、梁貫通孔補強製品があばら筋の内側に納まる距離を確保する。
- 図1 貫通孔の適用開孔位置
- 3) 補強量の範囲
- ・梁貫通孔補強製品の補強筋比 (p_r)
 - a あばら筋に普通鉄筋を用いた梁 $p_r \leq 1.0$ (%)
 - b あばら筋に高強度鉄筋を用いた梁 $p_r \leq 1.2$ (%)
 - ・有効補強範囲内のあばら筋比 (p_a)
 - a あばら筋に普通鉄筋を用いた梁 $p_a \leq 1.2$ (%)
 - b あばら筋に高強度鉄筋を用いた梁 $p_a \leq 1.0$ (%)
 - ・有効補強範囲内のせん断補強筋比 ($\Sigma p_{wo} = p_r + p_a$)
 - a あばら筋に普通鉄筋を用いた梁 $0.2 \leq \Sigma p_{wo} \leq 1.8$ (%)
 - b あばら筋に高強度鉄筋を用いた梁 $0.2 \leq \Sigma p_{wo} \leq 2.2$ (%)

◎補強算定式

梁貫通孔補強製品の補強有孔梁のせん断終局強度式（修正広沢式）

$$Q_{su1} = \alpha \left\{ \frac{0.053 p_{\tau} \cdot 0.23 \cdot (18 + F_c)}{M/Qd \cdot 0.12} \cdot (1 - 1.61 \sqrt{\frac{H}{D}}) \cdot 0.85 \sqrt{p_r \cdot r \cdot \sigma_y + p_{s1} \cdot \sigma_y} \right\} b j$$

α：低減係数 α=1.00

ただし、梁端の曲げ降伏型ではない基礎梁で有効補強筋が確保でき、開孔位置Bが
 $0.6D \leq B < 1.0D$ の場合、あばら筋が普通鉄筋（ $\alpha_c=0.91$ ） あばら筋が高強度鉄筋は適用範囲外
 p_{τ} : 引張鉄筋比 F_c : コンクリートの設計基準強度（ N/mm^2 ）
 M/Qd : せん断スパン比で、3以上のときは3とする。
 H : 開孔径（mm） D : 梁せい（mm）
 p_r : 梁貫通孔補強筋の補強筋比
 p_{s1} : 梁貫通孔補強筋の規格降伏点（ 785N/mm^2 ） ただし $r \cdot \sigma_y = \min(785, 25F_c)$
 p_{s1} : 有効補強範囲内のあばら筋比
 σ_y : 有効補強範囲内のあばら筋の規格降伏点（ N/mm^2 ） ただし $\sigma_y = \min(\sigma_y, 25F_c)$
 b : 梁幅（mm） j : 応力中心間距離で、 $= \frac{7}{8} d$ （mm）とする。
 d : 梁の有効せい（mm）

◎施工管理要領

2. 梁貫通孔補強製品は設計図書又は、筋筋図に基づき有孔梁の補強計算を行ない、補強筋量及び開孔位置を確認する。次にMAXリフレキシ型の枚数及び、必要あばら筋数を確認する。
3. 梁貫通孔補強製品には製品の型式が記載されたラベルが取付てあるので、適用な製品であるか又、変形や傷がないか、スベーパー部にキャップが付いているか必ず確認する。キャップは開閉区別に色分けを施している。
4. 梁貫通孔補強製品を直接地面に置くことは避け、各サイズ毎に整理し、雨・泥・油等で汚さないように保管する。

◎標準配筋図

- 1、梁貫通孔補強の取り付け
- 1) 梁貫通孔補強製品はあばら筋の内側に取り付けます。3枚以上の場合は、捨て筋に取り付け、梁貫通孔補強製品の間隔は50mm以上とする。
-
- 2枚の配筋例
- 3枚以上の配筋例
- 図2 梁貫通孔補強製品の取り付け
- 2、開孔際補強あばら筋の基本配筋 (図3参照)
- 1) 開孔際補強あばら筋は、一般部あばら筋と同種同形状とし、基本組数を開孔径が、 $H < 250$ のとき開孔際1組、 $250 \leq H$ のとき開孔際に2組とする。
- 2) 開孔際補強あばら筋は、開孔際から50mmのかぶり厚さとし、2組目以上の場合50mmピッチとする。
- 3、開孔上下部の補強 (図4、5参照)
- 1) 開孔径が $250 \leq H$ のときは開孔上下部補強を設計ピッチ以内 (X') で設ける。
- 2) 開孔上下部補強筋は一般部あばら筋と同径とし、横筋は一般部あばら筋と同径以上とし、定着長さは開孔際から40d以上とする。
ただし、開孔上下部補強筋に丸鋼及びびindentの鉄筋は用いないこととする。
- 3) 開孔上下部補強筋は開孔の上下縁から50mm以上のかぶりを確保し、形状は図5を参考に決定する。Hcが300mm未満の場合、(d)の形状としてもよい。
また、(c)のように梁の両側からコの字形状の補強筋を配筋する場合の重ね長さは、「JASS5」の直線重ね継手長さ以上を確保することとする。
- $H < 250$ 基本組数1組

■ $250 \leq H$ 基本組数2組

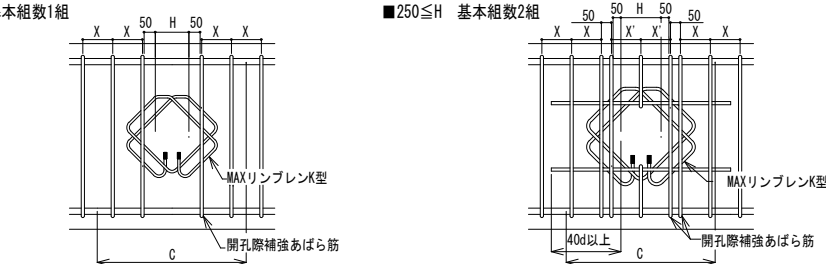


図3 開孔径別のあばら筋基本配筋図

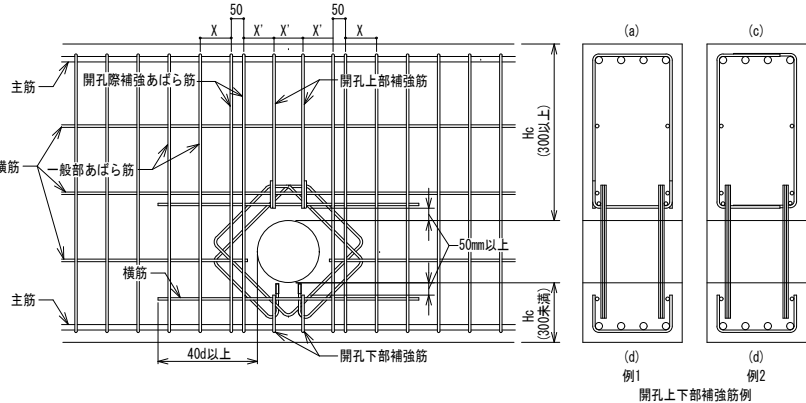


図4 開孔上下部の補強例

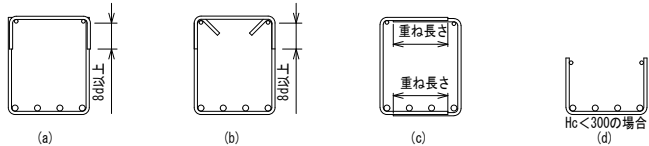


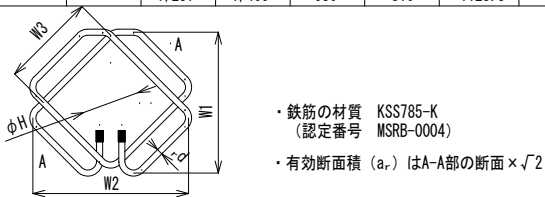
図5 開孔上下部補強筋の形状例

- 1) 梁貫通孔補強製品は、必ずつめ部が上下方向になるように取り付ける。
- 適正な取り付け向き
- 不適正な取り付け向き

図6 梁貫通孔補強製品の取付け向き

◎仕様

型 式	開孔徑 H	寸 法			使用 鉄筋	有効断面積 mm ²	キャップ 色別
		W1	W2	W3			
K-0806R	φ 80	253	292	180	S6	179. 2	赤
K-0808R		264	298	180	S8	280. 1	
K-0810R		289	319	190	S10	403. 5	
K-0813R		296	334	200	S13	716. 7	
K-1006R	φ 100	283	327	205	S6	179. 2	黒
K-1008R		294	334	205	S8	280. 1	
K-1010R		320	354	215	S10	403. 5	
K-1013R		327	369	225	S13	716. 7	
K-1206R	φ 125	313	363	230	S6	179. 2	緑
K-1208R		325	369	230	S8	280. 1	
K-1210R		350	389	240	S10	403. 5	
K-1213R		357	404	250	S13	716. 7	
K-1216R	φ 150	350	405	250	S16	1123. 5	白
K-1506R		344	398	255	S6	179. 2	
K-1508R		355	404	255	S8	280. 1	
K-1510R		380	425	265	S10	403. 5	
K-1513R	φ 175	388	440	275	S13	716. 7	赤
K-1516R		380	441	275	S16	1123. 5	
K-1706R		374	433	280	S6	179. 2	
K-1708R		385	440	280	S8	280. 1	
K-1710R	φ 200	411	460	290	S10	403. 5	黒
K-1713R		418	475	300	S13	716. 7	
K-1716R		411	476	300	S16	1123. 5	
K-2006R		404	469	305	S6	179. 2	
K-2008R	φ 250	416	475	305	S8	280. 1	白
K-2010R		441	495	315	S10	403. 5	
K-2013R		448	510	325	S13	716. 7	
K-2016R		441	511	325	S16	1123. 5	
K-2506R	φ 300	488	561	365	S6	179. 2	黒
K-2508R		500	567	365	S8	280. 1	
K-2510R		525	587	375	S10	403. 5	
K-2513R		532	602	385	S13	716. 7	
K-2516R	φ 350	525	603	385	S16	1123. 5	白
K-3006R		589	674	440	S6	179. 2	
K-3008R		600	680	440	S8	280. 1	
K-3010R		625	701	450	S10	403. 5	
K-3013R	φ 400	632	716	460	S13	716. 7	黒
K-3016R		625	716	460	S16	1123. 5	
K-3508R		675	758	490	S8	280. 1	
K-3510R		700	778	500	S10	403. 5	
K-3513R	φ 450	707	793	510	S13	716. 7	白
K-3516R		700	794	510	S16	1123. 5	
K-4010R		761	849	550	S10	403. 5	
K-4013R		768	864	560	S13	716. 7	
K-4016R	φ 500	761	865	560	S16	1123. 5	黒
K-4510R		850	941	610	S10	403. 5	
K-4513R		857	956	620	S13	716. 7	
K-4516R		850	957	620	S16	1123. 5	
K-5010R	φ 550	911	1, 012	660	S10	403. 5	白
K-5013R		918	1, 027	670	S13	716. 7	
K-5016R		911	1, 028	670	S16	1123. 5	
K-5510R		986	1, 089	710	S10	403. 5	
K-5513R	φ 600	993	1, 104	720	S13	716. 7	黒
K-5516R		986	1, 104	720	S16	1123. 5	
K-6010R		1, 046	1, 160	760	S10	403. 5	
K-6013R		1, 053	1, 175	770	S13	716. 7	
K-6016R	φ 650	1, 046	1, 176	770	S16	1123. 5	白
K-6510R		1, 135	1, 252	820	S10	403. 5	
K-6513R		1, 142	1, 267	830	S13	716. 7	
K-6516R		1, 135	1, 268	830	S16	1123. 5	
K-7010R	φ 700	1, 196	1, 323	870	S10	403. 5	黒
K-7013R		1, 203	1, 338	880	S13	716. 7	
K-7016R		1, 196	1, 339	880	S16	1123. 5	
K-7510R		1, 257	1, 394	920	S10	403. 5	
K-7513R	φ 750	1, 264	1, 409	930	S13	716. 7	白
K-7516R		1, 257	1, 409	930	S16	1123. 5	



K-001-02150617-J

調 查 名 遊 龜 公 園 附 屬 動 物 園 地 質 調 查 業 務 委 託

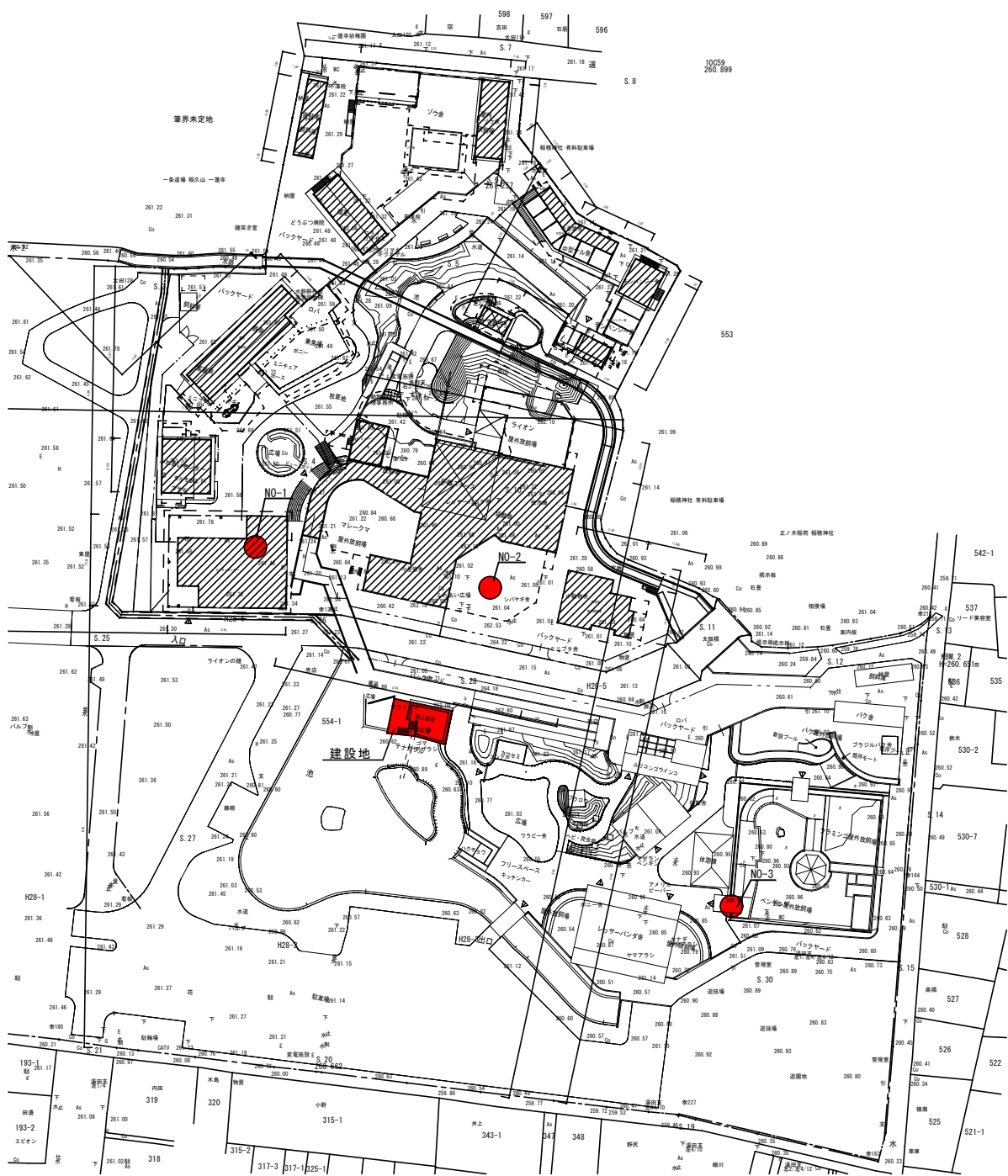
ボーリングNo

事業・工事名 遊亀公園・附属動物園整備事業

シートNo 220362

ボーリング名	R4B-2		調査位置	甲府市太田町10-1地内				北緯	35° 39' 03.47"	
発注機関	甲府市役所			調査期間	2022年 8月 30日 ~ 2022年 9月 5日			東経	138° 34' 18.62"	
調査業者名	株式会社ハギマ 電話 (055-243-4777)			主任技師	調査機 理人	コア 定 者	ボーリング 責任者	清水孝士		
孔口標高	H 261.07m	角 180°	方 北	北 0°	地盤勾配 鉛直 0°	使用機 種	D-D	ハンマー 落下用具	自動落下式	
総掘進長	33.11m	度 下 90°	向 270°	90° 0°	エンジン	NFD10-M	ポン	BG-4C		

標尺	高厚	度状	柱土	色相	対密	相稠	記度	事	孔内水 位 (m)	標準貫入試験										原位置試験 深 度 (m)	試験名 および結果	深 度 (m)	採取 方法	室内試験 ()	進 月 日			
										深 度 (m)	打撃 回数	貫入 量 (cm)	0	10	20	30	40	50	60									
1	260.2	0.05	0.05	底土	暗灰		上層10cm位アスファルト。0.15m付近 まで砂石混入する土砂。深さ0.70m 以上の硬層となる。底層シルト 主体。		8/21	10	20	30	40	50	60	0	10	20	30	40	50	60	2.640	2.30	1.80	○	標準貫入試験	
2	259.3	0.05	1.10	砂質シルト	暗灰		粘性中位の砂質シルト主体。 全体的に砂分混入し、1.50m以深砂 質。含水中位。		8/21	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	2.640	2.30	1.80	○	標準貫入試験		
3				シルト	暗灰		粘性中位やや強いシルト主体。 砂分及び炭化物若干混入。 0.0m位より0.10m以下の硬層入。 含水やや少ない。		8/21	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	2.640	2.30	1.80	○	標準貫入試験		
4	257.1	2.20	3.0	シルト質細砂	暗灰		粒子ほぼ均一な細砂主体。シルト分 少量含有。1.10～2.30mシルトと混 む。炭化物若干混入。含水少ない。		8/21	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	2.640	2.30	1.80	○	標準貫入試験		
5	255.3	0.05	5.1	細砂	暗灰		粒子不均一な細砂主体。 5.10m付近水混入。含水中位。		8/21	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	2.640	2.30	1.80	○	標準貫入試験		
6				シルト	暗灰		φ2～30mm位の礫主体。充填物は細 砂～中砂。所々泥状物混入。7.65m 付近5cm、7.80m付近4cm位の 玉石混入。含水中位やや多い。		8/21	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	2.640	2.30	1.80	○	標準貫入試験		
7	252.6	2.55	8.0	シルト	暗灰		粘性中位のシルト主体。炭化物及び 炭化物混入。含水少ない。		8/21	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	2.640	2.30	1.80	○	標準貫入試験		
8	251.7	0.05	8.0	有機質シルト	黒灰		粘性中位のシルト主体。 炭化物及び炭化物に富み有機質状呈 す。含水少ない。		8/21	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	2.640	2.30	1.80	○	標準貫入試験		
9	251.1	1.05	9.5	泥溜り細砂	暗灰		粒子不均一な細砂主体。φ10mm以下 の硬層入。所々中砂主体。含水やや 少ない。		8/21	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	2.640	2.30	1.80	○	標準貫入試験		
10	250.1	0.05	10.0	シルト	暗灰		粘性中位のシルト主体。 炭化物及び炭化物混入。 12.35～12.60m間シルト混じり細砂 混む。13.45～13.70m間細砂混む。 含水やや少ない。		8/21	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	2.640	2.30	1.80	○	標準貫入試験		
11	246.6	3.55	14.4	細砂	暗灰		粒子ほぼ均一な細砂主体。 少量の炭化物混入。部分的にシルト 分含有し、シルト混じり細砂状。 含水やや少ない～中位。		8/21	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	2.640	2.30	1.80	○	標準貫入試験		
12	244.0	2.55	17.0	泥溜り細砂	暗灰		粒子不均一な細砂主体。 φ10mm以下の硬層入。 含水やや少ない～中位。		8/21	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	2.640	2.30	1.80	○	標準貫入試験		
13	242.9	1.15	18.1	シルト	暗灰		粘性中位のシルト主体。炭化物及び 炭化物混入。含水少ない。		8/21	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	2.640	2.30	1.80	○	標準貫入試験		
14	242.5	0.05	18.1	有機質シルト	黒灰		粘性中位のシルト主体。 炭化物及び炭化物に富み有機質状呈 す。砂分若干混入。		8/21	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	2.640	2.30	1.80	○	標準貫入試験		
15	241.2	1.15	19.8	シルト質細砂	暗灰		粒子不均一な細砂主体。全体的にシル ト分含有し、炭化物若干混入。所々 10cm以下の硬層でシルト及び細砂状 の玉石混入。含水やや少ない。		8/21	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	2.640	2.30	1.80	○	標準貫入試験		
16	240.3	0.05	20.0	細砂	暗灰		粒子不均一な細砂主体。 含水中位。		8/21	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	2.640	2.30	1.80	○	標準貫入試験		
17	238.7	0.05	21.3	シルト	暗灰		粘性中位やや強いシルト主体。 炭化物混入。22.10～22.35m間細砂 混む。含水少ない。		8/21	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	2.640	2.30	1.80	○	標準貫入試験		
18	237.2	2.45	23.8	細砂	暗灰		粒子不均一な細砂主体。 含水中位。		8/21	12	12	10	34	50	50	50	50	50	50	50	50	50	2.640	2.30	1.80	○	標準貫入試験	
19	236.5	0.70	24.5	粘土	暗褐		粘性やや強い粘土主体。炭化物若干 混入。含水少ない。		8/21	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	2.640	2.30	1.80	○	標準貫入試験		
20	235.9	0.05	25.1	凝灰質粘土	緑灰		粘性強い粘土主体。全体的に凝灰質 状呈す。炭化物若干混入。25.30～25. 45m間細砂。27.05m付近φ50mm 位の硬層入。含水少ない。		8/21	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	2.640	2.30	1.80	○	標準貫入試験		
21	233.3	2.65	27.0	凝灰質細砂	緑灰		φ2～50mm位の礫主体。充填物はシル ト分含有し、炭化物若干混入。炭化物 若干混入。1.80cm以下の玉石多量混 入。2.00m付近、4.00m位の玉石混入。 含水少ない。		8/21	20	30	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	2.640	2.30	1.80	○	標準貫入試験		
22	227.8	3.55	31.0	玉石混入 凝灰質	緑灰		φ2～30mm位の礫主体。充填物はシル ト分含有し、凝灰質状呈す。細砂。 1.70m以下の玉石多量混入。 2.00m付近、4.00m位の玉石混入。 含水少ない。		8/21	24	16	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	2.640	2.30	1.80	○	標準貫入試験		
23	227.8	1.90	33.0						8/21	24	16	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	2.640	2.30	1.80	○	標準貫入試験		



ボーリング位置図 1 / 600



特 記 _____
事 項 _____

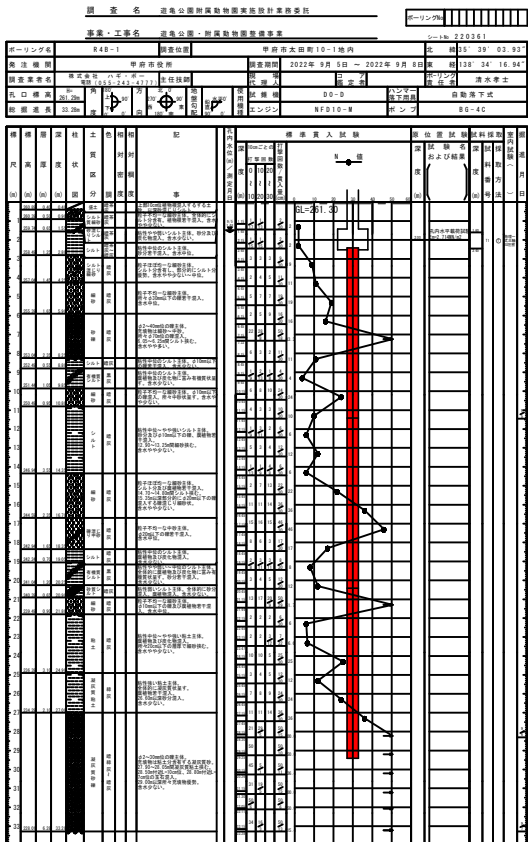


山梨建築設計監理事業協同組合

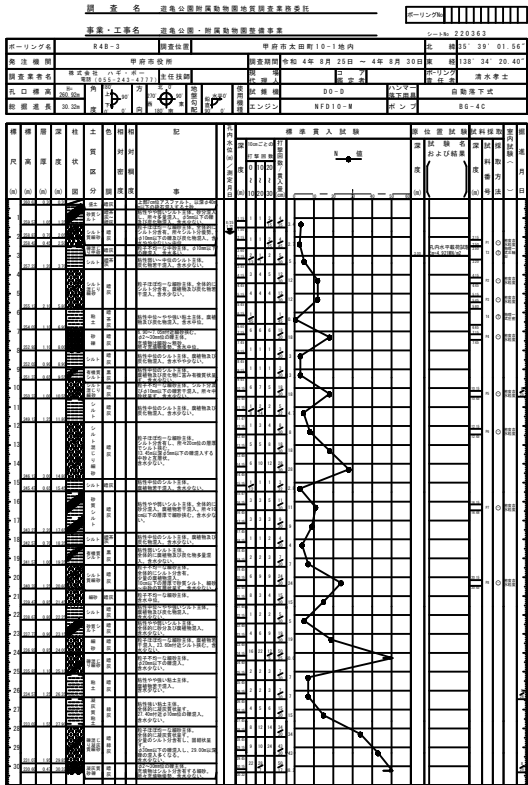
承認	代表設計者	設計担当者	縮 尺
	一級建築士 第145710号 佐野 正秀	一級建築士 第218776号 構造一級建築士 第280号 溝呂木 克人	A1→1/50 A3→1/100 設計年月日

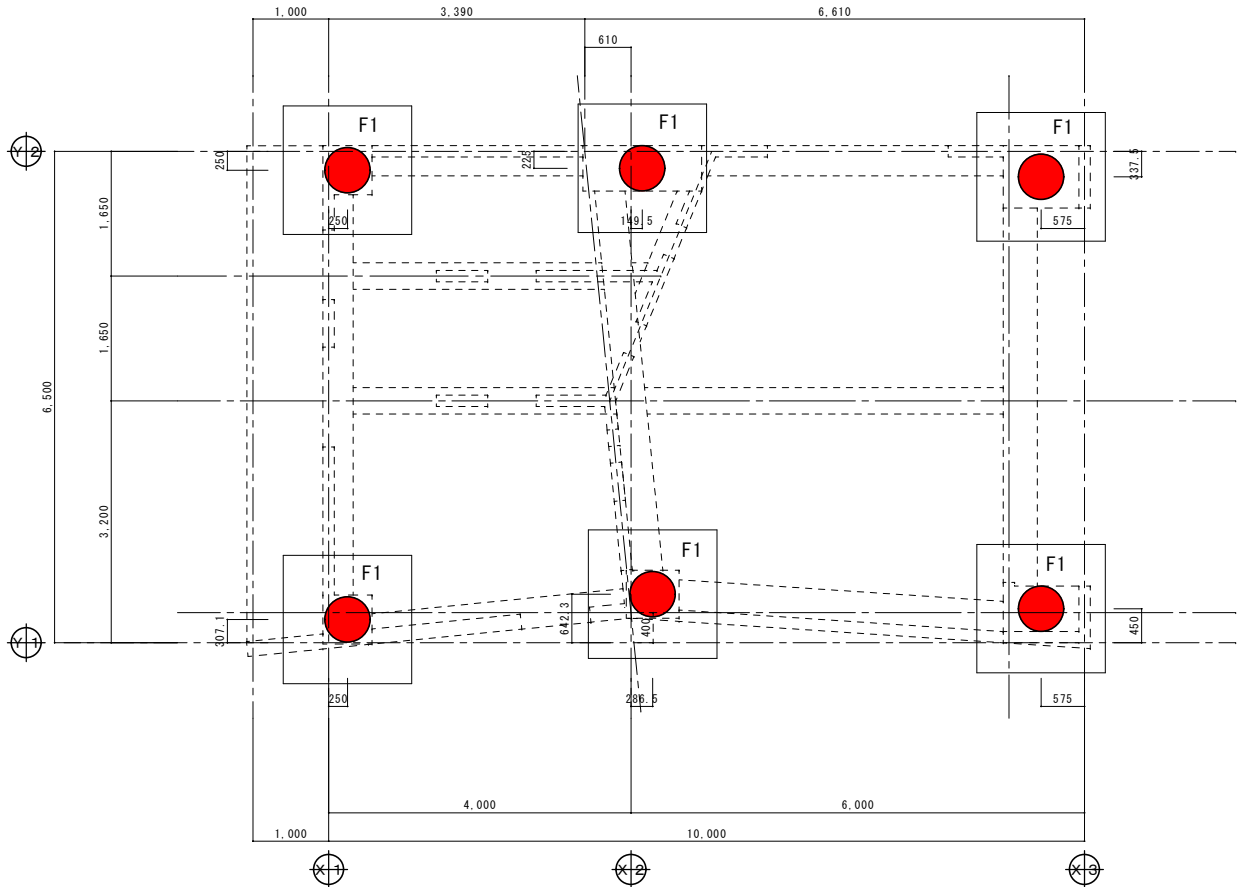
工事名称	遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事 (南一テナガザル舎)
図面名称	地盤調査位置図・地盤柱状図

南テ S-06
No.



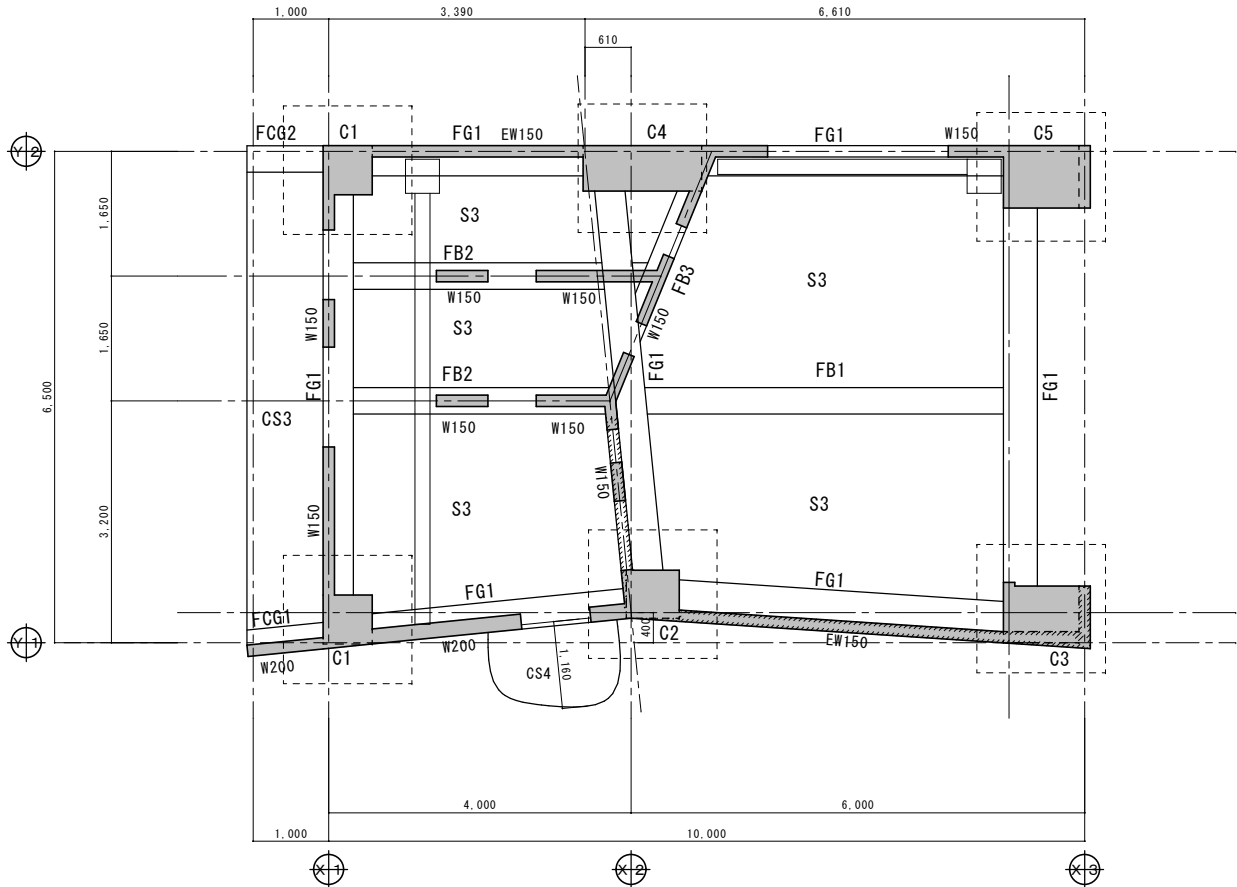
NO - 3





既成コンクリート杭 埋め込み工法 同等工法
CPRC杭
PHC杭 600φ CPRC杭 II種 (9.0m) + PHC杭 A種 (9.0m) + PHC杭 A種 (9.0m)
6本

- ※ 同等工法とみなせる条件
- ・杭耐力 1500KN／本 以上
 - ・杭径および杭長が設計図と等しい。



地中梁ヨコフカシ 部分

特記事項

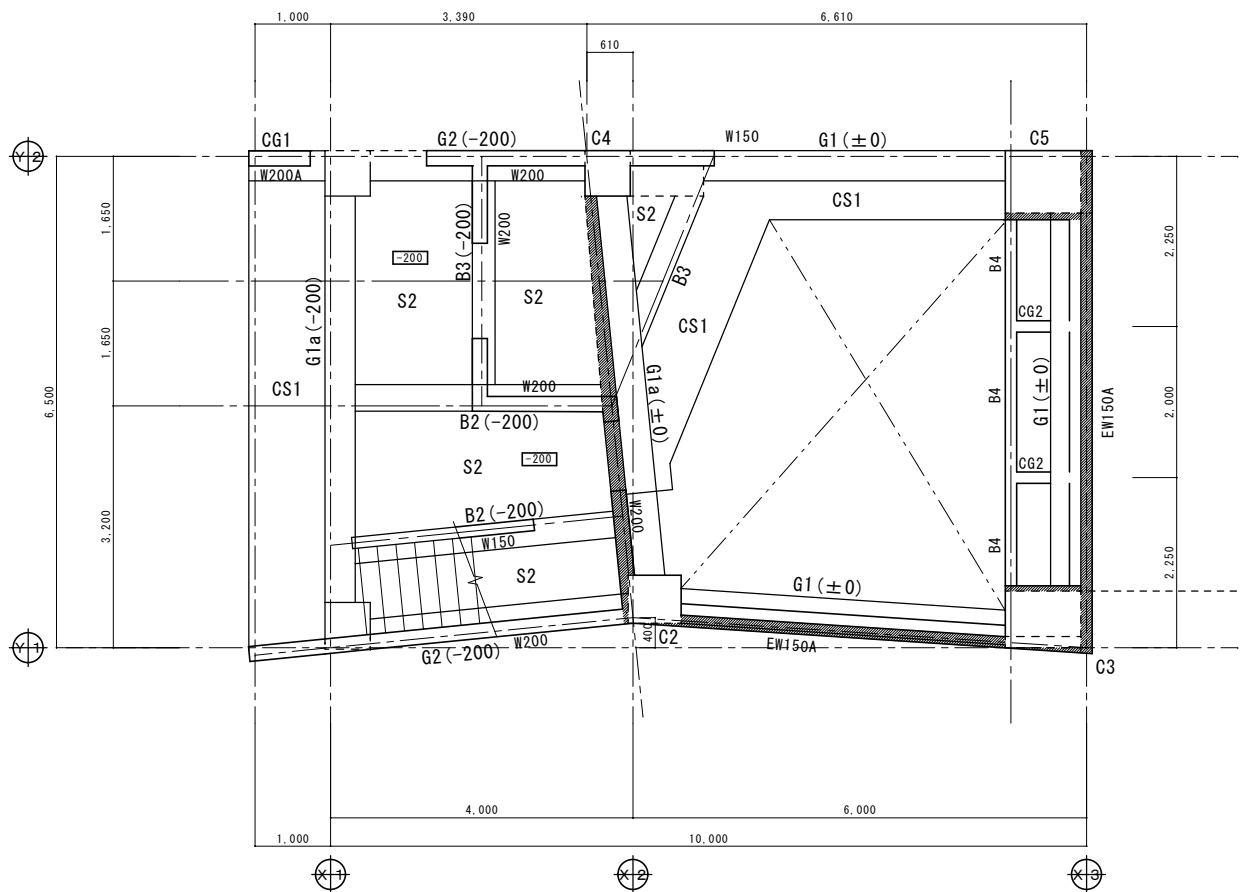


山梨建築設計監理事業協同組合

承認	代表設計者	設計担当者	縮尺
	一級建築士 第145710号 佐野 正秀	一級建築士 第218776号 構造一級建築士 第280号 溝呂木 克人	A1→1/50 A3→1/100 設計年月日

工事名称	遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事 (南—テナガザル舎)
図面名称	杭 伏 図・基 礎 伏 図

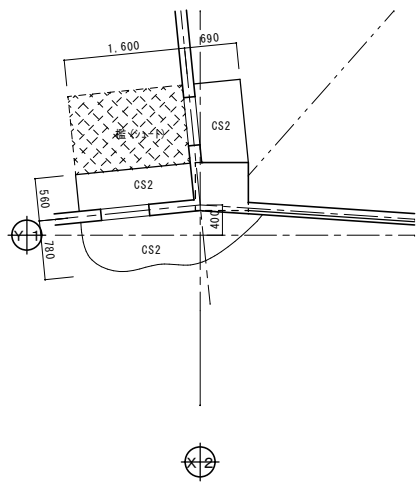
南テ S-07
No.



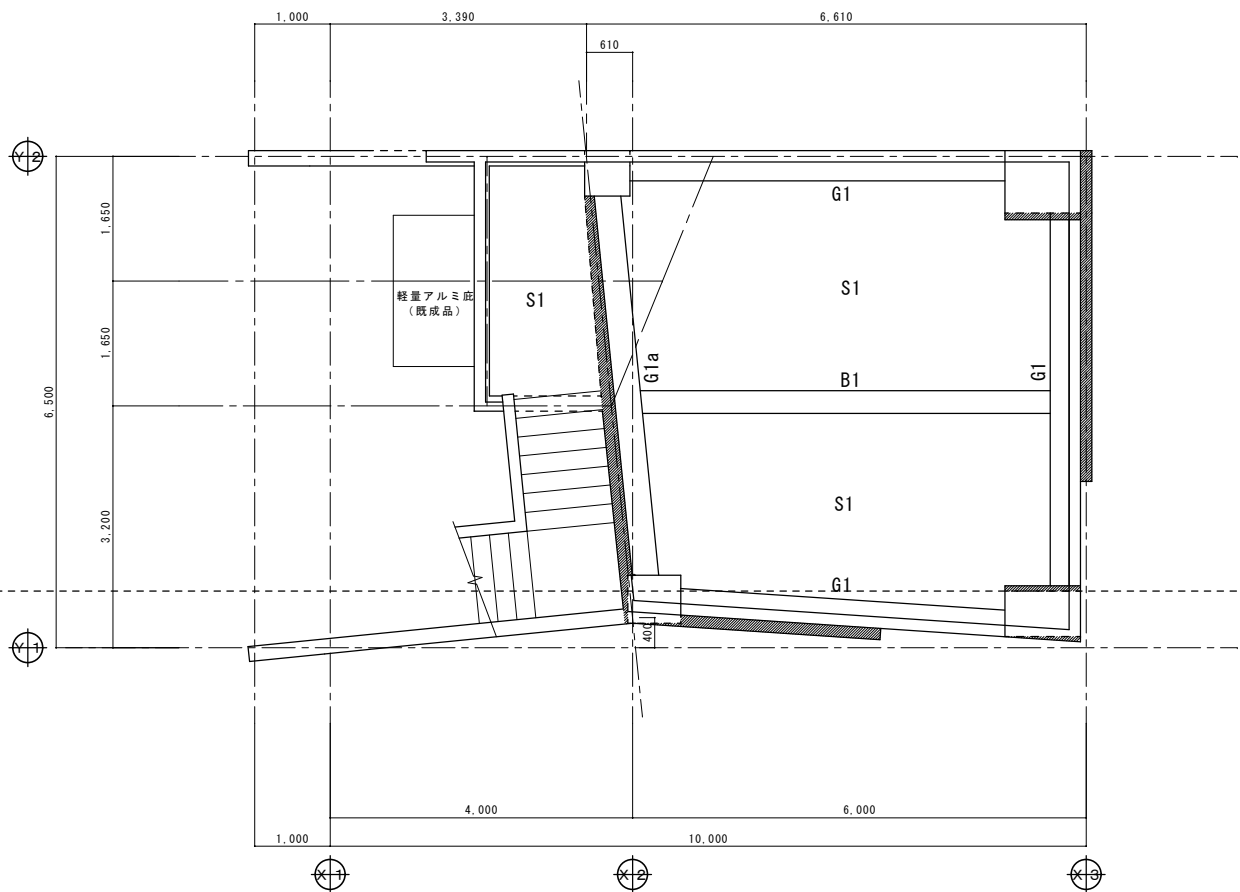
2 階 床 梁 伏 図 1 / 5 0

梁ヨコフカシ 部分

- 特記なき限り下記による
- 床レベル
内数値は、各FLからのスラブ天端を示す。
特記なし：各SL=FL±0
 - 梁レベル
内数値は、各FLからの梁天端レベルを示す。
特記なし 各FL±0
 - 特記なき壁はW150を示す。



2FL-1470 床 伏 図 1 / 5 0



R 階 床 梁 伏 図 1 / 5 0

- 特記なき限り下記による
- 床レベル
内数値は、各FLからのスラブ天端を示す。
特記なし：各SL=FL-170
 - 梁レベル
内数値は、各FLからの梁天端レベルを示す。
特記なし 各FL-170

特 記
事 項

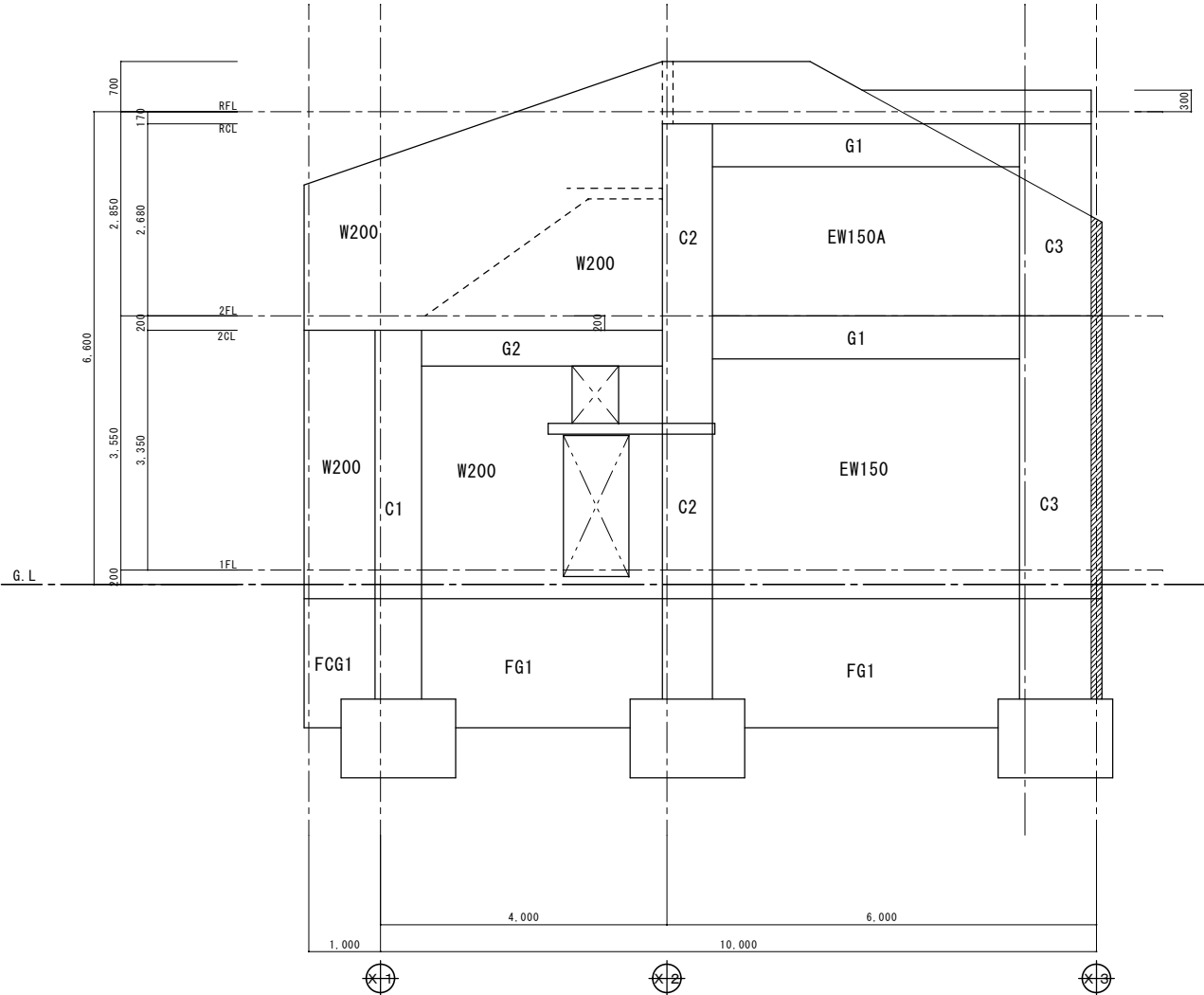


山梨建築設計監理事業協同組合

承認	代表設計者	設計担当者	縮 尺
	一級建築士 第145710号 佐野 正秀	一級建築士 第218776号 構造一級建築士 第280号 溝呂木 克人	A1→1/50 A3→1/100 設計年月日

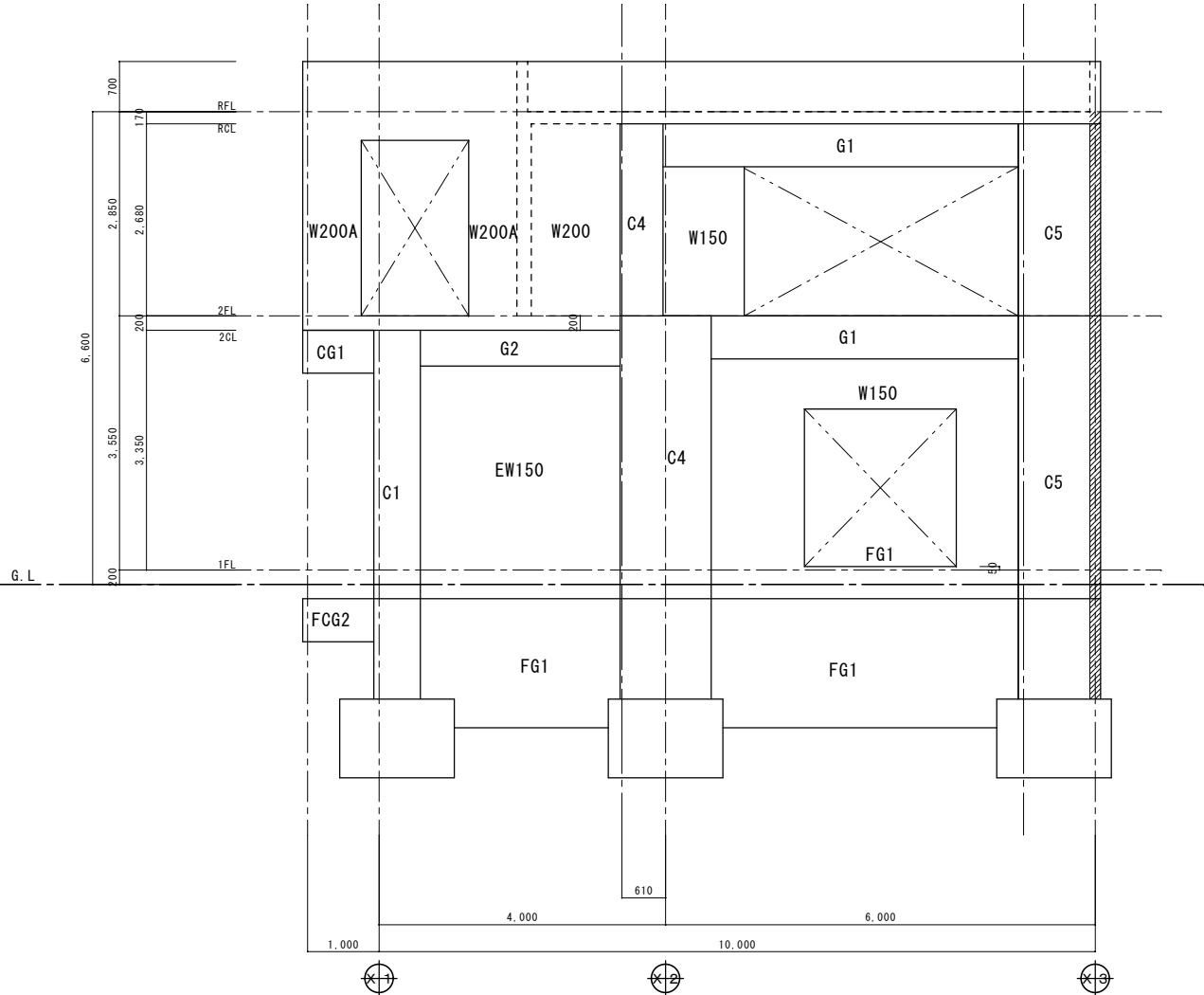
工事名称	遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事 (南テナガザル舎)
図面名称	2～R階 床梁伏図

南テ S-08
No.



Y 1 通り軸組図 1/50

柱フカシ 部分



Y 2 通り軸組図 1/50

柱フカシ 部分

特記事項	



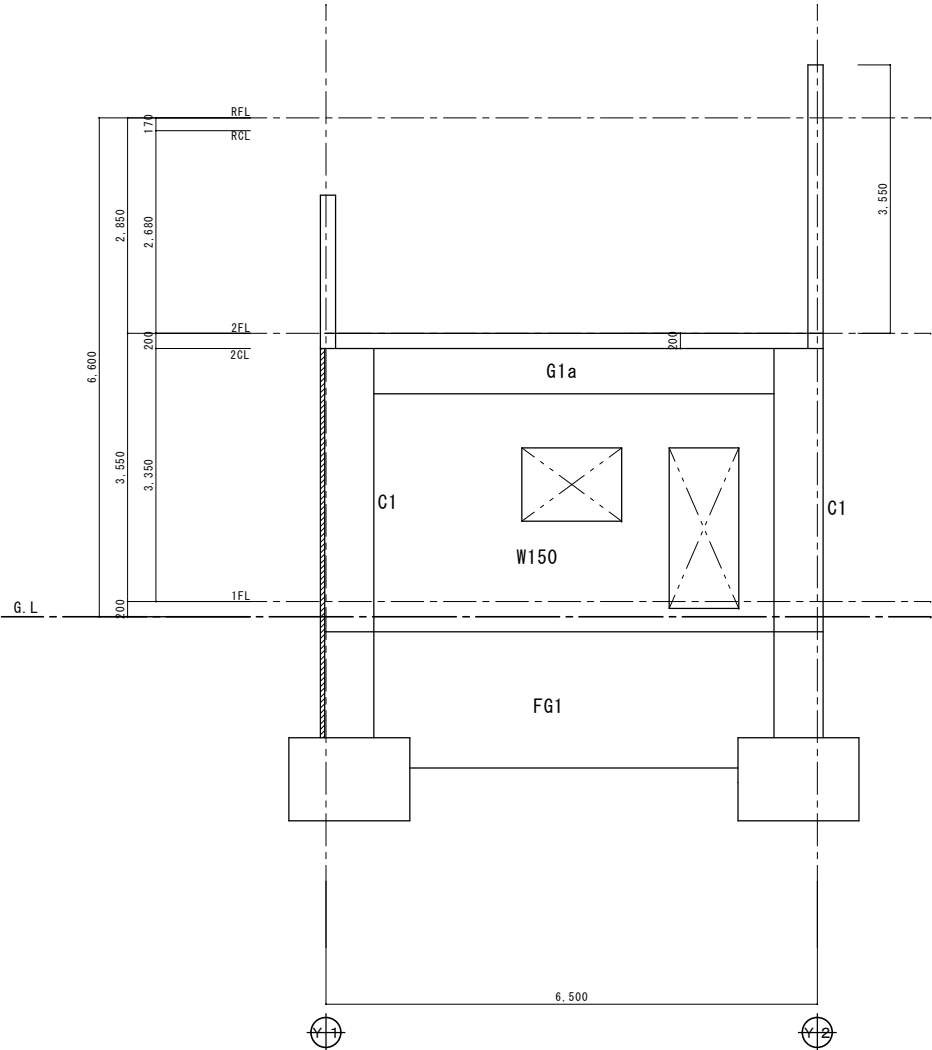
山梨建築設計監理事業協同組合

承認	設計	担当

縮尺
A1→1/50 A3→1/100
設計年月日

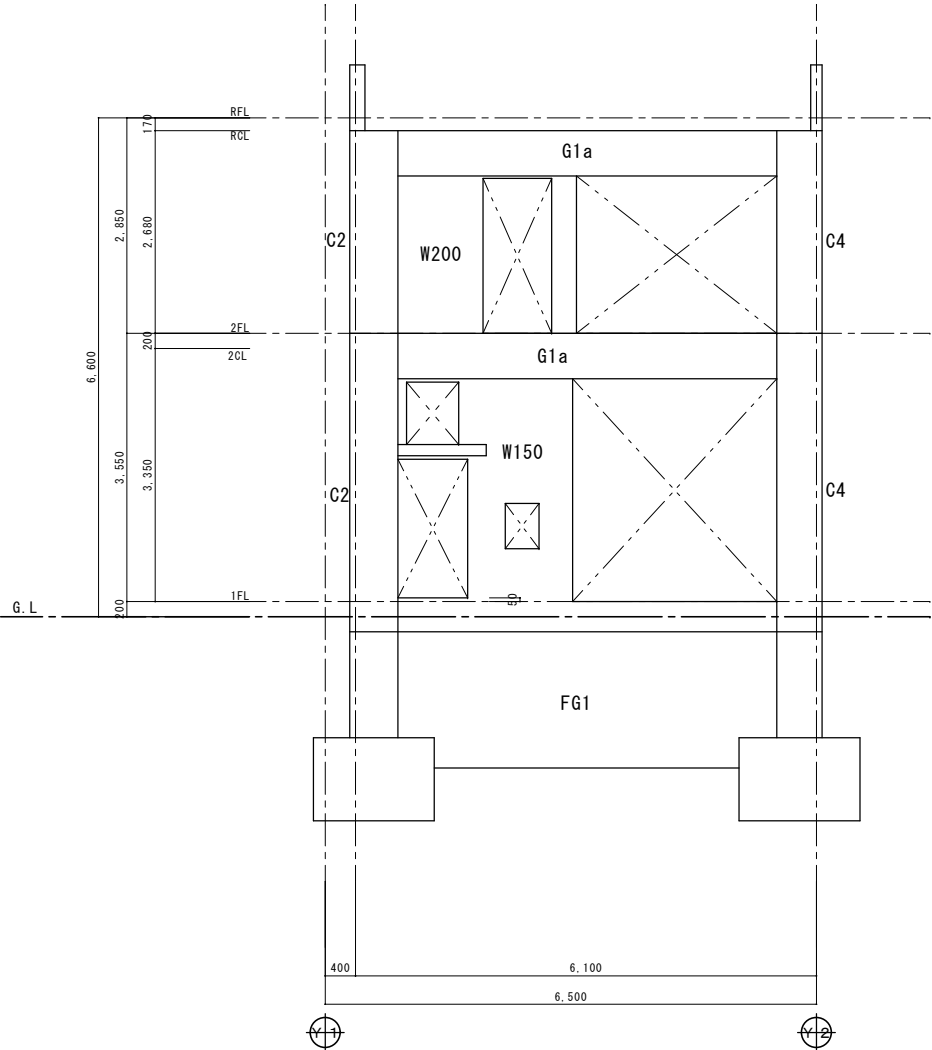
工事名称	遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事 (南テナガザル舎)
図面名称	Y1～2通り 軸組図

南テ S-09 No.



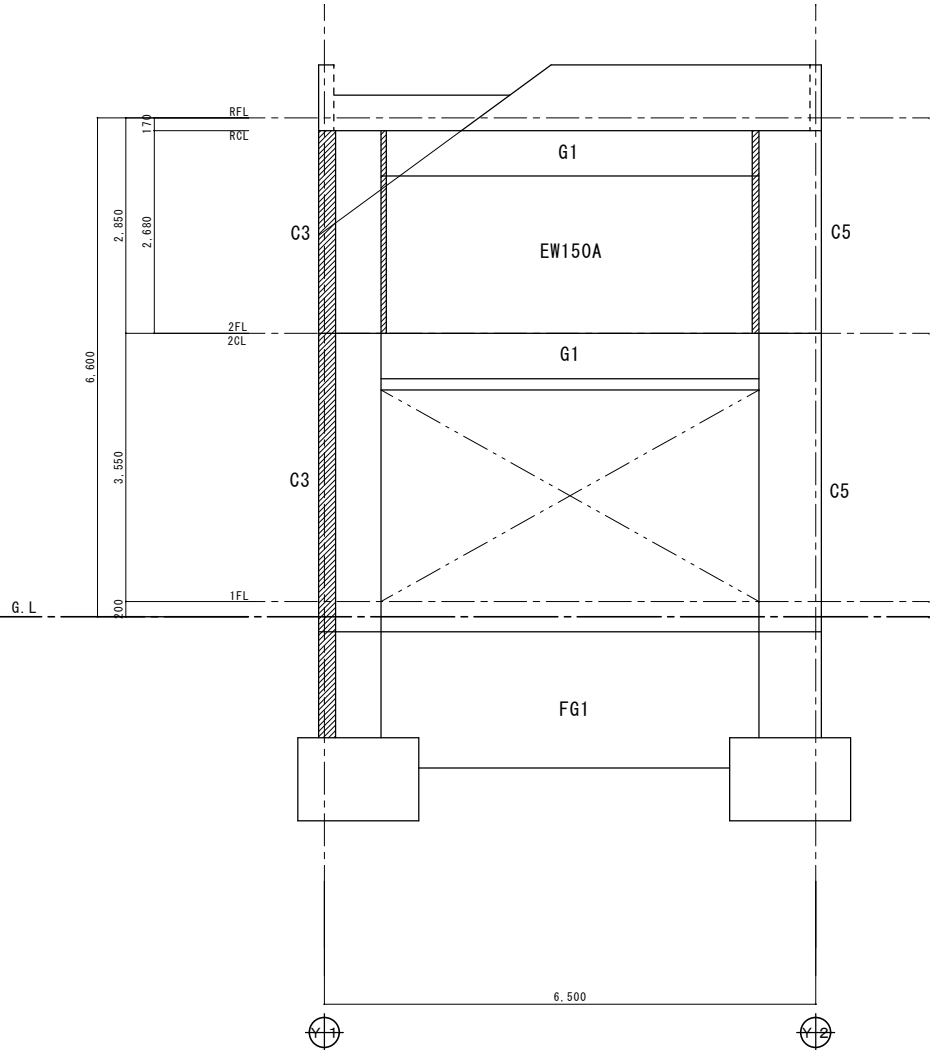
X 1 通り軸組図 1/50

柱フカシ 部分



X 2 通り軸組図 1/50

柱フカシ 部分



X 3 通り軸組図 1/50

柱フカシ 部分

特記事項



山梨建築設計監理事業協同組合

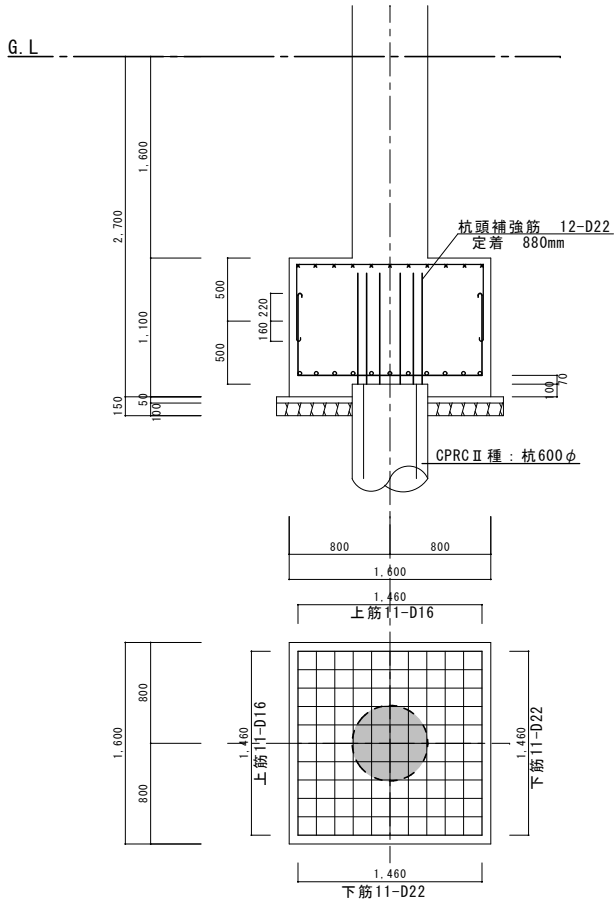
承認
代表設計者
設計担当者
一級建築士
第145710号
佐野 正秀
一級建築士
第218776号
構造一級建築士
第280号
溝呂木 克人

縮尺
A1→1/50 A3→1/100
設計年月日

工事名称
遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事
(南テナガザル舎)
図面名称
X1～3通り 軸組図

南テ S-10
No.

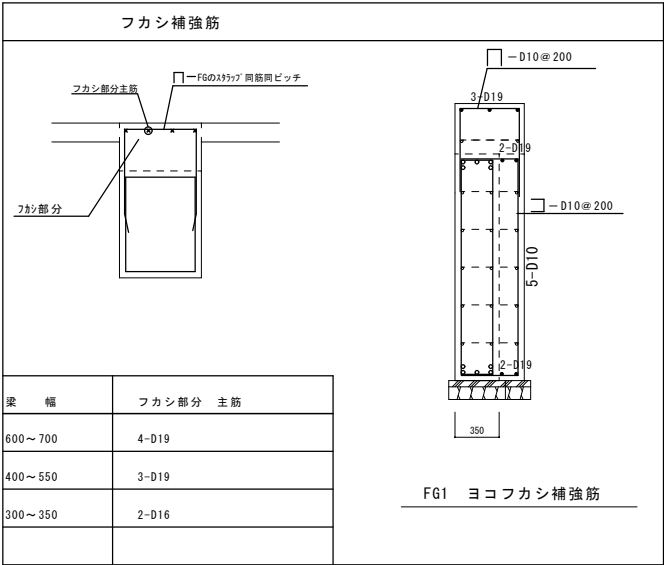
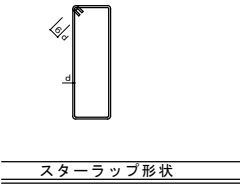
F 1



基礎リスト 1/30

地 中 梁 リ ス ト 1/30

符 号	F G 1	F C G 1	F C G 2	F B 1	F B 2
位 置	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面
断 面					
B × D	350×1800	350×1800	350×600	350×700	350×550
上 端 筋	5-D25	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22
下 端 筋	5-D25	3-D22	2-D22	5-D22	3-D22
スターラップ	D10@200	D10@200	D10@200	D10@200	D10@200
腰 筋	10-D10	10-D10	2-D10	2-D10	
巾 止 筋	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	



梁 幅	フカシ部分 主筋
600～700	4-D19
400～550	3-D19
300～350	2-D16

F61 ヨコフカシ補強筋

特 記
事 項

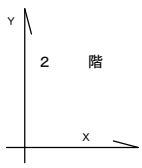
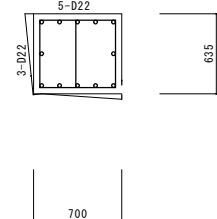
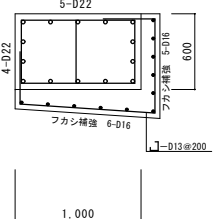
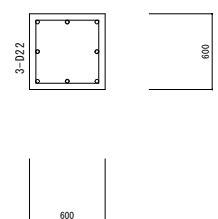
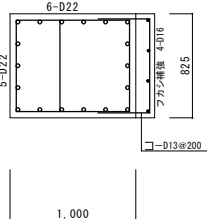
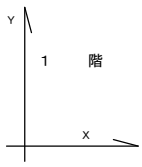
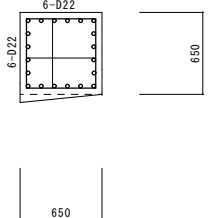
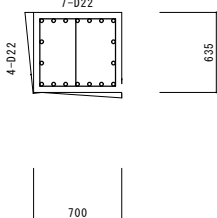
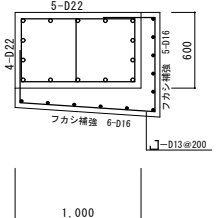
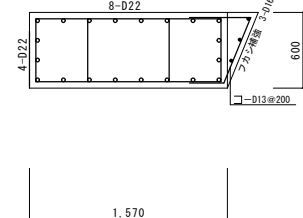
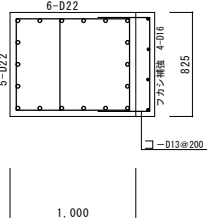



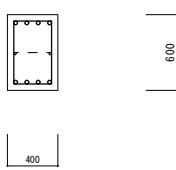
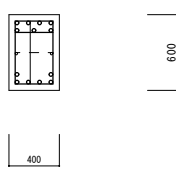
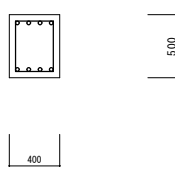
山梨建築設計監理事業協同組合


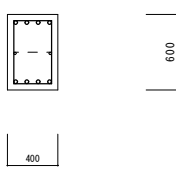
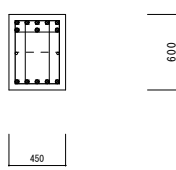
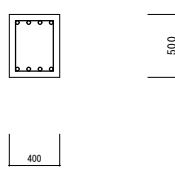
承認
代表設計者
設計担当者
縮 尺
A1→1/30 A3→1/60
設計年月日

工事名称
図面名称
遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事
(南テナガザル舎)
基礎リスト・地中梁リスト

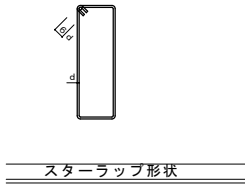
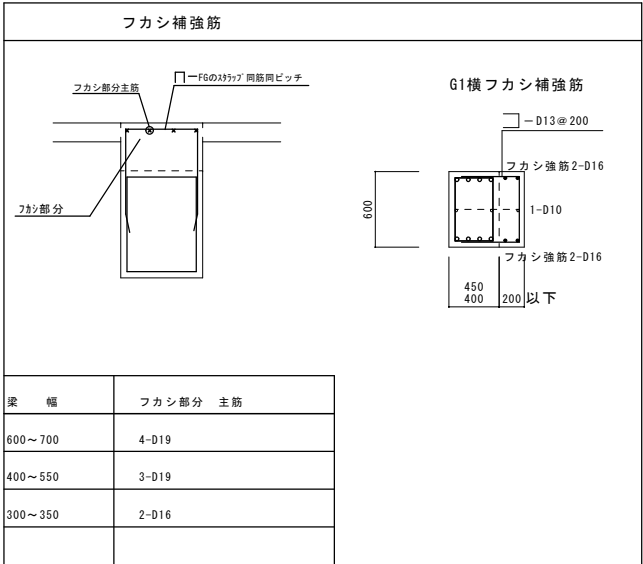
南テ S-11
No.

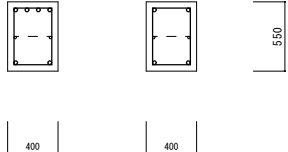
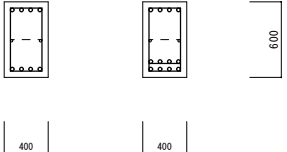
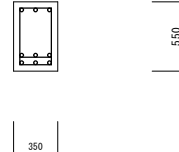
符 号	C 1	C 2	C 3	C 4	C 5
					
D x × D y		700 × 635	1000 × 600	600 × 600	1000 × 825
主 筋		12-D22	14-D22	8-D22	18-D22
HOOP		□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100
					
D x × D y	650 × 550	700 × 635	1000 × 600	1570 × 600	1000 × 825
主 筋	20-D22	18-D22	14-D22	20-D22	18-D22
HOOP	田-D13#100	田-D13#100	田-D13#100	田-D13#100	田-D13#100

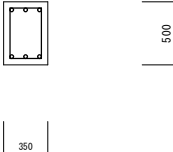
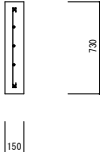
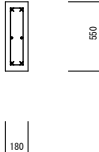
符 号	G 1	G 1 a	G 2
位 置	全 断 面	全 断 面	全 断 面
			
B × D	400 × 600	400 × 600	400 × 500
上 端 筋	4-D22	7-D22	4-D22
下 端 筋	4-D22	6-D22	4-D22
スターラップ	D13#200	3-D13#200	D13#200
腰 筋	2-D10	2-D10	
巾 止 筋	D10#1000	D10#1000	

符 号	G 1	G 1 a	G 2
位 置	全 断 面	全 断 面	全 断 面
			
B × D	400 × 600	450 × 600	400 × 500
上 端 筋	4-D22	8-D25	4-D22
下 端 筋	4-D22	5-D25	4-D22
スターラップ	D13#200	4-D13#200	D13#200
腰 筋	2-D10	2-D10	
巾 止 筋	D10#1000	D10#1000	

※ 註：2G1a のみ主筋径 D25

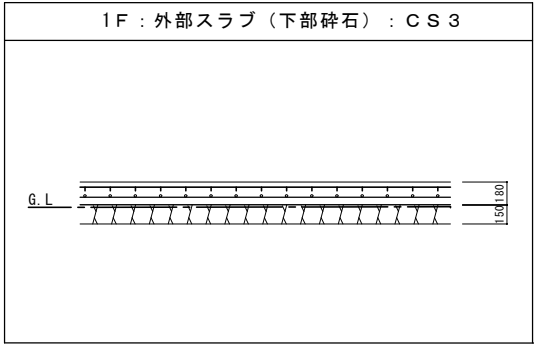
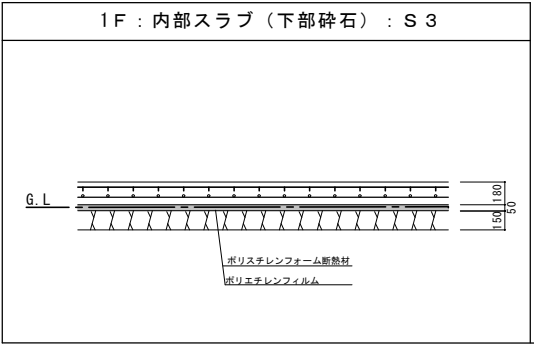


符 号	C G 1		B 1		B 2
位 置	基 端 部 先 端 部		端 部 中 央		全 断 面
断 面					
	※ 腰筋は柱に40d定着				
B × D	400 × 550	400 × 550	400 × 600	400 × 600	350 × 550
上 端 筋	4-D22	2-D22	4-D22	4-D22	3-D22
下 端 筋	2-D22	2-D22	4-D22	8-D22	6-D22
スターラップ	D13#150	D13#150	D13#200	D13#200	D10#200
腰 筋	2-D13	2-D13	2-D10	2-D10	
巾 止 筋	D10#1000	D10#1000	D10#800	D10#800	

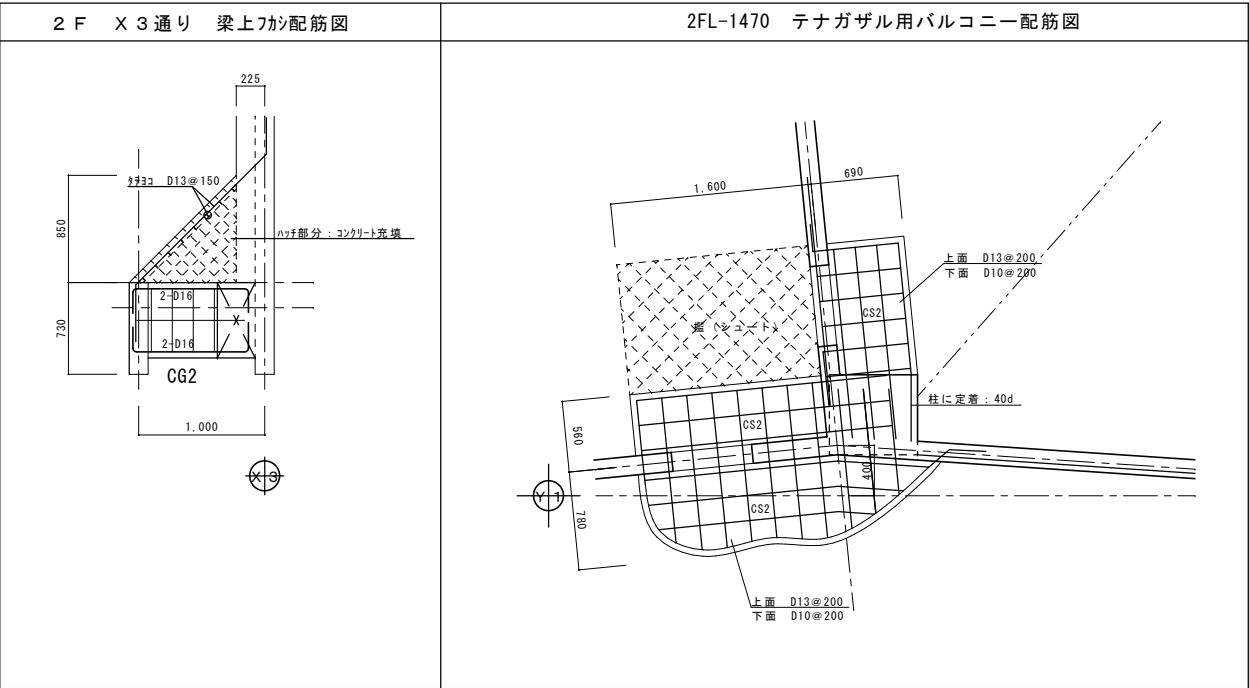
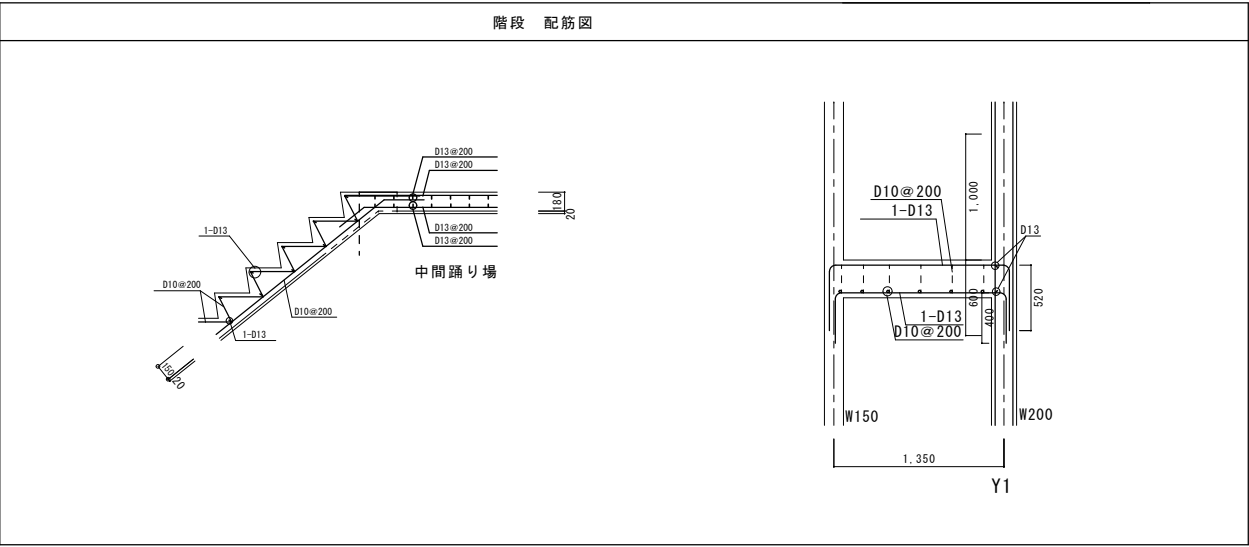
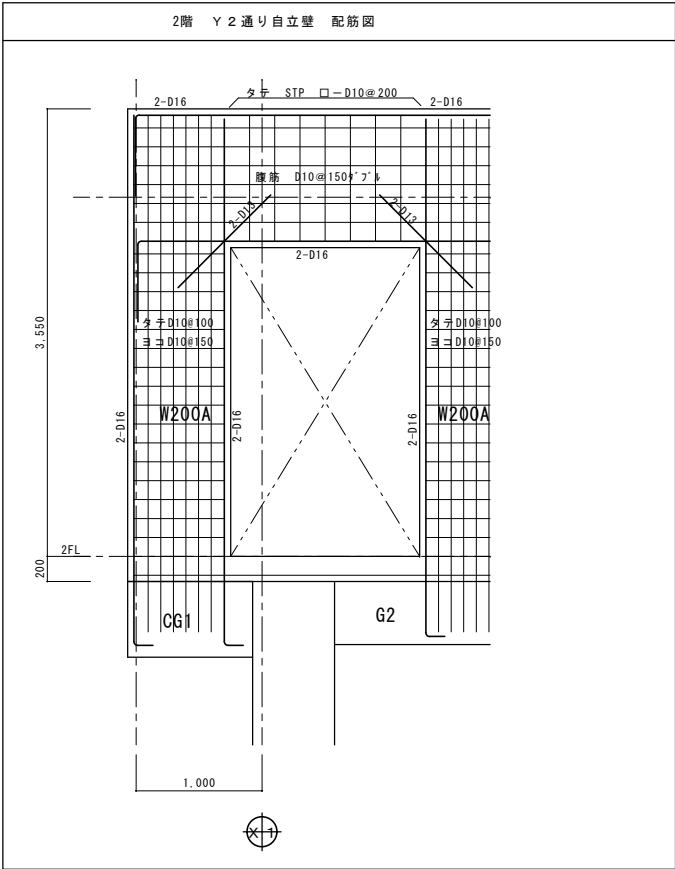
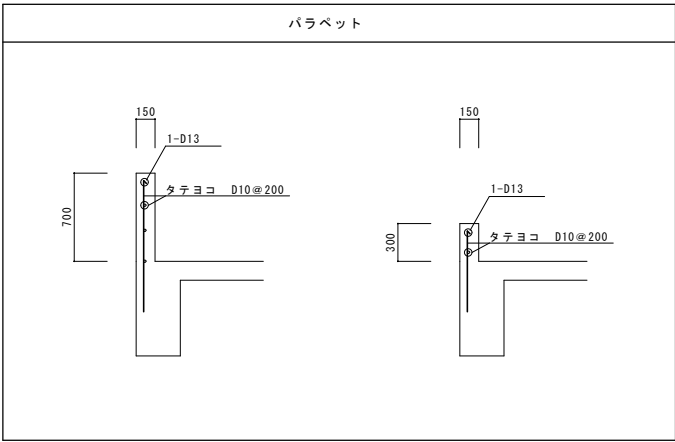
符 号	B 3	B 4	C G 2	
位 置	全 断 面	全 断 面	全 断 面	
断 面				
	B × D	350 × 500	150 × 730	180 × 550
	上 端 筋	3-D22	1-D16	2-D16
	下 端 筋	3-D22	1-D16	2-D16
スターラップ	D10@200	D10@200	D10@200	
腰 筋		3-D10	2-D10	
巾 止 筋			D10@1000	

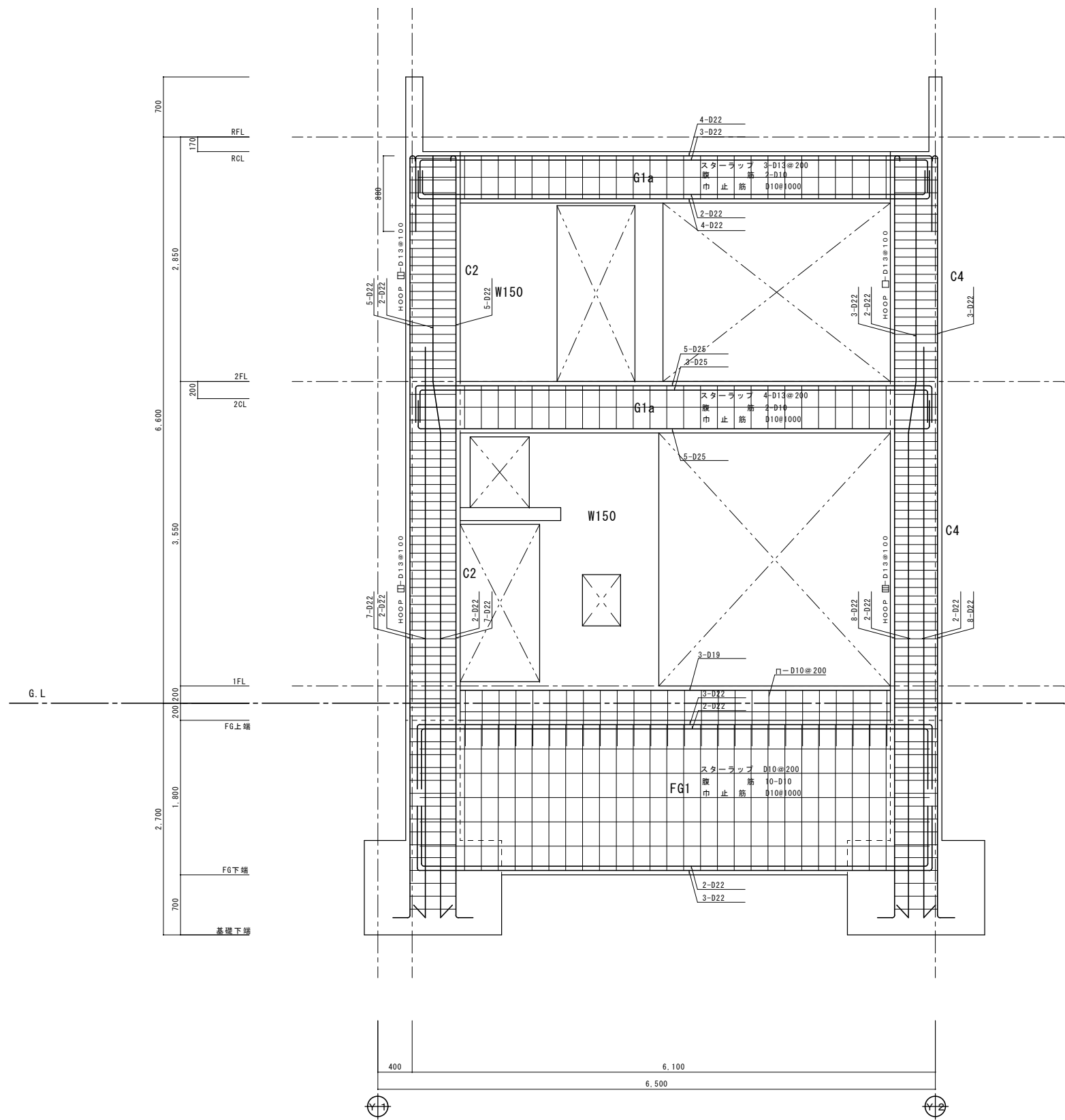
※ R階スラブは配筋標準図（2）8-（2）に従い隅部に補強筋を配筋する。
※ スラブフカシ厚、箇所は意匠図による。

符 号	板 厚	位 置	短 辺 方 向	長 辺 方 向
S 1	150	上 筋	D13#150	D13#150
		下 筋	D10#150	D10#150
S 2	150	上 筋	D13#200	D13#200
		下 筋	D10#200	D10#200
S 3	180	上 筋	D13#200	D13#200
		下 筋	D10#200	D10#200
CS 1	150	上 筋	D13#200	D13#200
		下 筋	D10#200	D10#200
CS 2	150	上 筋	D13#200	D13#200
		下 筋	D10#200	D10#200
CS 3	180	上 筋	D13#200	D13#200
		下 筋	D10#200	D10#200
CS 4	150	上 筋	D13#200	D13#200
		下 筋	D10#200	D10#200



符 号	W 2 0 0 A	W 2 0 0	W 1 5 0	EW 1 5 0 A	EW 1 5 0	開口補強筋
断 面						
タ テ 筋	D 1 0 - @ 1 0 0 ダブル	D 1 0 - @ 2 0 0 ダブル	D 1 0 - @ 2 5 0 ダブル・チドリ	D 1 0 - @ 2 0 0 ダブル	D 1 0 - @ 2 0 0 ダブル	
ヨ コ 筋	D 1 0 - @ 1 5 0 ダブル	D 1 0 - @ 2 0 0 ダブル	D 1 0 - @ 2 5 0 ダブル・チドリ	D 1 0 - @ 2 0 0 ダブル	D 1 0 - @ 2 0 0 ダブル	
開口補強筋 タテ	2 - D 1 6	2 - D 1 6	2 - D 1 3	2 - D 1 3	2 - D 1 3	a
開口補強筋 ヨコ	2 - D 1 6	2 - D 1 6	2 - D 1 3	2 - D 1 3	2 - D 1 3	b
開口補強筋 斜メ	2 - D 1 3	2 - D 1 3	2 - D 1 3	2 - D 1 3	2 - D 1 3	c





特記事項



山梨建築設計監理事業協同組合

承認	代表設計者	設計担当者	縮尺
	一級建築士 第145710号 佐野 正秀	一級建築士 第218776号 構造一級建築士 第280号 溝呂木 克人	A1→1/30 A3→1/60 設計年月日

工事名称	遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備(建築主体)工事 (南テナガザル舎)
図面名称	X 2 通り 配筋詳細図

南テ S-14
No.